

令和4年度（2022年度）

公立黒川病院年報

第7号

公立黒川病院

公立黒川病院年報
2022年度

I. 基本理念

すべては地域の皆さんのために

「公立黒川病院は職員が一丸となって、地域住民の皆さん一人一人の思いにお応えできるよう、安全で安心、良質な医療サービスを提供します。」

目次

I. 基本理念	2
II. 巻頭言	
公立黒川病院 管理者	角田 浩
	6
III. 特集	
「黒川病院の COVID-19 対策の歴史（2） 2022年2月 第6波ピーク期 — 2023年6月 5類移行後まで」	
公立黒川病院 副管理者	南家 俊介
	7
IV. 病院概要	
1. 沿革	12
2. 概要	15
3. 組織図	17
4. 交通アクセス	18
V. 業務報告	
1. 診療部	
内科	19
外科	21
整形外科	22
泌尿器科	23
小児科	24
婦人科	26
麻酔科	27
眼科、耳鼻いんこう科、皮膚科	29
2. 看護部	
総論	30
第1病棟（地域包括ケア病棟）	35
第2病棟（急性期病棟）	36
第3病棟（回復期リハビリテーション病棟）	37
外来	38
手術室・中央材料室	39
くろかわ訪問看護ステーション	40
通所リハビリセンター	41
病後児保育室	42
看護の質委員会	43
記録委員会	44

臨床指導者委員会	45
看護部教育委員会	46
3. 医療技術部	
薬剤室	47
臨床検査室	48
栄養室	50
リハビリテーション室	51
放射線室	55
居宅介護支援事業所	56
4. 事務部・その他	
総務課	57
医事課	58
経営企画室	59
5. 直轄部門	
医療安全管理室	60
健康診断室	61
地域連携室	62
患者サポート室	63
医療社会事業課	64

VI. 委員会報告

防災対策委員会	65
医療ガス安全委員会	66
情報委員会	67
広報委員会	68
医療安全管理委員会	69
院内感染防止対策委員会	70
診療録／コーディング委員会	71
輸血委員会	73
臨床検査適正化委員会	74
褥瘡対策委員会	75
栄養委員会	77
薬事委員会	78
医療機器・材料選定委員会	79
院内研修委員会	80
健診運営委員会	81

認知症ケア委員会	82
排尿ケア委員会	83
衛生委員会	84
医療安全 リスクマネージャー会議	85
業務改善委員会	86
化学療法委員会	87
クリニカルパス委員会	88
保険診療委員会	89
親睦会	90
VII. 統計資料	
1. 経営状況	91
2. 診療状況	92
3. 健診統計	93
4. 医療機器整備一覧	94
VIII. 研究学術業績	
1. 論文	95
2. 講演・発表	95
IX. 臨床教育	96
X. 地域貢献	
1. 糖尿病教室	97
2. 医師・職員派遣	98
3. 地域包括ケアシステム構築	99
4. 福祉ネイル・爪ケア外来	101
5. 小児科の地域貢献	103
6. 出前講座・黒川連携の会・にじの会・訪問ペリ 芋煮会	105
XI. 広報誌	
1. 緑風	106
2. みどり通信	107
3. 栄養室広報	108
4. 回復期リハだより	109
5. ホームページ	110
XII. 資料	

Ⅱ. 巻頭言

「たまたまへの感謝」

管理者 角田 浩

私が9歳の時のアニメの話である。「ハクション大魔王」というアニメがあった。アラジン魔法のランプはランプをこすった人がご主人様となり、ランプから出てくる魔人が願い事をかなえてくれるがハクション大魔王はクシャミをすると壺の中から「呼ばれて飛び出て ジャジャジャジャー」と飛び出てきて、呼び出した者（ご主人様）の願い事を叶えてくれるわけである。主人公のカンちゃんは、くしゃみで大魔王をよびだし、願い事を叶えさせようとするが、大魔王の魔法は役に立たないばかりか失敗の連続。更にあくびをすれば、大魔王の娘のアクビちゃんも壺から飛び出して、ご主人様の言うことも聞かずにイタズラしまくる。このハチャメチャなアニメが大好きだった。

こんな奇想天外な物語をどうやって思いついたのだろうと興味を持ち、思いついたご本人、笹川ひろしさんの「ぶたもおだてりゃ木にのぼる」という自伝を読んだ。

これがまた面白いのである。タツノコプロの吉田社長と笹川ひろしさんが旅行に出かけ、泊まった宿で太ったおじさんが浴場で大きなくしゃみをしたらしい。びっくりしてぶっ飛ばすほどの突然で大きなくしゃみだったとのことである。

その時、笹川ひろしさんの脳裏に稲妻が走り、常日頃から考えていたもやもやとしたギャグ作品のアイデアの導火線に火がつき、たまっていたアイデアに爆発を起こし、次々と付随するアイデアが浮かんだとのことである。

たまたま旅行に行き、たまたまその時間に風呂に行き、たまたまそこで大きなくしゃみと遭遇したことであの「ハクション大魔王」が誕生したわけである。

2018年ノーベル生理学・医学賞受賞である本庶佑先生は「偶然を見逃さないことも、科学研究では大切です」とおっしゃっている。たまたまのくしゃみをあの名作アニメに昇華させるのだから、笹川ひろしさんは本当に素晴らしいし、そうなるように常にアイデアを考えておられたのだと思う。

私もたまたま黒川病院に勤務することになり、たくさんの人と毎日お会いしている。たまたまの出会いの連続である。人と会うのが楽しくて好きな私は実に楽しい「たまたま」である。今年度もたまたま（実は必然かもしれないが）お会いするたくさんの人々との交流に感謝し、楽しんで糧にしていきたい。

ここにこの一年の黒川病院の活動の記録がある。なんとか運営できているのは病院内外のたくさんの方々の努力や協力のおかげである。心から感謝したい。ここまで飽きないであくびが出ない状態で読んでいただければこの巻頭言もたまたま成功！かな、と思われる。

Ⅲ. 特集

「黒川病院の COVID-19 対策の歴史（2）」

2022 年 2 月 第 6 波ピーク期 — 2023 年 6 月 5 類移行後まで」

副管理者 南家 俊介

期間の概要

上記期間には日本全国でオミクロン株が猛威を振るい、第 6 波から第 8 波までが含まれる。人口の 4 割以上がこの期間に感染したと推定される。一方で重症肺炎になる割合は減り、特に若年層では軽症や無症状の割合が増加、全体の死亡率は低下した。しかし感染者数が膨大になったため、主に高齢者の現病悪化などによるコロナ関連死亡者数は増加した。期間の最終盤にはマスク緩和や 5 類移行などの政策がとられた。

医療機関や介護施設でのクラスター発生が相次ぎ、医療ひっ迫宣言等が相次いで発出された。幸い黒川病院でクラスターが発生することはなかったが、患者・職員の感染/濃厚接触が相次ぎ対応に迫られた。院内感染も数件起こったが、想定された範囲を超えて感染が拡大することなく個別に沈静化した。

2022 年年末には宮城県はコロナ感染は診断した医療機関が入院対応を行うように方針を変更した。これによりコロナ回復後の患者を受け入れてきた当院もコロナ感染した患者の入院受入を余儀なくされた。

1) 院内感染対策

基本的な院内感染対策は前年度から継続となった。

流行株がオミクロン株に切り替わり、ワクチン接種が進んだことで重症化率は大きく低下した。一方で若年層を中心に大流行となった。

院内持ち込み対策として発熱者の入館禁止と発熱外来への誘導、入院患者前例の感染チェック、入院病棟での面会の禁止などが継続された。

流行の急拡大に伴い、感染状況が常時ステージⅣをはるかに上回るようになって地域の感染状況によるステージ分類がほとんど意味をなさなくなった。院内感染対策の中心は感染者/濃厚接触者の早期発見と隔離に切り替わった。濃厚接触者/接触者の基準が作成され、各部署で感染者が発生したときに速やかに感染者の隔離/濃厚接触者・接触者の洗いだしと経過観察が行われる体制に移行した。

2022 年 1 月以降、職員家族・職員の感染が相次いで発生した。

2022 年 3 月～5 月にかけて第 6 波での病棟スタッフの感染が多数あり。4 月末から

5月にかけては病棟内で二次感染・三次感染を引き起こし病棟間の移動制限や一部病棟への入院を制限する事態となった。しかし、濃厚接触者・接触者として把握している範囲を超えて感染が拡大することはなく、クラスター化せずに感染は終息した。近隣医療機関/介護施設でのクラスター発生の方向が相次いだ。

その後7月の第7波、11月の第8波と大きな流行になるたびに職員・職員家族の感染がみられたが、院内での二次感染・三次感染に発展したケースはすくなく、クラスター化は起こさなかった。

2) 公衆衛生活動

① 発熱外来

期間中、ほぼ常時平日午前午後の発熱外来は継続した。2022年12月下旬から1月初めまでの一時期のみ、医師の感染/濃厚接触が相次いで人手不足となり発熱外来を閉鎖した。この期間の月間受診者は概ね140-340人程度。特に2022年7月-8月に受診者数/陽性率とも大変高くなった。(→グラフ1)

2022年4月~2023年3月までの1年間で発熱外来受診者は延2685人、陽性者603人、陽性率22.5%であった。

② ドライブスルーPCR

行政委託の検体採取を行ってきたが、流行の拡大により濃厚接触者・接触者へのPCR検査が意味をなさなくなったため終了した。妊婦検査のみ継続しているが受診者は極めてまれ

③ ワクチン個別接種

2022年4月末まで3回目接種を継続した。

2022年6月から9月中旬まで4回目接種。

2022年10月から12月末まで5回目接種。

この期間にオミクロン対応ワクチンに変更。さらに10月下旬にはオミクロンBA4/5対応ワクチンに変更した。

2023年5月から6回目ワクチン開始(→グラフ2)

2022年4月から2023年3月までのワクチン接種数は1848件であった

3) COVID-19患者の受入れ

① 感染者の受入れ

行政からの要請を受けているが、病院の構造上病棟のゾーニングが困難で受入不能と返答していた。第8波の感染急拡大により2022年11月30日に宮城県か医療ひっ迫宣言を発出。コロナ感染者については診断した医療機関が入院を受け入れる

ように要請を行った。これに伴い、在宅患者等のコロナ患者受け入れの方法を検討し準備することとなった。ゾーニング困難で陰圧も保てないことは判明しており、積極的な受け入れは困難であるが、いざというときに備えてナースステーション近くの個室を利用できるように準備を行った。

2022年12月16日にコロナ患者の入院1例目あり。その後も入院を受け入れることとなった。

- ② COVID-19回復者の受入れについては近隣医療機関等から継続して受け入れを行っている。

4) その他事業

① オンライン面会

期間中継続して利用があった。場所についてはプレハブや院内食堂跡地などを利用した。

② オンライン診療

継続して希望者へのオンライン診療を行った。

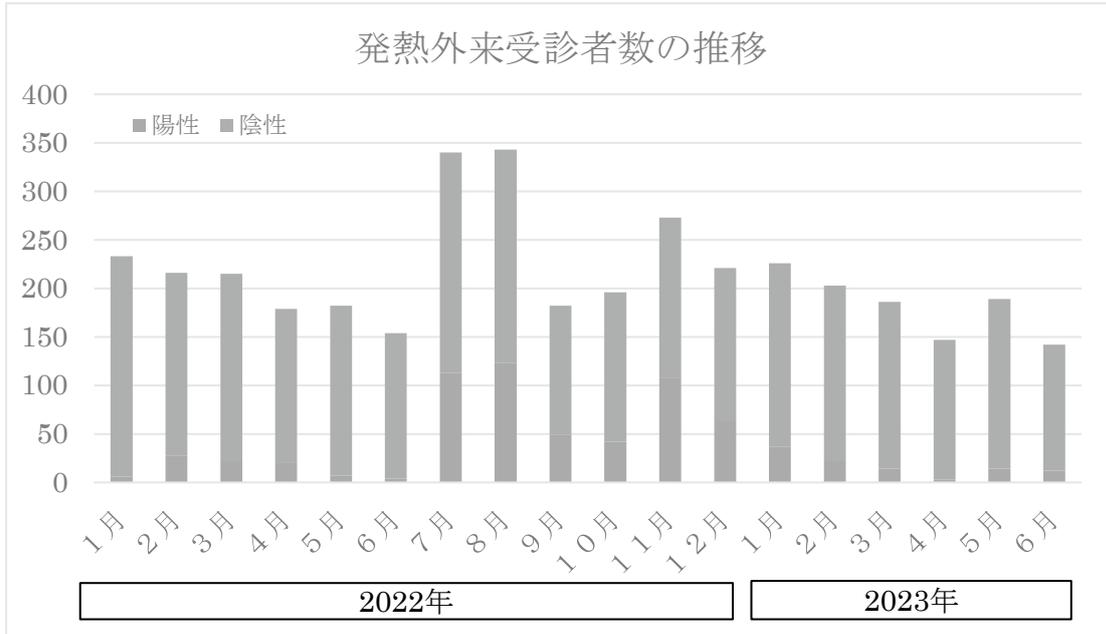
5) 最後に

第6波から第8波にかけて人口の約4割が感染する事態となり、当院の利用者/職員にも多数の感染者が発生した。院内クラスターこそ発生しなかったものの二次感染も数回、三次感染も1回確認され、対応に追われた。

2021年度に主流であった感染の封じ込めを目的とした対策は意味を失い、無症状者への検査は次第に行われなくなった。

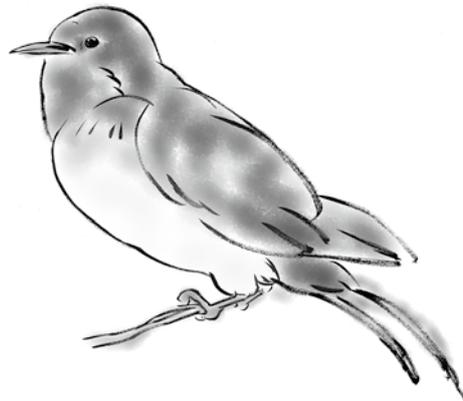
若年者を中心に大量の感染者が発生した一方で無症状感染者も多く、重症化率は大幅に低下した。

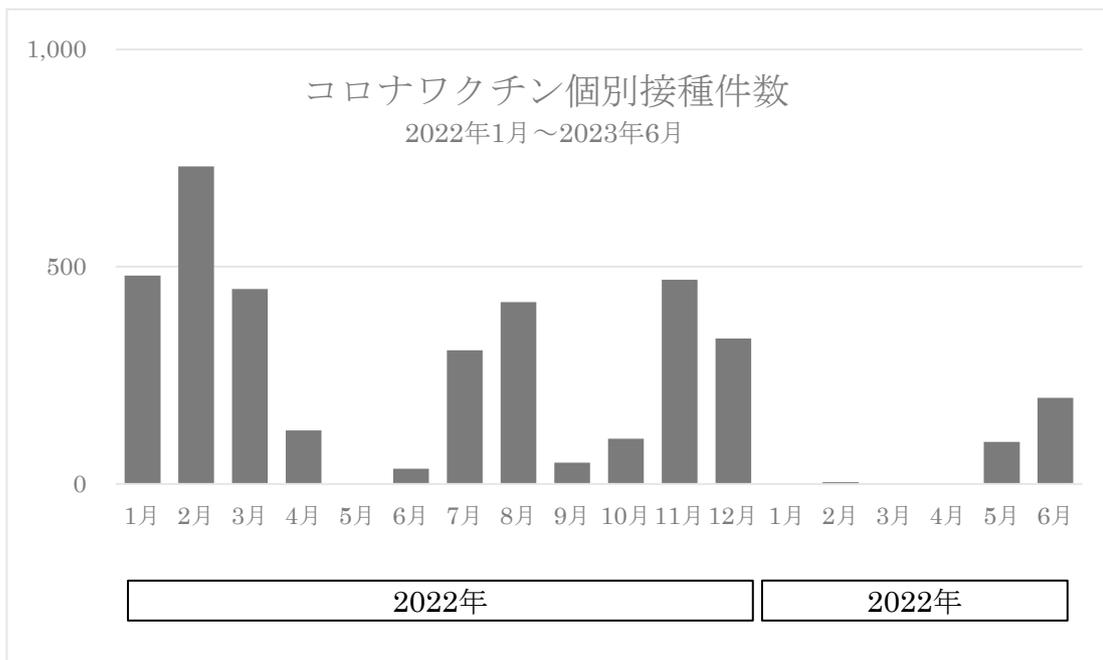
2023年3月にはマスク緩和、2023年5月には5類移行が行われ、社会はコロナと共存する方向へ舵を切った。もはやコロナウイルス感染症が消失することを期待できないが、一刻も早くコロナの脅威が低減しインフルエンザと同様にありふれた病気の一つとして扱われる日が来ることを期待している



グラフ 1 発熱外来受診者数の推移

月間受診者数は概ね 140—340 人程度。陽性率は最大 35.9%、グラフの期間内平均で 18.0%であった





グラフ 2 コロナワクチン個別接種件数

2022年4月末まで3回目接種。6月から9月中旬まで4回目接種。10月から5回目接種。オミクロン対応ワクチンに変更。さらに10月下旬にはオミクロン BA4/5 対応ワクチンに変更。12月末で終了。2023年5月から6回目ワクチン開始



IV. 病院概要

1. 沿革

- 昭和 22 年 08 月 宮城県農業会 公的医療機関として厚生省の指定を受ける
- 昭和 22 年 11 月 宮城県農業会 黒川病院開設 初代病院長に千葉豊氏就任
- 昭和 23 年 08 月 宮城県厚生農業協同組合連合会 黒川病院に改称
- 昭和 29 年 08 月 二代目院長に川島敏氏就任
- 昭和 30 年 00 月 黒川病院委譲委員会設立
(農業団体医療機関から公的医療機関への本質的な考慮に入る)
- 昭和 31 年 02 月 譲渡契約締結
- 昭和 31 年 03 月 「黒川病院大和町外三ヶ村組合」(大和町、大衡村、富谷村、大衡村で構成)を設立(黒川病院を設置し、経営管理及び付帯業務を共同処理)
- 昭和 31 年 06 月 黒川病院開設(宮城県指令第 9620 号)
- 昭和 34 年 04 月 黒川病院大和町外一町二ヶ村組合(大和町、大郷町、富谷村、大衡村で構成)と改称
- 昭和 34 年 10 月 組合名及び病院名を「公立黒川病院組合」及び「公立黒川病院」と改称
- 昭和 38 年 02 月 病院全面改修工事着手 総工費 166,876 千円
- 昭和 40 年 04 月 地方公営企業法の財務規定の一部適用
基準寝具、基準給食の承認を受ける
- 昭和 46 年 05 月 救急告示病院の指定を受ける
- 昭和 50 年 04 月 公立黒川病院組合の規約の全部を改正
- 昭和 60 年 06 月 二代目川島院長勇退 名誉院長の称号を贈る
- 昭和 60 年 07 月 三代目院長に菊池仁氏就任
- 平成 03 年 04 月 公立黒川病院組合を解散し、黒川病院の設置、管理及び経営を黒川地域行政事務組合が継承
- 平成 04 年 04 月 病院移転新築に向け組合内に「事業推進準備室」を設置
「公立黒川病院整備マスタープラン」報告書策定
- 平成 07 年 03 月 病院移転新築事業 敷地造成工事発注
- 平成 07 年 09 月 病院移転新築事業 本体工事発注
- 平成 08 年 12 月 病院移転新築工事完了 病床 110 床 総工事費 5,559,532 千円
- 平成 09 年 04 月 新病院における診療開始
- 平成 10 年 03 月 三代目 菊池院長勇退 名誉院長の称号を贈る
- 平成 10 年 04 月 四代目 院長に西平哲郎氏就任
- 平成 13 年 03 月 四代目 西平院長勇退

- 平成 13 年 04 月 五代目院長に石井元康氏就任
- 平成 14 年 09 月 黒川地域行政組合会議に「病院再建調査特別委員会」を設置
- 平成 15 年 02 月 上記委員会より中間報告書提出
- 平成 16 年 03 月 五代目 石井院長勇退
- 平成 16 年 04 月 副院長 力丸暘氏院長代理
-
- 平成 17 年 04 月 公立黒川病院の管理運営を黒川地域行政事務組合より
社団法人地域医療振興協会へ指定管理開始
初代管理者 山田隆司氏就任
六代目院長 力丸暘氏就任
- 平成 18 年 10 月 療養型病床 60 床及び外来新棟増築
通所リハビリテーション事業所・居宅介護支援事業所事業開始
オーダーリングシステム導入
MRI 導入
- 平成 19 年 04 月 一般病棟入院基本料（10 対 1）取得
- 平成 20 年 01 月 療養型病床 60 床を回復期リハ病棟へ変更
- 平成 21 年 04 月 二代目管理者 力丸暘氏就任 院長兼務
- 平成 22 年 12 月 画像情報システム（PACS）導入
- 平成 23 年 03 月 東日本大震災
- 平成 24 年 01 月 電子カルテシステム導入
- 平成 24 年 04 月 三代目管理者 本郷道夫氏就任
- 平成 24 年 07 月 泌尿器科開設
- 平成 25 年 04 月 七代目院長 横道弘直氏就任
力丸院長勇退 名誉院長の称号を贈る
- 平成 25 年 12 月 一般病棟入院基本料（7 対 1）取得
- 平成 26 年 08 月 地域包括ケア入院医療管理料 1 取得
- 平成 27 年 09 月 関東東北豪雨
- 平成 27 年 03 月 在宅療養支援病院となる
- 平成 27 年 10 月 外来化学療法室開設
- 平成 28 年 04 月 院長代行 南家俊介氏就任
心療内科開設
DPC 対象病院となる
DPC（診断群分類別包括評価）取得
- 平成 29 年 04 月 地域包括ケア病棟入院料 1 取得 病床 55 床
- 平成 29 年 06 月 麻酔科開設
- 平成 31 年 01 月 皮膚科開設

令和 元年 10月 令和元年東日本台風
令和 2年 1月～ 新型コロナウイルス蔓延
令和 2年 7月 四代目管理者兼院長 角田浩氏就任
令和 3年 4月 病後児保育室開設（当院敷地内に大和町にて整備）
令和 3年 4月 新型コロナウイルス ワクチン接種開始



2. 概要

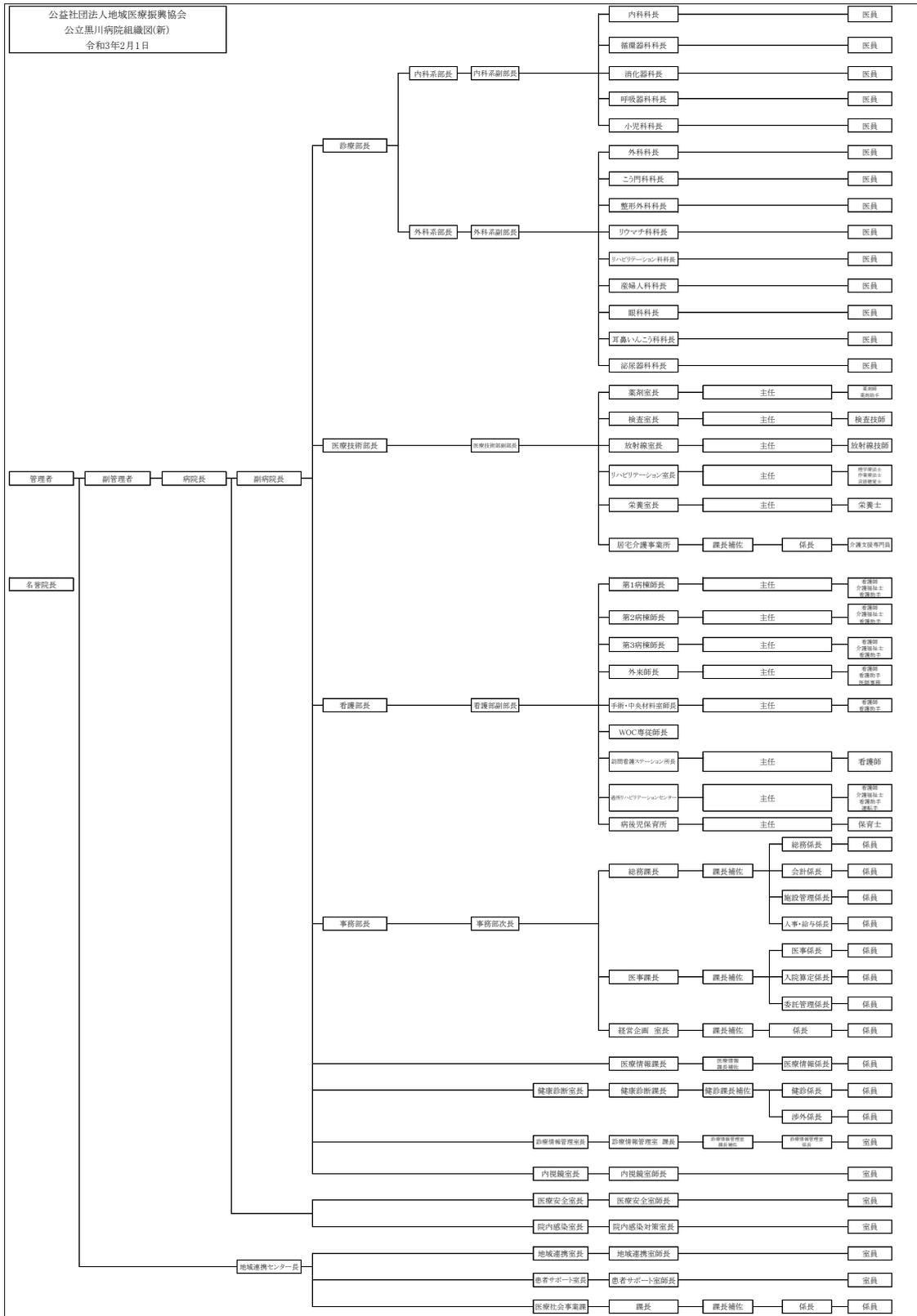
病院の概要

(令和5年3月31日現在)

- 病院名 : 公立黒川病院
- 所在地 : 宮城県黒川郡大和町吉岡字西桧木 60 番地 (〒981-3682)
TEL 022-345-3101 FAX 022-345-3143
ホームページ <https://www.jadecom.or.jp/jadecomhp/kurokawa/>
- 開設者 : 黒川地域行政事務組合
- 運営開始 : 平成 17 年 4 月 1 日
- 管理運営 : 公益社団法人 地域医療振興協会
- 診療科目 : 17 診療科 (内科、呼吸器科、循環器科、消化器科、心療内科、外科、
こう門科、産婦人科、整形外科、リウマチ科、耳鼻いんこう科、泌尿器科、
小児科、眼科、リハビリテーション科、麻酔科、皮膚科)
- 病床数 : 170 床 (一般 55 床・地域包括ケア 55 床・回復期リハ 60 床)
- 医療指定 : 保険医療機関、救急告示病院 (二次救急)、へき地医療拠点病院、
生活保護法指定医療機関、協力型臨床研修病院、労災保険指定医療機関、
結核予防法指定医療機関、自立支援医療機関 (精神通院)、
労災保険二次健診給付医療機関、生活習慣病予防健診実施機関、
DPC 対象病院、難病指定医療機関、小児慢性指定医療機関
- 施設基準等 :
- 急性期一般入院料 3
 - 救急医療管理加算
 - 診療録管理体制加算 2
 - 医師事務作業補助体制加算 1 (75 対 1)
 - 急性期看護補助体制加算 (25 対 1) (5 割以上)
 - 療養環境加算
 - 重症者等療養環境特別加算
 - 医療安全対策加算 1 (医療安全対策地域連携加算 1)
 - 感染防止対策加算 3
 - ハイリスク妊娠管理加算
 - 後発医薬品使用体制加算 2
 - データ提出加算 2 (200 床未満)
 - 入退院支援加算 1
 - 認知症ケア加算 2
 - せん妄ハイリスク患者ケア加算

排尿自立支援加算
回復期リハビリテーション病棟入院料 1
地域包括ケア病棟入院料 1
看護職員処遇改善評価料 47
がん性疼痛緩和指導管理料
婦人科特定疾患治療管理料
救急搬送看護体制加算
外来腫瘍化学療法診療料 2
ニコチン依存症管理料
外来排尿自立指導料
薬剤管理指導料
在宅療養支援病院（機能強化・単独型）
在宅患者訪問看護・指導料及び同一建物居住者訪問看護・指導料
HPV 核酸検出及び HPV 核酸検出（簡易ジェノタイプ判定）
検体検査管理加算（Ⅱ）
遠隔画像診断 2
CT 撮影及び MRI 撮影
外来化学療法加算 2
脳血管疾患等リハビリテーション料（Ⅰ）
運動器リハビリテーション料（Ⅰ）
呼吸器リハビリテーション料（Ⅰ）
がん患者リハビリテーション料
エタノールの局所注入（甲状腺）
エタノールの局所注入（副甲状腺）
膀胱水圧拡張術及びハンナ型間質性膀胱炎手術（経尿道）
輸血管管理料（Ⅱ）
輸血適正使用加算
人工肛門・人工膀胱造設術前処理加算
胃瘻造設時嚥下機能評価加算
酸素単価の届出
入院時食事療養費 I
入院時生活療養費 I（環境療養）

3. 組織図



V. 業務報告

1. 診療部

【内科】

1) 診療スタッフ

医師 角田 浩、南家 俊介、横道 弘直、高橋 広喜、松尾 英史、筒井 美穂、森下 城、上原 周悟、松尾 亮平、綾香 奈々、東北大学・東北医科薬科大学・その他所属の応援医師

2) 今年度の診療実績

内科が担当している業務は、外来、入院、訪問診療、健康診断、内視鏡検査、超音波検査などがあります。外来は基本的に午前中に4~5人の医師、午後は1~2人の医師が担当します。

令和4年度の患者内訳です。1年間の延べ受診者数は29,880人です。地域別では大和町13,643人、大郷町4,172人、大衡村3,762人、富谷市3,442人、県内郡外4,610人、県外251人です。疾患別では循環器疾患10,027人、内分泌疾患7,118人、消化器疾患3,454人、呼吸器疾患1,527人、神経疾患1,685人、新生物2,052人、血液疾患164人、その他3,853人です。

入院は急性期病床、地域包括ケア病床、回復期リハビリテーション病床で行っています。入院治療を要するのは、通院中の急性増悪疾患、新たな急性疾患の発症、他院からの紹介、救急搬送された方、検査のための入院などです。入院後は体力の低下、高齢者の嚥下機能の低下などから理学療法士、管理栄養士、言語聴覚士などの協力が不可欠です。入院の延べ患者数は28,172人です。地域別では大和町9,034人、大郷町2,742人、大衡村3,111人、富谷市2,502人、県内郡外10,780人、県外3人です。疾患別では循環器疾患4,844人、呼吸器疾患3,595人、消化器疾患2,728人、内分泌疾患1,708人、新生物2,753人、血液疾患179人、神経疾患1,275人、その他11,090人です。

訪問診療は主に3人の医師が担当しています。訪問看護とは切り離せず常に協力体制をしています。訪問診療を行っている患者数は663人。訪問看護ステーションが行っている訪問看護延数は5,182人です。

健診業務は2人の医師を中心に毎日行っております。通常の健康診断4,027人、人間ドック258人、脳検診118人、特定健診90人、がん検診1,149人です。

内視鏡等の検査では上部消化管1,866人、下部消化管338人。超音波検査では腹部エコー505人、心臓エコー286人、頸動脈エコー17人、下肢静脈エコー24人です。

3) 診療方針

内科の基本方針はどんな患者でも受け入れるということです。当院に通院されている方はもちろんのこと、救急搬送された重症症例、他院から検査・加療の依頼を受けた方、すべてを受け入れています。しかし、当院の能力では対応できない症例もあり、このような時は大学病院など設備の充実した施設に移送することもあります。

地域の医療要求に答えるような診療を行って行きたいと考えております。

(森下 城)



【外科】

1) 診療スタッフ

医師 大槻 修一、武山 大輔、松本 翔子、芳賀 泉、 東北大学応援医師、
東北医科薬科大学応援医師

2) 今年度の実績、今後の目標

外科 3名の常勤医、東北大学病院 総合外科および東北医科薬科大学 消化器外科より応援をいただき診療を行っております。治療内容としては一般外科、乳腺内分泌疾患、腹部ヘルニア、消化器悪性腫瘍、肛門疾患（痔、痔瘻等）、胆石症、腹膜炎、虫垂炎、憩室炎などの消化器疾患、下肢静脈瘤、自然気胸、褥瘡などの治療を行っております。症例に応じて腹腔鏡手術も行っております。昨年度 83 例の手術を行い、消化器系手術（ソケイヘルニア、消化器悪性腫瘍手術等）34 例、乳腺内分泌手術（甲状腺、乳腺悪性腫瘍を含む）9 例、一般外科小手術（中心静脈ポート挿入術を含む）38 例行っております。また、癌治療における複合的治療の必要性から癌化学療法にも力を入れており、2015 年 10 月末に外来化学療法室の運用が開始され、化学療法は主に外来で試行しております。なお、放射線療法については、近隣の病院と連携しながら行っております。また、癌リハビリテーション施設基準の取得、医療リンパドレナージセラピスト、皮膚、排泄ケア看護師との連帯の強化等、患者様の癌治療をスタッフ全員でサポートするため体制の強化をはかっております。緊急診療への対応強化を進めております。

（芳賀 泉）



【整形外科】

1) 診療スタッフ

医師 田中 正彦 (常勤医師は 2021 年度と同様 1 名のままです。)

2) 活動報告

常勤医師 1 名の体制で、東北大学病院整形外科医局から診療応援をいただき診療を行っています。

外来は平日午前のみ 1 診体制で、紹介のない新患は原則受け付けないという制限を設けています。

入院患者は急性期から慢性期まで合わせて 30 名程度です。大まかな内訳は四肢骨折および関節疾患の手術患者、骨粗鬆症性の椎体骨折や脆弱性骨盤骨折等の患者、骨折術後リハビリ目的の患者となっています。また四肢麻痺が強い頸部脊髄損傷の患者さんも常時 1~2 名入院しています。当院のリハビリテーションスタッフは数および質とも県内随一であり、他院からの転院依頼が絶えない状態です。転院患者が約 3/4 を占めています。

今年度の手術件数は 73 件で骨折の症例が多数を占めています (別表参照)。

3) 次年度の目標

引き続き当科は常勤医 1 名での診療となります。入院患者が常に多い状態で手術と外来を行っており、現状の維持には診療制限はやむを得ない策となっています。近隣地域の医療機関にご協力いただきながら、地域のニーズに可能な範囲で応えられるようにしていきたいと思えます。

4) 手術実績

骨折観血的手術 上肢	9 件
骨折観血的手術 下肢	20 件
大腿骨人工骨頭挿入術	8 件
人工股関節置換術	12 件
人工膝関節置換術	3 件
その他	21 件
計	73 件

(田中 正彦)

【泌尿器科】

1) 診療スタッフ

医師 田口 勝行（泌尿器科専門医）

2) 診療内容

泌尿器科一般：尿路（腎臓、尿管、膀胱、尿道）と男性生殖器（前立腺 精巣 陰茎）を扱います。尿路がんの治療は 開腹手術は仙台市内の病院へ紹介する一方で、膀胱がんの内視鏡手術、前立腺がんの検査とホルモン治療や放射線治療（仙台への通院が必要）を積極的に行っております。前立腺肥大症 尿路結石などの良性疾患は 手術を含め患者に合わせた治療選択をしています。その他 尿路感染症（膀胱炎 尿道炎）や過活動膀胱、神経因性膀胱、EDなどを扱っております。

3) 診療実績

① 外来

外来延べ患者数は約 4,078 名でした。その他院内紹介患者も多数です。

② 入院

手術患者以外にも 重症感染症やがん末期患者を受け入れています。

③ 排尿自立指導

排尿ケアチームを立ち上げ カテーテルの早期抜去に向けて啓蒙するとともに実践しています。

④ 手術 検査（毎年数多くの PSA 高値の患者が受診します）

（ア）経尿道的膀胱腫瘍切除術(膀胱がん) 3 例

（イ）前立腺生検 14 例（前立腺がん 8 例）

4) 今後の目標

① 各種ガイドラインを参考にしながら 高齢者に沿った治療を提供していきます。

② 仙台の病院と連携し、患者に最適の治療を提供するようまいります。

（田口 勝行）

【小児科】

1) 診療スタッフ

医師 岩城 利充

看護師 窪田 麻衣花、菅原 ナオ

2) 2022 年度の概要

2022 年度の小児科診療は、新型コロナ感染がなお社会に蔓延する中での診療だった。外来患者数 2,225 名、予約受診者数 1,986 名、新患受診者数 134 名とほぼ前年並みであった。新患予約は週に 1 人、月にして 4 人の予定だったが、実績は月に 11 人と、予定の 2.5 倍の受け入れが続いている。発達障害の患児はたまっていくので、再診までの間隔が長くなり、受け入れが厳しくなってきた。東北大学病院は発達障害の新患の一般受付は既に停止しているし、こども病院も厳しい状況にある。当科としても悩ましい現状である。

3) 診療体制

小児科の診療体制は、常勤 1 名で、外来診療のみ行っている。診療時間は、午前、午後。予防接種外来として月曜日（13:30～14:20：要予約）、乳幼児健診外来として火曜日（13:30～14:20：要予約）に診療している。小児科外来として一般診療を行っているが、発達障害、行動異常の診療は、診療時間が長いので予約制としている。看護師、心理検査スタッフとチーム医療に準じて診療を行っている。

4) 診療実績

2022 年 4 月 1 日～2023 年 3 月 31 日の、外来診療延数は、前年比 99%の 2,225 名だった。そのうち発達障害、行動異常関連の予約総数は、前年比 101%の延 1,986 名で、実に診療全数の 89.3%にあたり、当小児科外来の特異な患児疾病構成を示している。このうち新患予約は、前年比 96%の 134 名、再診予約数は、前年比 101%の 1,852 名だった。前年が前々年の各々 141%、121%と急増したいたので、そのプラトーが続いていることを意味する。小児一般疾患で受診する児は、予約と予約の間に入れて診療している。

発達障害の疾患の 1 つである注意欠陥多動症の薬であるメチルフェニデートの投与は 51 名（前年度は 84 名）、アトモキセチンの投与は 108 名（前年度は 138 名）、グアンファシンの投与は 51 名（前年度は、41 名）であった（重複投与あり）。グアンファシンの投与が増えている。

患者の分布は、黒川郡、大崎市、加美町、色麻町を中心に仙台市、登米市、塩釜市、石巻市、名取市など、遠郊にも及んでおり、患者年齢は、3 歳から 36 歳まで認められる。

予防接種外来は、毎回 0～4 名、ただしインフルエンザ流行期を前にした 11 月と 12 月は月曜の午後の診療を全て予防接種外来として、需要の急増するインフルエンザワクチン接種に対応している。乳児健診は毎回 0～2 名であった。

当小児科では、公認心理師の資格を持つ、ソーシャルワーカーが、発達検査を行っており、この1年間で94件（前年比98%）の検査を施行した。

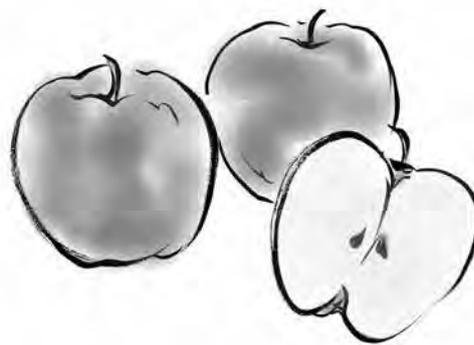
WISC-IV知能検査が76件（前年比211%）、K-ABCⅡ検査が16件（前年比42%）、Vineland-Ⅱ検査1件（前年比17%）、DN-CAS検査1件（前年比100%）だった。WISC-IV知能検査とK-ABCⅡ検査で、98%を占めていた。

当院では新版K式発達検査の資格認定者がいない。今後の課題と言える。

カウンセリングの対象となる児が、増加しており、臨床心理士のいる大崎市民病院と連携して診療を行っている。

小児科では、看護師と発達検査を行うソーシャルワーカーの働きが大きい。共に、チーム医療に準じて診療を行っていく所存です。

（岩城 利充）



【婦人科】

1) 診療スタッフ

医師 相良 守峰

2) 診療内容、特徴

婦人科疾患（子宮筋腫、子宮内膜症、卵巣嚢腫）、子宮がん検診（頸部、体部）、不妊症検査 等

3) 診療実績（主な点）R4.1月～12月

手術・処置	症例数
子宮頸部（膣部）切除術	1
子宮頸管ポリープ切除術	6
子宮息肉様筋腫摘出術（膣式）	1
子宮内膜搔爬術	3
膣式卵巣嚢腫内容排除術	1
皮膚切開術	1
女子外性器腫瘍摘出術	4
胞状奇胎除去術	1
子宮内容除去術	1
子宮内腔洗浄	8

検査	件数
子宮頸部細胞診	1,322
子宮体部細胞診	80
組織検査	19
合計	1,421

コルポスコピー	4
超音波検査	491
MRI	29
CT	14

その他	件数
HPV ワクチン接種	47

4) 今後の目標

継続

HPV ワクチン接種勧奨

(相良 守峰)

【麻酔科】

1) 診療スタッフ

医師 松川 周、応援医師（東北大学ほか）

常勤麻酔科医は1名で、現時点では月・木・金の週3日の勤務です。勤務日以外の日には手術が予定された場合は応援医師に業務を依頼しています。

手術室における麻酔・手術業務は医師のみで完遂できるものではなく、看護スタッフとの緊密な連携の上に成り立っています。手術室の看護スタッフは、現在常勤看護師3名と看護助手1名の4名体制で、この体制では複数列の手術への対応は医療安全の観点からほぼ不可能になり、1列のみの手術の場合でも看護師が夜勤等で日中の勤務ができないときは、他部署からの応援でしのいでいる状況です。手術に関する病院のパフォーマンスがあまり高くはない当院の現状ではやむを得ない側面もありますが、病院全体の活性が上がって手術数が増加し、人員がより充実する状況になることを期待しています。

手術の施行は、看護師はじめ術者や麻酔科医など手術に関するスタッフとの協力体制が基本ですので、その思いを胸に日々の業務を行っています。

2) 診療内容、特徴

手術を施行している科は、整形外科、外科、泌尿器科、婦人科の4科です。麻酔科医は手術中の麻酔に関するほか、術前の麻酔・手術リスクの評価、麻酔前患者診察、麻酔後の患者診察等を通じて、安全・安心な周術期の患者管理に携わっており、患者の容態が術中術後に重症化した場合は、人工呼吸や循環管理を含む術後管理についても、主治医と協力して診療を行っています。

2022年度に手術を受けた患者は167名で、その70.6%（117例）が65歳以上の高齢者でした。そのうち75歳以上の後期高齢者が54.7%（64例：全手術患者の38.3%）、90歳以上が15例（高齢者の12.8%、全手術患者の9.0%）を占めます。当院での手術患者の年齢が如何に高齢に偏っているか反映する数値ですが、加齢に伴い予備力は低下し合併症も増加するので、周術期管理には細心の注意を要します。

麻酔科医の存在が各科のパフォーマンスの維持にも一定の寄与をしているものと考えています。

3) 診療実績

前述した通り2022年度の手術室における手術総数は167件で、2021年度と比べてほぼ同数に経過しており、外来・入院の患者数の減少や不急の手術の手控えといった新型コロナ感染蔓延の影響も、ある程度は関わっていると考えられます。

麻酔内容は、全身麻酔のみが89例、全身麻酔+硬膜外麻酔が15例、全身麻酔+クモ膜下腔麻酔が3例、脊麻が9例、伝達麻酔が3例、局所麻酔が48例でした。全身麻酔は107例（麻酔

全体の 64.0%) でそのすべてが麻酔科医によって行われ、各科対応の局所麻酔および伝達麻酔は 30.5%でした。患者の男女比は男性 87 名 (52.1%)、女性 80 名 (47.9%) で、昨年度と異なり男性がより多数を占めました。年齢構成は前述の通りで、65 歳以上の高齢者が 70.6%を占め昨年度より高齢化が進んでおり、小児患者 (16 歳未満) はみられませんでした。

手術患者の科別構成は、外科 90 例 (53.9%)、整形外科 73 例 (43.7%)、泌尿器科 4 例 (2.4%)、婦人科 0 例 (0%) で、整形外科及び外科で全症例の 97.6%を占め、整形外科が増加傾向にあります。

翌週の週間予定を前週木曜日までに確定していますが、予定に入っていなかった患者を「臨時手術」とすると、36 例 (21.6%) が臨時に属しており、とくに整形外科では「臨時手術」全体の 75.0%、整形手術の 49.3%を占めていました。外傷治療などが多く予定を立てにくい市中病院の実情を反映しているものと考えられます。

4) 今後の目標

麻酔科業務は外科治療を補完する側面が大きく、麻酔業務の向上・拡大には各科のパフォーマンスの向上が前提になります。外科系のみならず、病院全体のパフォーマンス向上が、最終的ゴールになります。これは一朝一夕に出来ることではありません。麻酔科の重要な責務は安全な周術期管理であり、そのために為すべきことは広範囲にわたるので、今後とも気を引き締めて業務に当たる積りです。皆様ご協力のほど、宜しくお願いいたします。

(松川 周)



【非常勤医師診療科】眼科、耳鼻いんこう科、皮膚科

眼科、耳鼻いんこう科、皮膚科はそれぞれ非常勤医師での診療を行っています。
1年間の診療実績は表に示す通りです。なお、皮膚科については医師事情の為、1月前半休診となった。

2022年度外来診療患者数

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	年間合計
眼科	149	114	140	114	140	158	128	112	115	90	120	147	1,527
耳鼻咽喉科	100	101	105	92	92	112	109	90	108	103	101	155	1,268
皮膚科	141	158	143	156	175	206	156	157	179	0	102	166	1,739

診療スケジュール

	月曜		火曜		水曜		木曜		金曜		
	AM	PM	AM	PM	AM	PM	AM	PM	AM	PM	
眼科	大 学	-	-	-	大 学	-	-	-	-	-	-
耳鼻咽喉科	-	大 学	-	-	-	-	-	大 学	-	-	-
皮膚科	-	-	富 田	-	-	-	-	-	-	富 田	-

(富田 学)

2. 看護部

【総論】

1) 2022年4月～2023年3月までの看護職員配置数

職種	2022年4月	2023年3月	増減
看護師（正職）	96	95	-1
助産師（正職）	2	2	0
准看護師（正職）	1	1	0
助産師（臨時）	1	1	0
看護師（臨時）	1	1	0
准看護師（臨時）	1	1	0
看護師（非常勤）	7	6	-1
介護福祉士（正職）	22	20	-2
看護助手（正職）	1	1	0
看護助手（非常勤）（派遣）	15	13	-2
医師事務	2	2	0
合計	149	143	-6

2) 2022年度入職者 3名

看護師（正職）1名 看護助手（非常勤）1名 介護助手（派遣）1名

3) 2022年度退職者 11名

看護師（正職）1名 看護師（非常勤）3名
介護福祉士（正職）2名 看護助手（非常勤）1名
看護部離職率 7%（看護師 6%）

4) 看護部目標

① 看護部理念

「私達は地域の皆様に寄り添い信頼される看護を実践します」

② 2022年看護部目標

- (ア) 各部署の専門性に応じて、良質な看護を提供します
- (イ) 患者が「安全安心」と思えるわかりやすい医療・看護を提供します
- (ウ) 高い倫理観をもち患者さんの尊厳を守る温かい思いやりのある看護を提供します
- (エ) 医療チームの一員として多職種と連携を図り、チーム医療を推進します
- (オ) 患者さんが、安心して入院から退院、地域での療養が継続でき、その人らしい生

活ができるよう早期に退院支援を行います

- (カ) 看護部の教育理念にしたがって、クリニカルラダーを活用し、この教育に自ら参加し自己研鑽を続けていきます
- (キ) 働きがいのある職場、働き続けられる職場づくりに努めます
- (ク) 病院の経営方針に基づき、各部署の経営目標の達成を目指し、病院経営に参画します

5) 看護部目標に対する評価

① 目標と実績

部署	目標	実績 (人・件)		稼働率 (%)	達成率 (対目標) (%)
		年間	月又は日		
1 病棟	45 人/日	14,067	38.5 人	70.1	85.6
2 病棟	30 人/日	11,282	30.9 人	56.2	103.0
3 病棟	50 人/日	15,605	42.8 人	71.3	85.5
外来	210 人/日	54,325	184.8 人	—	88.0
訪問看護	450 人/月	5,183	431.9 人	—	96.0
手術	20 件/月	167	13.9 人	—	69.6

② 看護教育について

- (ア) 2022 年 4 月から看護師はクリニカルラダー、介護福祉士は学研の教育システムで、すべての職員が e-ラーニングを活用しながら協会共通の教育に取り組んだ。
看護師は教育委員会を中心に年に 1 回の研修日を設け、自己課題の目標を定めて計画的に取り組んでいた。詳細は教育委員会の報告を参照。

(イ) 2 年目の症例発表会について

該当者なし。

東北福祉大高田准教授による看護研究の研修会 1 回実施。

③ 資格、加算要件取得

- (ア) 日本輸血・細胞治療学会 学会認定看護師
本望 美和 (外来)
- (イ) 看護補助者の活用のための看護管理者研修
八巻 美和 (1 病棟)
- (ウ) 学会等の参加
 - ・宮城県看護協会 学術集会 2022 年 12 月 10 日
発表 新人・先輩看護師双方の視点からみた新人看護師の看護技術習得支援の検討

斎藤 真弓 (3 病棟)

第 1 群 座長 大黒 なか子

・地域振興協会学術集会 2022 年 10 月

看護介護部 講評 大黒 なか子

(エ) 宮城大学 アドバンスコース ～終末期ケア～

講師 北條 智 (2 病棟看護師)

(オ) 宮城県訪問看護連絡協議会理事、調査委員

鈴木 文枝 (訪問看護)

(カ) 大和町介護保険運営委員、包括支援センター運営委員

鈴木 文枝 (訪問看護)

(キ) 大和町介護認定審査会委員

斉藤 文子 (看護サポート)、鈴木 文枝 (訪問看護)

(ク) 宮城県看護協会 社会経済福祉委員

斉藤 文子 (サポート室)

(ケ) 宮城県看護協会仙台黒川支部

支部長 大黒 なか子、教育委員 八巻 美和

6) 看護実習の受け入れ (病棟)

東北文化大学 成人Ⅱ 5 名 24 日間 成人看護 1 3 名 12 日間

東北文化大学 統合 10 名 7 日間

東北福祉専門学校 基礎 16 名 2 日間

東北福祉大学 老年 31 名 44 日

東北福祉大学 基礎Ⅱ 10 名 4 日間

宮城大学 老年 9 名 7 日間

7) ふれあい看護体験

7 月 30 日 8:50～12:30 実施

参加者：富谷高校、宮城学院高校、東北生活文化大学高校 各 1 名ずつ 3 名

対応：田代 桃子、佐藤 カナコ、佐々木 貴子、斉藤 文子、大黒 なか子

8) 就職説明会 (リモート開催)

① 東北福祉大学主催 学生 7 名 ② 青葉短期大学主催 学生 3 名

対応：大黒 なか子、佐々木 多恵子、佐藤 紗菜、高橋 果奈

③ ナース専科 (ゼビオアリーナ仙台対面) 2 月 18 日 学生：8 名

対応：本部、台東、横須賀市民、黒川 (大黒)

9) 地域、他施設との交流

- ① 大和町マタニティセミナー
6回/年 実施
柴田 せつ子 (外来)
- ② 宮城県看護協会仙台黒川支部 地域ネットワーク交流会
4月9日
八巻 美和、大黒 なか子、鈴木 文枝
- ③ 感染対策研修会 (出前講義)
2月 富谷の郷 (2回)
3月 船形の郷 (2回)
伊藤 公恵、佐々木 貴子、大黒 なか子
- ④ 認知症カフェ、ミニ講話
大和町ひだまりの丘
斉藤 文子

10) 外部研修

N o	人 数	延 数	日時	研修内容	主催	方法
1	1	1	6月15日	生活を支える在宅と医療、介護の連携Ⅱ	宮城県 看護協会	受講
2	1	2	7月1日、12日	臨地実習に必要な基礎的知識	宮城県 看護協会	受講
3	1	8	7月6日～14日、 実習1日(8日間)	在宅への移行を支援する退院支援看護職育成	宮城県看 護協会	受講
4	1	2	7月12日、 8月23日	中堅師長研修	地域医療 振興協会	リモート
5	1	1	7月26日	生活を支える在宅と医療・介護の連携1－ 地域包括支援ケアシステム-1	宮城県 看護協会	受講
6	8	8	事前学習 7月1日～31日	22[重症度、医療・看護必要度]評価者及び院内 指導者研修	日本臨床看 護マネジメント 学会	リモート
7	2	2	7月30日	新型コロナウイルスによるメンタルヘルス の影響	宮城県 看護協会	受講
8	1	40	8月23日 ～10月14日	令和4年度実習指導者講習会	宮城県 看護協会	受講
9	1	1	8月23日	看護補助者研修	宮城県 看護協会	受講

10	1	1	10月12日	介護福祉士研修会	地域医療 振興協会	リモート
11	2	2	10月16日	JADECOM 学術集会	地域医療 振興協会	受講 リモート
12	2	6	10月27、29日	看護職員認知症対応向上研修2	宮城県 看護協会	受講 リモート
13	1	4		中堅主任研修	地域医療 振興協会	リモート
14	1	2	11月5、6日	大和町文化祭「まちの保健室」	宮城県 看護協会	受講
15	1	2	11月24、25日	ファーストレベルフォローアップ研修	宮城県 看護協会	リモート
16	1	2	11月25日	感染セミナー	ハーネル 仙台	受講
17	1	5	12月10日	宮城県看護協会学術集会、講演会	宮城県 看護協会	受講
18	1	2	1月24日	看護職員の賃金制度の抜本的見直しに関する緊急勉強会	宮城県 看護協会	リモート
19	2	2	2月10日	実習指導者会議、講演会	東北文化 学園大学	受講
20	1	1	2月18日	看護管理者と看護系教育機関関係者の意見交換会	宮城県 看護協会	リモート
21	1	1	2月22日	介護福祉士研修会	地域医療 振興協会	リモート
22	10	10	3月2日 ～5月31日	認知症ケアオンラインセミナーについて	全国自治 体病院	リモート
23	1	1	3月5日	新人看護職員研修新任教育担当者研修	宮城大学	受講
24	1	1	3月11日	SARAYA 感染対策指導者育成講座	SARAYA	受講

(大黒 なか子)

【第1病棟（地域包括ケア病棟）】

1) 病棟概要

- ① 病床数 55床
- ② 診療科 内科 外科 整形外科 泌尿器科 婦人科
- ③ 人員構成 看護師 22名 介護福祉士 7名 看護補助者 1名 病棟クラーク 1名
- ④ 看護提供方式 パートナーシップ・ナーシング・システム (PNS)

2) 令和4年度病棟目標

退院後のその人らしい生活を見据え、患者・家族の意思決定を尊重した看護、介護が提供できる

3) 令和3年度実績（短期入院除く）

延べ入院患者数	14,067名
入院・転棟数	505名
退院数	516名

平均稼働率	平均在宅復帰率	平均在院日数	平均リハビリ
70.1% (前年度比-2.3%)	79.9% (前年度比-6.1%)	27.6日	2.3単位

4) 今後の目標と課題

地域住民の健康と生活を維持する役割を担う病棟として、診療科を問わず、あらゆる領域の看護力や知識が求められる。多様な生活背景やニーズをアセスメントし、先を見据える力が必要である。医師、ケアマネージャー、外来、訪問看護ステーション、リハビリスタッフ、ソーシャルワーカー、施設職員など、院内外が多職種と早期から常に連携し、次の生活の場につながられるよう取り組んでいきたい。

(佐々木 多恵子)

【第2病棟（急性期病棟）】

1) 病棟概要

- ① 病床数 55 床
- ② 診療科：外科 整形外科 内科 泌尿器科 婦人科
- ③ 人員構成：看護師 21 名 介護士 3 名 看護助手 3 名
- ④ 看護提供方式：固定チームナーシング/日々受け持ち制
- ⑤ 入院基本料：10 対 1

2) 今年度病棟目標

『患者の個別性を考慮した良質な看護を提供し、早期退院を支援する』

3) 今年度病棟実績

入院延患者数：11,282 名 平均在院日数：15.4 日

2022 年度入院手術件数：135 件

外科 63 件、整形外科 72 件、泌尿器科 0 件、婦人科 0 件

4) 今後の目標と課題

当病棟は、地域の急性期機能を担う病棟として当院の診療科全科に対応している。

肺炎や尿路感染に対する急性期治療や、整形外科と外科手術の周術期看護、がん疼痛コントロールやがんターミナル期における看護、脳血管疾患によるリハビリなど多種多様な知識とスキルが求められる。その中でも入院する患者の多くは、後期高齢者が半数以上を占めていることから、認知症看護も併せ多職種協働で日々業務を行っている。

入院する患者が住み慣れた地域で自分らしい生活を続けるためには、患者個々の個別性を考慮し、介護保険や社会保障制度について理解し、医療・看護・介護を切れ目なく提供し続ける必要がある。

今年度も昨年同様に患者の個別性を十分に理解し、患者の持っている力が最大限発揮できるよう多職種で協働し、早期退院につなげるよう支援していく。

(伊藤 公恵)

【第3病棟(回復期リハビリテーション病棟)】

1) 病棟概要

- ① 病床数 60床
- ② 回復期リハビリテーション病棟入院料1 看護配置 13:1
- ③ 人員構成 看護師 21名・介護福祉士 6名・看護助手 2名
理学療法士 10名・作業療法士 6名・言語聴覚士 3名
- ④ 看護提供方式 固定チーム継続受け持ち制

2) 今年度の目標

『多職種との連携を強化し、患者・家族の意向を尊重した退院支援を実践する』

3) 今年度の実績

- ① 入院延患者数 15,605名
- ② 平均稼働率 71.3%
- ③ 在宅復帰率 85.6%
- ④ 重症患者割合(10点以上/新入院) 54.9%
- ⑤ 退院時4点改善(改善数/重症患者数) 51.8%
- ⑥ 実績指数 39.9点

4) 今後の目標と課題

急性期の治療終了後の患者を受け入れ、集中的にリハビリテーションを提供しています。多職種チームで関わるのが必須であり、ADLの向上、在宅復帰を含めた退院支援を行うため、情報共有、協働や連携を常に意識することを目標とし、取り組んでいます。

直近の病棟の状況は、入院患者の年齢層が後期高齢者で約60%と半数以上を占め、昨年比では10%上昇していました。ここ最近では50歳代を中心に40歳以下の脳血管疾患の入院も一定数おり、増えてきていると実感しています。他に回復期リハビリテーション病棟において指標となる実績指数が、ここ数年の中でも低下傾向が見られています。FIMの利得向上や、入院期間に直結する退院支援に関して、ADL実践が不可欠であり、看護専門職として患者を支援する上で、リハビリテーションの成果を引き出していく看護介入を意識する必要があると考えます。

また、リハ医療には各職種のチームアプローチが重要です。次年度は更なる多職種との協働及びチームアプローチが実践出来るよう努力してまいります。

(和賀 明美)

【看護部 外来】

1) 人員構成

師長 1 名、主任 2 名、看護師 20 名（うち非常勤 5 名、再雇用 3 名）、看護助手 6 名、
医師事務 2 名（3/31 現在）

2) 看護師配置

内科、外科、整形外科、小児科、泌尿器科、婦人科、皮膚科、眼科、耳鼻咽喉科、
内視鏡室、中央処置室、外来化学療法室、発熱外来、健診室、総合受付、
正面玄関発熱トリアージ

3) 実績

- ・目標 1 日平均患者数 210 人 平日 247 人、土曜日 30 人
- ・実績 1 日平均患者数 185.4 人（前年度比 -9 人） 平日 214.4 人、土曜日 28.4 人
- ・救急車要請 時間内要請 337 件、受け入れ 247 件（応需率 73%：前年度比 -10%）
時間外要請 385 件、受け入れ 123 件（応需率 32%：前年度比 -16%）
- ・時間外診療 666 件/年
- ・病後児保育利用者 17 人、71 日/年（前年度比+9 人、17 日）看護師ラウンド 273 回
- ・地域母子保健活動 マタニティセミナー6 回/年 助産師 1 名
- ・看護外来（ストーマ外来）のべ 37 件/年 皮膚・排泄ケア認定看護師 1 名
- ・インシデント報告件数 123 件
- ・時間外簡易血液検査 21 件
- ・COVID-19 職員家族濃厚接触者検査 227 人（8 月～3 月）
- ・中間管理者任用候補者試験、輸血認定看護師 各 1 名合格

4) 今年度の振り返り

前年度に続き COVID-19 の対応は煩雑かつ多忙を極め、発熱外来では人数制限での受け入れや治療薬に伴う手続きの把握、手順の変更など柔軟に対応しました。徐々に職員も感染者が出始め、濃厚接触者（同居家族含む）に対しては延べ 227 人の検査を実施しました。

業務改善事項は看護師の救急車同乗を必要最低限とし、それに伴い前年度の実績より休日時間外のバックアップを廃止しました。時間外の待機を廃止することで、精神的負担の軽減につながられたと思います。看護助手業務では外来ベッドのシーツ交換を廃止し、時間短縮の効率化を図ると共に、患者さんがより衛生的に休める環境を整えました。他、「発熱外来運用マニュアル」の更新、「外来看護師記録基準」を作成しています。

部署内のスキルアップとして「子宮頸がんワクチン」「带状疱疹ワクチン」「アナフィラキシーショック対応」「急変時対応」等、年間 7 回の勉強会を開催し知識の向上に努めました。

（石塚 玲子）

【手術室・中央材料室】

1) 手術室

- ① 手術室数 2室
- ② スタッフ数 看護師5名 看護助手1名（非常勤）
- ③ 看護体制及び勤務体制：常時日勤のみ
- ④ 診療科 外科 整形外科 泌尿器科 婦人科
- ⑤ その他

（ア）年間手術件数

令和4年4月1日～令和5年3月31日：167件（前年度より6件減）

（イ）麻酔科医師

松川 周、他東北大学病院から派遣麻酔科医師の応援あり

2) 中央材料室

- ① 機能 院内の鋼製小物や診療材料の洗浄・消毒・滅菌業務
（メーカー推奨の滅菌方法とスポルディングの法則に則る）

- ② 中央材料室設備

（ア）洗浄機

- ・ウォッシュャーディスインフェクター 1台
- ・自動ジェット式超音波洗浄装置 1台

（イ）滅菌機

- ・高圧蒸気滅菌器 2台
- ・プラズテック 1台

- ③ 有資格者

第2種滅菌技士 1名 普通第一種圧力容器取扱作業主任者 2名

3) 2022年度の振り返り

2022年度は、前年度より手術件数は6件の減少であった。

手術を受けた患者の167人中117人は65歳以上の高齢者で全体の70.6%で半数以上を占めていた。内、90歳以上の超高齢者は15人で前年度も14名であり年々手術患者の高齢化が進んでいる。以前に作成した「高齢者手術対応マニュアル」を十分に活用し適宜見直しの必要があると感じた。

現在は看護師スタッフ3名にて業務を行っている。小規模の中でも感染対策や医療安全に全力で取り組むと共に手術室業務のみならず他部署支援の実施も行ってきた。今後も手術室看護の専門性を発揮し患者にとって最善の手術となるよう日々邁進して行きたい。

（佐藤 カナコ）

【くろかわ訪問看護ステーション】

1) 人員構成

看護師 8名 事務 1名

2) 訪問エリア

黒川地域（富谷市、大和町、大郷町、大衡村）

連携先 医療機関 24 か所、居宅事業所 18 か所

3) 今年度の目標

『訪問看護師として質の向上に努め、利用者・家族に寄り添った看護が提供できる』

『看護師が生き生きと働ける環境を作る』

4) 実績

(ア) 訪問看護利用者総数 147 名

(イ) 新規利用者：76 名

(ウ) 死亡者：51 名（うち在宅看取り：26 名）

(エ) 月別利用者数、訪問回数（グループホーム除く）延人数 1,036 名 延件数 5,183 件

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
人数	83	83	87	86	89	88	87	92	91	84	83	83
回数	476	410	459	429	461	428	423	428	440	396	392	441

5) 保険外収入 グループホームなんてん吉岡 12 万円/月

6) 教育活動

①在宅実習指導：看護学校 3 校 計 24 名（24 日間）

②痰吸引等研修指導：訪問介護事業所 2 事業所 計 7 名

7) 今後の目標と課題

当ステーションでは、最近癌終末期患者への訪問依頼も多く、在宅見取りの件数も増えてきている。院内以外にも他院からの紹介が増加している。24 時間の連絡体制も整えており、利用者家族が最後まで安心して在宅で過ごすことが出来るよう、主治医やケアマネージャー及び多職種と協働し、連携を図り対応している。

今後は訪問看護ステーションとして、災害等の緊急時においても継続して利用者への看護ケアが提供できるよう、BCP を作成・活用し、地域の訪問看護ステーション等と連携が取れるような仕組みを検討していきたいと思う。

（鈴木 文枝）

【通所リハビリセンター】

1) 人員構成

看護師 1名 介護福祉士 3名 看護助手 1名

2) 今年度の目標

- ① 通所看護師・介護福祉士として質の高い看護・介護を提供する
- ② 専門職として主体的に自律した看護師・介護士を目指す
- ③ 職場環境を改善し、やりがい・生きがいのある職場を作る

3) 実績

・通所リハビリ利用者総数： 77名（3月末現在）

・月別利用者総数一覧

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
人数	429	416	477	417	368	378	265	367	303	372	393	449

4) 今後の目標

通所リハビリでは、医師・セラピスト・介護職・看護職等の多職種で構成されている。

互いに情報を共有し、利用者の日常生活での問題点を多角的に話し合い、効果的なリハビリの介入法や在宅生活継続へのサポート等多岐に渡る支援を行っている。

各セラピストによるリハビリテーション提供の他、Nsによる口腔機能向上加算の算定介護福祉士による集団体操の提供、自宅入浴困難者の為の入浴等様々なサービスの提供を行っている。また7月からは平日のみの営業に変更となり全日利用可能となった。

R4年度はコロナ禍にて度重なる閉鎖が5回あった為、減収に直結した。

来年度に向けてより一層感染対策を並行しながら利用者及びご家族が安心・安全に在宅で過ごせるように支援の継続を行っていく所存である。

(阿部 千種)

【病後児保育室】

1) 保育士 2名 堀籠 智美、 吉田 ゆり子

2) 事業目標

一人ひとりに寄り添う保育

3) 保育実績

	新規登録者数	登録者総数	予約数	キャンセル数	利用者数
4月	6	50	0	0	0
5月	4	54	4	0	4
6月	2	56	14	8	6
7月	4	60	14	5	9
8月	6	66	24	12	12
9月	1	67	9	2	7
10月	2	69	10	4	6
11月	5	74	12	6	6
12月	0	74	32	19	13
1月	3	77	7	3	4
2月	0	77	4	2	2
3月	10	87	3	1	2
合計	43	87	133	62	71

4) 今年度の振り返りと今後の目標

今年度も周辺の保育施設でコロナウイルスのクラスター発生のため影響がありました。予約数は昨年度より倍に増えてきましたが、体調が回復しキャンセルになることも多くありました。今後も感染対策を継続し、安心して利用していただけるよう看護師と連携を図り一人ひとりに寄り添う保育を行ってまいります。

(堀籠 智美)

【看護の質委員会】

1) 構成メンバー

大黒 なか子 (オブザーバー)、石塚 玲子 (外来師長)、八巻 美和 (1病棟主任)、
長島 こずえ (1病棟)、佐久間 ともみ (2病棟主任)、酒井 美由紀 (2病棟)、
谷 みはる (3病棟)、村松 礼子 (外来)

2) 活動報告

委員会開催 全5回

今年度目標

① 看護部基準の見直し

追加基準 12項目

看護部共通「看護部基準」ファイル改訂、配布

② 公立黒川病院看護部職員として「接遇とマナーの向上」を目指す

「働きやすい職場環境」を考える

(ア) ナーシングスキル視聴

「現場の事例で学ぶ対人対応力向上のためのコミュニケーション術」

(イ) グループワーク

テーマ「組織風土をより良くするためのコミュニケーションについて」

各部署 11月開催

12月まとめ

1月師長主任会報告、各部署報告

(ウ) 管理職対象コミュニケーション研修

日時 2023年3月15日 3回講義室 22名参加

テーマ「コミュニケーションの可能性を拡げる」

違いを受け止めることで余裕をもって戦略的にかかわるために

(エ) 労基についてのアンケート

次年度目標

① 看護部基準・手順の見直し

② 研修会企画

(石塚 玲子)

【記録委員会】

1) 目的 看護の質保証とケアプロセスが見える記録が書ける

今年度目標

- ・看護必要度と看護記録の質向上に向けた記録の整備及び監査
外来看護記録基準作成
略語集作成

2) 委員会メンバー

委員長：佐藤 亜紀子（地域連携室）

1病棟：佐々木 駿輔、高橋 果奈 2病棟：伊藤 公恵、伊藤 美香、千田 恵美

3病棟：鈴木 聖也、外来：及川 富士子

3) 活動内容：定例会 第2木曜日 計12回開催

- ・‘22「重症度、医療・看護必要度」評価者及び院内指導者研修受講
- ・必要度のテキストとテスト作成、各病棟スタッフ受講
- ・必要度横断的監査の実施とフィードバック
- ・質の高い記録の監査実施とフィードバック
- ・看護記録と必要度の新人研修実施
- ・外来看護記録テンプレート使用提案

4) 次年度も継続した監査活動と、電子カルテ看護記録関連の整備（略語集作成、外来記録記載基準作成）を行い、記録の質向上に努めていきたい。

（佐藤 亜紀子）



【臨床指導者委員会】

1) 構成メンバー

大黒 なか子 (看護部長)、和賀 明美 (病棟師長)、高橋 綾子 (1病棟主任)、
鎌田 千恵美 (1病棟)、北條 智 (2病棟)、小松 琴美 (3病棟)

2) 活動報告

臨床指導者委員会は、2022年度新設された委員会です。看護学生の臨地実習は、大学の教員、実習施設の臨床指導者、そして学修する学生により成立する教授学習過程です。そのため、各大学と実習施設と連携と協働し、実習環境調整を行うことが重要となります。

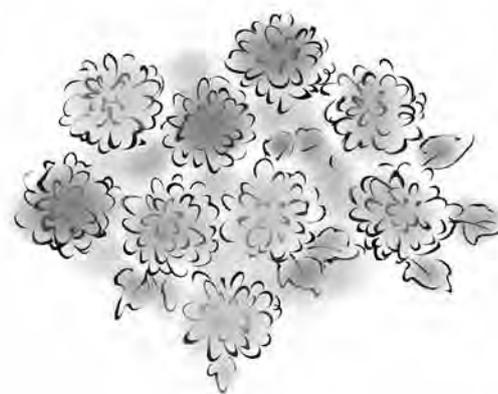
本委員会は、大学と実習施設における連携・協働体制の構築と、学生にとって効果的な臨地実習が行われるよう環境調整を行う位置付けとして活動開始しました。

- ① 2022年度計8回委員会は開催
- ② 各大学の領域別臨地実習の打ち合わせ内容を、実習目的が達成出来るように委員会内で共有し、各指導者へ周知
- ③ 委員会メンバー1名が臨地実習指導者研修会に参加し、委員会メンバー及び病棟内へ研修内容を伝達実施
- ④ 各大学の実習指導者連絡協議会、看護管管理者と看護系教育関係者との意見交換会への参加

3) 今後の目標

実習目的及び目標に沿った実習場面の調整が適切に提供でき、看護の実践者として役割モデルとなる実習指導者の育成を継続する

(和賀 明美)



【看護部教育委員会】

1) 構成メンバー

1病棟：川上 香織、鎌田 恵美、2病棟：北條 智、千葉 彩佳、3病棟：小松 琴美、
外来：影山 友里恵、手術室：佐藤 カナコ、患者サポート室：斉藤 文子、
師長：佐々木 多恵子

2) 委員会開催日： 第1木曜日 17:00～

3) クリニカルラダーについて

【活動目標】

- ① 地域医療振興協会クリニカルラダーの目的を黒川病院全看護師が理解することができる
- ② クリニカルラダーの評価を適切にマニュアルに沿って実施することができる
- ③ 看護の質向上のために自己の看護実践を振り返る機会を作る

【活動評価】

- ① について
(ア) 5月までに各部署のマニュアルを整理し、再配布した
(イ) 各部署の教育委員が5月末までに各個人にクリニカルラダー別資料を配布した
- ② について
(ア) 「キャリア開発」の動画または本部のナーシングスキル動画を8月までに1人1回以上聴講した
- ③ について
今年度は一人1年に1日教育の日を設けクリニカルラダー別の集合教育を開催した
半日：ナーシングスキル視聴、半日：集合教育
クリニカルラダー別に数人で集まって自己の看護について語る場を設定した。
方法：所定の用紙を用意し、それに沿って自己体験した看護をナラティブに語りグループワークを行い、自分の大切にしている看護について発表し参加メンバーで共有した。
参加人数：93人 開催回数：17回
アンケート結果：ポジティブな意見が84名、高評価であった。

4) 新人教育について

今年度 該当なく実施なし

5) 第1回地域医療振興協会看護職育成体制発表会

「公立黒川病院クリニカルラダー導入の実際」 発表者 佐々木 多恵子

(斉藤 文子、佐々木 多恵子)

3. 医療技術部

【薬剤室】

1) スタッフ

薬剤師 8名（臨時2名）、調剤助手 1名（2022年度開始時）

薬剤師臨時職員1名が9月末に退職し、10月以降は薬剤師7名体制となった。

2) 今年度の実績

① 外来業務

患者からの薬不足の訴えが多い。時間の許す限り薬内容確認や服薬指導に努める。

② 入院業務

人員減少により、2病棟での業務時間は半分になった。開始時間を早めるなどの時間確保の工夫をしたが、服薬指導件数は前年度より約9%減少した。

③ 委員会活動・チーム医療への参画

化学療法室、糖尿病教室、NST、ICTなどの業務に参画した。

④ 研修

新規採用薬の説明会を2回実施した。

⑤ 人員確保の取り組み

3月に東北医科薬科大学の就職説明会に参加した。

本部薬剤部会のホームページに部署紹介記事を掲載した。

3) 今後の目標

人員確保に努める。業務改善による効率化を図り、病棟指導件数増加を目指す。

処方箋数及び薬剤指導件数

	2020年度	2021年度	2022年度
外来処方箋数	40,099	39,641	38,830
入院処方箋数	15,253	17,657	16,644
薬剤管理指導1件数（ハイリスク薬）	151	192	169
薬剤管理指導2件数（上記以外）	202	189	179
退院指導件数	14	9	19
麻薬指導件数	8	36	10

（高橋 恵）

【臨床検査室】

1) スタッフ

臨床検査技師 常勤職員 4名

2) 昨年度実績

① 業務

年度内を通し COVID-19 関連検査は、抗原定性（イムノクロマト法）、抗原定量（CLEIA法）、核酸増幅法（NEAR法）の3方法を継続することでの対応となった。検査実績数は前年度から横ばい、その他の検査業務についても大きな変化はなかった。前年度目標に掲げていた有給休暇取得日数の増加などは、改善されず課題として残った。

② 機器関連

4月 睡眠評価装置（簡易）Watch PAT（フィリップス・ジャパン）に更新

③ 学会・研修会

（ア）オンライン研修・学会

2月 令和3年宮城県臨床検査精度管理報告会

2月 宮城医学検査学会

5月 生理検査研究班研究会

6月 グローバルエコーセミナー

7月 富士フィルム和光純薬 WEB セミナー

その他参加数 36回

（イ）院内研修会

12月 シスメックス主催【日本製手術支援ロボット Hinotori について】

④ その他

特になし

3) 今後の目標

- ① ルーチンワークの効率化、検査データの理解のためケーススタディーミーティングを行う
- ② スタッフ間の検査業務範囲を考慮する（産休育休に対応。バックアップ体制）
- ③ 有給休暇の取得日数を増加する
- ④ 外部又は内部での研修会へ参加（業務へのフィードバックなどを目的とする）

4) 検査実績

① 検体検査

検査項目	2020年度	2021年度	2022年度
生化学・免疫	48,502	55,346	52,443
血液・凝固	17,797	20,031	18,407
血液型・輸血	337	398	359
一般	25,149	27,851	26,381
核酸増幅		766	1,556
合計	91,785	104,392	99,146

② 生理検査

検査項目	2020年度	2021年度	2022年度
心電図	6,102	6,794	6,387
肺機能	536	652	563
ホルター心電図	89	101	100
P S G	86	84	63
純音聴力	198	205	257
その他	46	54	35
合計	7,057	7,890	7,405

③ 超音波検査

検査項目	2020年度	2021年度	2022年度
心臓	309	387	353
腹部	1,606	1,764	1,705
頸動脈	16	20	17
下肢	19	43	32
その他	0	0	0
合計	1,950	2,214	2,107

④ 外注検査

検査項目	2020年度	2022年度	2022年度
検体	3,816	3,848	3,505
細菌	819	1,134	1,085
病理・細胞診	569	579	570
合計	5,204	5,561	5,160

(渡辺 峰人)

【栄養室】

1) スタッフ

管理栄養士	2名
委託職員（グリーンハウス）	12名

2) 今年度の実績

- ① 褥瘡ラウンド 週1回参加
- ② 院内感染ラウンド参加
- ③ VE・VF検査 週1回実施
- ④ 入院、外来栄養指導
- ⑤ 栄養だより 4回、季節のたより 12回発行
- ⑥ 糖尿病たより 4回発行
- ⑦ 広域くろかわの栄養情報の掲載 4回執筆
- ⑧ 臨地実習生の受け入れ 年1校 2名
- ⑨ 行事食の提供

病院栄養士2人ながらも、他職種と協力し合い患者様のために日々活動しています。食事についても委託会社と話し合いながら、内容や味付け等の検討を重ねています。今年度は、各病棟でのカンファレンス参加によりきめ細かなフォローができるようになりました。委員会等で業務の整理と患者サービスのバランスを取りながら、安心安全な食事の提供に努めています。

3) 今後の目標

他職種と協力して栄養状態の改善に努め、個人対応表を使い食事の満足度を上げていく。栄養情報提供書を利用し病院・施設間での連携を密にする。

4) 実績データ

- ① 栄養指導（個人） 入院 108件、外来 104件
- ② 栄養情報提供書 4件

（小岩 陽子）

【リハビリテーション室】

1) スタッフ

PT 25名、OT 16名、ST 5名（内 産休・育休 5名） R5年3月31日現在

2) 特徴、今年度の実績

各職種とも、①一般病棟・包括ケア病棟・外来、②回復期リハ病棟、③訪問リハ、④通所リハの4つのチームに分かれて業務にあたっています。今年度はCOVID-19の感染対策を行いながら、チームごと試行錯誤で業務を行いました。特に秋以降、病棟稼働率の上昇に伴い、患者数に対するリハ職員数の比率が低下し、繁忙を極めておりました。

① 一般病棟・包括ケア病床・外来リハ

早期離床と日常生活動向上を目標にリハビリに取り組んでいます。褥瘡予防、関節拘縮予防または治療のためのポジショニング（115例）を積極的に実施しています。的確な体位変換やポジショニングを病棟に提供し、トランスファーボードやリフトなどの福祉用具を積極的に活用しています。積極的に離床し早期合併症の予防やADLの向上を図りました。呼吸、廃用症候群、がんのリハ件数が増加しました。

また地域包括ケア病棟においてはADL向上と在宅復帰率向上を目的に疾患別リハ以外の患者に対してもリハビリの介入を行っています（2762単位）。排尿自立指導料に関しても多職種と連携して（177件）算定しました。

外来リハでは早期退院した下肢関節疾患や肩関節疾患を中心に治療を行っています。またボツリヌス療法（47例）後のリハビリテーションも実施しています。言語聴覚療法部門では嚥下スクリーニング、嚥下評価として嚥下造影（68件回復期含む）、嚥下内視鏡検査（27件）時の診療補助業務の他、食事内容や摂取方法の支援、嚥下リハビリテーションの他、摂食機能療法を実施しております（8例 41単位）。

また、外来患者における自動車運転評希望者に対する高次脳機能面の評価も実施していません。

② 回復期リハ

定期的に回診、カンファレンスを行いながら、リハビリの進捗状況を確認し、多職種連携したリハビリを提供しています。HANDS療法やCI療法の施行が増え、磁気刺激装置や振動刺激を用いた重度運動麻痺に対するアプローチを積極的に行っています。重症の患者様や荷重制限がある患者様に対して、免荷式リフトPOPOを使用し早期より立位練習・歩行練習を行い機能回復に努めております。摂食嚥下リハビリテーションとして、経管栄養からの経口摂取への移行、他直接的嚥下訓練を実施しております。非常勤の日本リハビリテーション医学会専門医による装具診は、41件の診察を行いました。

院内研修として回復期PTによる「人工関節置換術後の禁忌肢位と介助方法の講習」を各病棟スタッフへ向けて行いました。

③ 訪問リハ

黒川郡、富谷市、色麻町を対象に実施しています。月 330 件の実績を目標にしていたが昨年度同様 1 ヶ月のみ達成という結果となってしまいました。訪問看護ステーションからの医療保険該当者は 342 件訪問しそのうち 75 件は小児疾患で数少ない小児の訪問リハに介入することで地域に貢献することができました。訪問リハ利用者でもボツリヌス療法を受ける方（6 例）が増え、地域包括ケア病棟スタッフと協力しながら実施しています。今年度も他院主治医の診察もコロナ禍で対面が難しかったため医師の協力を得てオンライン診療を実施しました。

④ 通所リハ

今年度、サービス提供時間や利用者定員の変更を行いました。4 月～6 月は、火・水・金曜日 6-7 時間（定員 35 名）、月・木曜日（午前中）3-4 時間、月曜日（午後）1-2 時間（同 30 名）でサービスの提供を行いました。7 月からは新体制へ変更を行い月～金曜日 6-7 時間・3-4 時間（定員 35 名）で提供を行い、利用者数の増加を図りました。しかし、利用者・職員の新型コロナウイルス感染に伴い、8 月～12 月にかけて計 21 日間の休業を行いました。その為、月 540 件の実績を目標としていたましたが、平均 386.1 件/月に留まり目標達成に至りませんでした。加算に関しては、医師の協力を得てリハマネ加算 B の算定が 42 件と前年度（23 件）を大きく上回り算定件数を増やすことができました。

3) 今後の目標

- ① 外来、入院患者を兼務していることから引き続き covid19 の感染対策を行う。心大血管リハビリが 7 月から開始になるため、心リハの知識・技術をチーム内で共有し、より質の高い心リハを提供できるように努める。他職種と連携し早期に離床、ADL の向上が図れるように努める。
- ② covid19 の感染対策を引き続き行いながらスタッフでの家屋評価を再開していく。より早期から本人・家族と家屋状況・リハ状況・退院目標を共有し患者参加型のリハビリを提供できるよう努める。
- ③ 介護保険の訪問リハと訪問看護ステーションからの医療保険該当者のリハを合わせて月 400 件を目標とする。小児の訪問リハの需要が増えてきて年度末から依頼数も増えてきているので小児の疾患についての知識を身につけていく。
- ④ 感染予防対策を徹底しつつ、利用者本位の多様な価値観目標に合わせた通所リハを進め、利用者の増加、必要に応じた加算算定の増加が図れるよう努める。

4) リハビリテーション室診療実績

入院	30年度	R1年度	R2年度	R3年度	R4年度
運動器疾患リハ	33,720	35,089	27,044	28,863	27,231
脳血管疾患リハ	46,643	50,959	60,823	56,434	52,018
廃用症候群	4,675	3,992	2,130	5,239	7,185
呼吸器疾患リハ	315	74	2,180	4,552	5,167
摂食機能療法	33	66	51	80	41
がんリハ	91	321	487	712	1,328
(単位数)					
外来	30年度	R1年度	R2年度	R3年度	R4年度
運動器リハ	3,058	3,462	2,428	1,967	1,249
脳血管リハ	202	381	469	183	63
廃用症候群	0	0	0	0	0
呼吸器疾患リハ				14	0
(単位数)					
	30年度	R1年度	R2年度	R3年度	R4年度
訪問リハ(件数)	4,182	3,835	3,794	3,441	3,252
〃(単位)	8,493	7,815	7,826	7,089	6,573
訪問看護(件数)					342
医療保険リハ					
	30年度	R1年度	R2年度	R3年度	R4年度
通所リハ延べ件数	5,644	6,427	6,347	5,294	4,634

5) R4年度臨床実習学生受け入れ人数

理学療法 15名
 作業療法 5名
 言語療法 1名

6) 講演発表

- 2022/7/23 『第1回研修会 訪問リハビリテーション入門編』
大塚英樹(リハビリ). 新潟訪問リハビリネットワーク
- 2022/9/30 『リハビリテーション・ケア合同研修大会 日本訪問リハビリテーション協会シンポジウム座長』
大塚英樹(リハビリ). 苫小牧
- 2022/11/12 『知っておきたい動作介助とポジショニング』
菅原一禎(リハビリ). 宮城県看護協会

- 2023/3/10 『令和4年度栗原市介護予防のための地域ケア会議助言者研修会』
大塚英樹（リハビリ）. 栗原市

（千葉 美玲）



【放射線室】

1) 人員

診療放射線技師 常勤 5名

通常勤務のほか、輪番で自宅当直体制をとっています。

2) 今年度の実績

今年度、機器の更新や新規導入、バージョンアップなどもなく、業務運営上取り組むべき大きな課題が少ない1年ではありました。マンモグラフィー検診施設認定への絶好の機会とも考えましたが、コロナ禍による認定講習会の中止が長引き、試験会場も全国数か所に限られるなど、職員の意欲をくじかれる状況が続いてしまいました。次年度以降も引き続き取り組んでまいります。

検査件数を見てみますと、コロナ感染症の拡大期、収束期との大きな相関関係は認められず、これは病院全体で感染管理とともに検診など通常業務を維持していかねばならない、という総意と意欲による大きな成果であったと考えております。

遠隔画像診断の所見見落とし事故防止の取り組みについては、変わらず紙運用にて主治医に確認をうながすという対処が続いております。これには主任と新入職員が中心となり、通常業務もこなしながら運用を続けておりました。職員にはかなりの負担となっておりますが、電子カルテの更新時期までの間、地域医療の安全向上のため職員一丸で続けてまいります。

3) 実績データ

年度 撮影機器	2022年 (件)	2021年 (件)	2020年 (件)
一般撮影	17,405	18,473	16,916
マンモグラフィー	3,443	3,778	3,422
C T	2,359	2,690	2,215
冠動脈 CT (再掲)	3	4	1
M R I	1,153	1,189	1,083
透視撮影 (※1)	1,393	1,500	1,312
骨密度測定	226	227	227

(※1: 外科用イメージによる手術中の透視業務を除く)

(石森 靖朗)

【居宅介護支援事業所】

1) スタッフ

以下の2名で構成

主任介護支援専門員 2名（うち1名は居宅介護支援事業所管理者兼務）

2) 今年度の実績

居宅介護支援事業所とは介護保険法にもとづき、要介護認定を受けた人が自宅で介護サービスなどを利用しながら生活できるよう支援する事業所です。具体的には、介護支援専門員（ケアマネージャー）が本人・家族の心身の状況や生活環境、希望等に沿って、居宅サービス計画（ケアプラン）を作成し、それに基づいて介護保険サービスなどを提供する事業所との連絡・調整を行います。組織上は当院の医療技術部に所属し、地域連携センター室内に席を置かせて頂き、業務にあたっております。2021年度より居宅介護支援事業所の管理者要件が主任介護支援専門員に限るとの方針が示されたことを受け、当事業所では昨年度までに2名とも主任介護支援専門員を取得致しました。

当居宅介護支援事業所の直近3年間の実績

	令和4年度	令和3年度	令和2年度
相談件数	35	41	38
新規	19	28	22
終了	17	22	21
総ケアプラン数	755	739	723
平均担当件数（月）	31.4	30.7	30.1
入退院連携加算数	44	63	66

3) 今後の目標

- ①引き続き月平均担当数30件を維持し収支の安定を図る。
- ②入退院、在宅サービスの円滑な実施を支援することで地域住民に貢献する。
- ③医療機関との連携促進のため入退院連携加算の算定を8割以上実施する。
- ④資質向上のため、ケアマネ協会や地域包括支援センター等が主催する研修会へ積極的に出席する。

（石川 篤）

4. 事務部・その他

【総務課】

- 1) スタッフ： 常勤 6名 非常勤 3名
部署内の能力底上げを図るため、人事係と経理係の担当者入替を行い相互に補完できる体制の構築を図った。併せて、庶務業務等も見直しし、効率のいい運用が出来るようにした。
- 2) 令和4年度の実績
 - ① 新型コロナウイルス感染症に伴う対応
 - (ア) 感染予防機器や消耗品の導入と管理
 - ・ 正面玄関における、自動体温計測装置を用い患者さんへの検温実施。
 - ・ 感染予防対策として、飛沫防止パネル・空気清浄機・サーキュレーター等の運用。
 - ・ 継続的な感染防護用品の確保。
 - (イ) 発熱外来・院内検査支援
 - ・ 発熱外来での発熱患者待合室（プレハブ等）の維持管理。
 - (ウ) ワクチン接種支援
 - ・ 関係自治体とのワクチン入荷調整。
 - ・ 接種予約管理（WEB予約システムの導入と運用）
 - ・ 接種フローの構築（職員および患者接種の流れ）
 - ・ 接種当日窓口対応（受付、問い合わせ対応、誘導等）
 - ・ 接種関連書類管理（問診票、接種済証等）
 - ② 行政組合への医療機器・設備更新
 - ・ 総額 7,400万円の更新
内訳) 医療機器の更新（オンライン資格管理システム、三次元眼底像撮装置 他）
7,678万円
設備の更新（ナースコール装置、空調設備更新 他） 3,610万円
 - ③ 出前講座・絵画展示等
 - ・ 院内美術館の展開（地元画家との協業による絵画展示）
 - ④ 監査対応等
 - ・ 保健所立入検査（書面での提出のみ）
 - ⑤ 資金調達等
 - ・ 運転資金として、4億円を本部より借入を行った。
- 3) 今後の目標
 - ① 新型コロナ感染症5類から2類への移行後対応（院内体制や業務効率化支援）
 - ② 職員に寄り添った就業環境の整備（外部産業医・カウンセラーの招聘等）
 - ③ 各種業務の電子化による事務作業の効率化と院内展開
 - ④ 担当業務変更等、業務効率化および部門力強化の為フレキシブルな対応

（富田 学）

【医事課】

1) 職員数

- ① 医事部門 常勤 5 名、委託 19 名
(内訳) 統括 1 名、入院会計担当 3 名、外来会計担当 1 名、外来会計委託 19 名
- ② 情報システム部門 常勤 1 名
(内訳) 医療情報担当 1 名

2) 業務内容

- ① 医事部門
診療科受付、窓口会計、診療報酬請求、医事統計作成、施設基準届出および管理、診療情報管理（診療録管理、DPC データ作成、全国がん登録データ作成）、未収金管理、患者相談窓口対応等
- ② 情報システム部門
院内情報システムの運用保守、各種データ統計作成、電子カルテおよび各部門システム導入等

3) 今年度の実績

- ① 医事部門
 - ・ 新型コロナに関する診療報酬算定
 - ・ 債権回収の業務委託
 - ・ オンライン資格確認端末の導入
- ② 情報システム部門
 - ・ 電子カルテおよび各部門システム等安定稼働維持

4) 今後の目標

- ・ 業務の効率化による時間外労働の削減
- ・ 年休取得率の向上
- ・ 医療費請求の適切化
- ・ システムの安定稼働維持
- ・ 院内への有用なデータの継続的な作成と提供
- ・ クレジットカード払いの導入
- ・ 口座振替の導入
- ・ 債権回収の強化

(鈴木 広明)

【経営企画室】

1) スタッフ： 常勤 0.5名 *令和4年度より、健康診断室係員と兼務

2) 令和4年度の活動実績

① ニュースレターの発刊

経営に関する情報を収集し、ニュースレターとして19回を発刊し、情報提供を実施した。

バックナンバー： MOSS → 経営企画室 → 1. ニュースレター

② 分析レポートの作成

経営判断を要する新規事業および既存事業の状況について、分析レポートを6編作成し、情報提供を実施した。

バックナンバー： MOSS → 経営企画室 → 2. レポート

③ 経営指標の整備

既存の14つの経営指標に加え、経営状況をタイムリーかつ直感的に捉えるため新たに、下記の1つの指標を整備した

「15. 開設からの移動年計値」

保管場所： MOSS → 経営企画室 → 3. 経営指標

3) 今後の目標

R4年度は、健康診断室と兼務となりアクティビティが低下した面が否めない。
今後は、従前の活動ができるよう努めていきたい。

- ・ 経営判断に資するデータ収集および分析等の情報提供
- ・ 新規事業および既存事業の経営改善への支援
- ・ 経営指標の管理

(高橋 秀作)

5. 直轄部門

【医療安全管理室】

1) スタッフ

医療安全管理者：専従 GRM 佐々木 貴子、看護部長：大黒 なか子、副管理者：南家 俊介、
医療機器安全管理責任者：石森 靖朗、医薬品安全管理責任者：高橋 恵、
相談窓口担当責任者：斉藤 文子、総務：山下 恵子、医事：鈴木 広明、
安全対策員：景山 博、MSW：日吉 美沙樹

2) 今年度の実績

① 週1回医療安全部門会議（47回）実施

- ・ インシデントレポートの情報共有、分析、対策立案、評価
- ・ 相談窓口との情報交換、対応協議

② 医療安全院内ラウンド

- ・ 医療安全ラウンド：医療安全管理室メンバーで毎月1回（12回）実施
医療安全委員会、リスクマネージャー会議で内容報告
- ・ 無断離院患者ラウンド：相談窓口師長、安全対策員、GRMで患者訪問

③ 院内研修会の実施

- ・ 薬局出前講義：外来、各病棟、手術室、訪問ステーション実施（6部署）
- ・ 機器講習会：1回、MRI研修会
- ・ 全職員対象研修会：2回「医療安全の基本を知る」「各部署の業務改善報告」

④ 医療安全強化月間活動 11月

- ・ 医療安全川柳、5S活動、タイムアウトポスター、ありがとうカード掲示
- ・ 転倒転落予防チーム活動紹介、今年度の医療安全パトロール報告掲示

⑤ 地域連携相互評価会議（オンライン会議、病院訪問）

- ・ 坂総合病院（加算1）：5/30、7/28、9/28、12/5（坂ラウンド）12/12（黒川ラウンド）
2023/2/16 計6回
- ・ 松島病院（加算2）：2/2 計1回
- ・ 5病院連携会議：坂、黒川、松島、長町、泉病院 6/30 計1回

⑥ BLS活動報告（委員長：鈴木聖也、他スタッフ12名構成）

- ・ 委員会、院内講習会開催（9回）講習対象：看護助手、介護福祉士（29名）

⑦ 転倒転落予防チーム

- ・ 病棟ラウンド：延べ89名実施
- ・ 院内報告会：9月職員全体会転倒転落データ報告実施

3) 今後の目標

- ① インシデントレポートの活用と評価、及び報告文化の醸成
- ② アクシデント（レベル3b以上）が起きた際の速やかな対応と報告
- ③ 各部署のインシデントカンファレンスの定着（佐々木 貴子）

【健康診断室】

1) スタッフ数

担当医師（内科医師）	3名	担当看護師（外来兼務）	1名
健診渉外係長	1名	看護助手	1名
健診事務	2.5名（0.5は経営企画室兼務）		

2) 業務内容

① 各種健康診断の実施

- (ア) 全国健康保険協会生活習慣病予防健診、特定健診（被扶養者）
- (イ) 宮城県市町村職員共済組合 共済ドック・共済脳ドック
- (ウ) 企業定期健診、雇入時健診、人間ドック
- (エ) 企業特殊健診 騒音・赤外線・じん肺・電離放射線・有機溶剤・特化物・他
- (オ) 代行機関健康診断委託契約
 ウェルネス・コミュニケーションズ(株)・(株)ベネフィットワン・イーウェル(株)・
 (株)バリューHR、日本予防医学協会、半田市医師会センター他
- (カ) 個人 雇入時健診、人間ドック・脳検診・乳がん検診・子宮がん検診

【健康診断実績】（件数） ※過去5年推移（職員健診実数に含まず）

	2018年度	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度
健康診断	5,102	4,855	3,835	4,209	4,038
特定健診	130	104	154	83	79
人間ドック	195	269	220	249	258
脳検診	153	173	126	100	118
乳がん検診	560	569	487	567	572
子宮がん検診	586	566	504	563	577

- ② 結核検診（宮城県塩釜保健所黒川支所）
- ③ 住民検診（各町村胃がん・大腸がん二次検査、乳がん検診、子宮がん検診、脳検診）
- ④ 予防接種（インフルエンザ、肺炎球菌、B型肝炎など）
- ⑤ ワクチン接種（B型肝炎ワクチン・麻疹風疹ワクチンなど）
- ⑥ 特定健康診査（国民健康保険被保険者対象8～9月）
- ⑦ 職員健康診断（年2回定期・入職時健診〈随時〉）

3) 2023年度目標

- ① 業務改善（通常業務の効率化について検討の継続）
- ② 健診・ドック受診者数の増（健診360人/月・人間ドック40人/月）

（太田 忍）

【地域連携室】

- 1) スタッフ 地域連携室長 佐藤 亜紀子
地域連携係長 宮澤 玲子

2) 今年度の実績

- ① 紹介件数 1,892 件 (前年度 1,878 件)
② 診療科別紹介件数

診療科	紹介件数	前年度
内 科	914 件	715 件
整 形 外 科	489 件	504 件
外 科	202 件	135 件
泌 尿 器 科	161 件	108 件
眼 科	23 件	34 件
婦 人 科	33 件	13 件
耳 鼻 科	21 件	30 件
小 児 科	24 件	10 件
皮 膚 科	25 件	14 件

- ③ 返書率 99.9% (前年度 95.3%)
④ 紹介率 46.1% (前年度 42.6%)
⑤ 他院診療予約件数 336 件 (前年度 383 件)
⑥ 受託検査
 (ア) MRI 169 件 (前年度 145 件)
 (イ) CT 14 件 (前年度 13 件)
 (ウ) PSG 4 件 (前年度 7 件)
 (エ) 嚥下造影 1 件 (前年度 2 件)
 (オ) レスパイト入院 6 件 (前年度 10 件)
⑦ 医療機関訪問・意見交換 6 件
⑧ 受診、入退院お知らせ 2,188 件

3) 今後の目標

地域連携室は、地域の皆様に安心と満足の医療・療養環境を提供できるよう医療・関係機関、福祉施設と連携し、地域と病院を繋ぎます。

(佐藤 亜紀子)

【患者サポート室】

1) スタッフ

患者サポート室長兼看護師長 齊藤 文子

2) 今年度の実績

患者サポート室は、入院、外来問わず患者・家族の不安・不満・疑問に答える窓口として活動を行っています。

主な業務は、患者相談窓口担当です。患者・家族の様々な相談に応じています。苦情やご意見にも対応しています。今年度も昨年に引き続き新型コロナウイルス感染症に関する問い合わせが多く、内容別でも他の項目を上回る結果となりました。

相談窓口対応件数：

内容	2021年度	2022年度
案内業務	1,831	1,718
受診科の相談	1,010	1,212
診断書・書類について	27	4
診療内容について	25	15
医療費について	26	11
入院・生活上の不安	12	29
苦情・ご意見	58	33
発熱トリアージ	912	1,863
車椅子介助	542	771
急患対応	44	43
ワクチン接種の問い合わせ	166	32
個別対応	75	96
その他	72	43

ご意見箱：14件／年

3) 今後の目標

患者・家族が外来・入院を問わず、安心して受診できるようにサポートしていきます。苦情・ご意見等も真摯に受け止め、多職種と連携しながら改善策を検討し回答していきます。気軽に相談できる環境を整え、患者に寄り添った支援をしていきます。

(齊藤 文子)

【医療社会事業課】

1) スタッフ数

課長 補佐 赤間 弘治
社会福祉士 佐山 悠樹
社会福祉士 日吉 美沙樹

2) 令和4年度の実績

医療福祉相談室

相談件数	470件
退院支援	231件
社会福祉制度説明	51件
経済的問題支援	0件

3) (目的別) 転院相談受け件数

① 内科、外科系等

リハビリ目的 (地域包括ケア病棟)	65件
リハビリ目的 (回復期リハビリテーション病棟)	152件
その他 (リハビリ以外)	24件
合計	241件

② 整形外科

リハビリ目的 (地域包括ケア病棟)	30件
リハビリ目的 (回復期リハビリテーション病棟)	79件
その他 (リハビリ以外)	0件
合計	109件

4) 学会発表

JADECOM 学術大会 MSW 部会
佐山 悠樹
日吉 美沙樹

(赤間 弘治)

VI. 委員会報告

【防災対策委員会】

1) 構成メンバー

医 局 田口 勝行
看護部 佐々木 駿輔、伊藤 美香、工藤 利竜、石川 文子、滝田 麗子、
新津 佳代、鈴木 純子
医療技術部 山崎 晃平
事務部 富田 学、鈴木 広明、海老名 勇介

2) 活動報告

計 7 回の委員会を開催（偶数月の第 4 水曜日）

① 避難訓練：合計年 2 回（毎年：9 月、3 月 第 2 木曜日）

月日	想定内容	参加人数
令和 4 年 10 月 13 日(木)	夜間想定 of 避難・消火訓練	25 名
令和 5 年 3 月 9 日(木)	夜間想定 of 避難・誘導・消火・通報訓練	18 名

② 災害対策マニュアルの改訂

- (ア) 地震関連
- (イ) 火災関連
- (ウ) 風水害・土砂災害関連

3) 次年度の目標

- ・各種マニュアルの見直し
- ・防災倉庫の整理
- ・備蓄品の見直し

(田口 勝行)

【医療ガス安全委員会】

1) 構成メンバー

委員長	角田 浩 (管理者)
医局	松川 周 (麻酔科)
医療技術部	高橋 恵 (薬局室長)
事務	海老名 勇介
守衛室	佐藤 (医療ガス担当者)

2) 活動報告

医療ガスに係る安全管理を図り、患者の安全を確保することを目的とする委員会であり、令和5年3月23日(木)に委員会を開催し、以下の件につき報告を受けた。

- ① 日常点検内容の確認
- ② 年次点検立ち合い報告
- ③ 医療ガスの安全管理、医療ガス事故例について
- ④ 医療ガス関連修理状況報告

3) 次年度の目標

- ① 年1回以上の委員会開催および外部業者の活動チェック
- ② 医療ガスの安全と保守についての研修会開催

当面年2回程度、エア・ウォーター社による酸素ボンベの取扱い研修を検討する

(松川 周)



【情報委員会】

1) 構成メンバー

医 局 南家 俊介
医療情報 高橋 秀作、小川 順
看護部 酒井 美由紀、松田 育、佐々木 翠、工藤 利竜
医療技術部 森 千絵、天江 瑞紀、猪股 有耶加、伊藤 麻美

2) 活動報告

2022 年度は合計 12 回の情報委員会が開催された。

主な討議項目

- ① 院内電子掲示板コンテンツの定期的な見直しと入れ替え
 - (ア) コロナ関連のコンテンツが多く使用された
- ② 院内電子ネットワークシステムの保守・点検
 - (ア) オンライン面会の環境整備や準備
 - (イ) リモート会議の機器整備など
 - (ウ) 故障端末等の交換・修理
 - (エ) PACS リプレイスの準備/実施
 - (オ) サイバーリスク保険加入の検討
 - (カ) 遠隔診療システム導入の検討
 - (キ) 検査データ管理システム導入の検討
 - (ク) 情報セキュリティ規定の改定作業
 - ・本部指示により情報セキュリティ規定を改定した
- ③ その他情報通信機器/システムの整備
 - (ア) オンライン資格認証制度への対応
 - ・顔認証器機の設置/会計システムとの接続など
 - (イ) 停電等への対応

3) 次年度の目標

- ① ホームページ刷新の準備
- ② 院内ネットワークシステムの保守とセキュリティ対策

(南家 俊介)

【広報委員会】

1) 構成メンバー

地域連携室 佐藤 亜紀子、熊谷 泰子
看護師 鈴木 萌花、工藤 有佳
医療技術部 石森 靖朗
事務部 高橋 秀作、小川 順、阿部 幸恵

2) 活動報告

- ① 委員会開催日 令和4年5月～令和5年5月 計12回
- ② 刊行物
 - (ア) 広報くろかわ 4回/年 (行政事務組合発行)
 - (イ) みどり通信 4回/年 (地域住民向け)
 - (ウ) 緑風 2回/年 (医療機関向け)
- ③ ホームページ更新
- ④ メディネージ更新

3) 次年度の目標

刊行物の発行に加え、ホームページの更新をして地域住民の方や地域の医療機関へ最新の情報を発信する。

(佐藤 亜紀子)



【医療安全管理委員会】

1) 構成メンバー

委員長 大黒 なか子 看護部長、副委員長 佐々木 貴子 GRM、医局 南家 副管理者、
総務 山下 係長、医事 鈴木 課長補佐、1病棟 佐々木 師長、2病棟 伊藤 師長、
3病棟 和賀 師長、手術室 佐藤 主任、外来 石塚 師長、訪問看護 鈴木 所長、
地域連携 佐藤 師長、患者サポート室 斉藤 師長、リハ室・通所リハ 千葉 室長代理、
薬局 高橋 室長、放射線 石森 室長、検査室 渡辺 室長、栄養室 小岩 室長、
健診 太田 係長

2) 活動報告

- ① 定例委員会開催(毎月 第3月曜日 16:30～ 開催) 12回/年実施
インシデントレポート報告
(ア) インシデント報告数 1,090件 (昨年 1,144件)、ヒヤリハット: 46% (昨年 41%)
(イ) アクシデント報告 (レベル 3b): 5件 (昨年 1件)
(ウ) インシデント検討会 (重要事例): 5件 (昨年度 4件)
- ② 医療安全全職員研修会 (年2回必須研修会)、アンケート調査実施
(ア) 第1回 令和4年7月1日～7月30日
「医療安全の基本を知る」 (ナーシングスキル研修) 263名/269名参加(99%)
(イ) 第2回 令和5年3月2日～3月17日
医療安全活動報告会「業務改善」(動画配信)
講師:各部署のリスクマネージャー 263/266名参加 (99%)
- ③ 医療安全管理室下部組織活動
(ア) BLS-AED チーム活動: 1回/月 講習会参加人数: 29名
(イ) 転倒転落予防チーム: 定期ラウンド1回/週、随時臨時ラウンド
ラウンド延べ患者数: 89名 (インシデントレベル 3b 以上1件)
- ④ 医療安全マニュアルの改定
(ア) 採血による末梢神経損傷、血腫圧迫痛発生時の対応の改正
(イ) 医療事故発生直後の対応、現場保存内容及び保存手順作成
(ウ) 麻薬の管理、麻薬使用表の見直し
(エ) CT/MRI 検査実施までの概要、CT/MRI 検査のお約束作成
(オ) 内服自己管理アセスメントシート改正

3) 次年度の目標

- ① 医療安全活動を推進し重大事故を防止する
- ② 職員の医療安全文化の醸成を図る

(佐々木 貴子)

【院内感染防止対策委員会】

1) メンバー

医局 : 委員長) 南家 俊介 (副管理者)、室長) 岩城 利充
看護部 : 大黒 なか子 (看護部長)、伊藤 公恵 (専任看護師)、
佐々木 貴子 (医療安全対策室)、及川 富士子 (外来)、
數野 友紀 (訪問看護)、熊谷 佳子 (手術室)、
遠藤 彩美 (1病棟看護師)、伊藤 郁哉 (2病棟看護師)、
高橋 美和子 (3病棟看護師)
薬局 : 高橋 恵 (室長) 検査室 : 渡辺 峰人 (室長)
放射線室 : 渋谷 圭介 (主任) リハ室 : 千葉 淳子 (主任)
事務部 : 阿部 敏彦 (部長) 総務課 : 小鹿 友紀子
医事課 : 影山 淳一 (係長)

2) ICT チームメンバー

医師 : 岩城 利充 薬局 : 高橋 恵 検査室 : 渡辺 峰人
看護師 : 伊藤 公恵、及川 富士子

3) 活動報告

- ① 委員会 1回/月
- ② ICT メンバー会議 1回/月
- ③ 感染ラウンド 1回/週
- ④ 合同カンファレンス 4回/年 (新興感染症訓練あり)
- ⑤ 院内感染対策研修会 2回/年 全職員必須研修

第1回研修 : ナーシングスキル聴講

「実際どうする？どこまでやる！？感染対策」 受講率 : 89.6%

第2回研修 : セーフティプラス聴講

「抗菌薬を大事に使おう！AMRに立ち向かいために」 受講率 : 94.5%

- ⑥ 院内針刺し事故 (血液暴露事故) 3件/年
- ⑦ 院内感染発生 (新型コロナウイルス感染症) 2件/年

3) 次年度の目標

- ① 標準予防策の啓蒙を徹底し、手指衛生のタイミングを遵守する
- ② 感染症のアウトブレイクを起こさない
- ③ 手指衛生の使用量が前年度より増加する
- ④ 各種培養検査を適切なタイミングで採取することを促し、結果に応じた抗菌薬を適正に使用することで耐性菌の検出率低下に貢献する
- ⑤ 各デバイス使用の患者について必要性を確認し、早期抜去につなげるよう支援する

(伊藤 公恵)

【診療録/コーディング委員会】

1) 構成メンバー

委員長・医師	森下 城
薬剤師	高橋 恵
看護師	佐藤 紗菜、酒井 美由紀、佐々木 翠、池田 奈津美
診療情報管理士	小川 順

2) 活動報告

2022年度は11回の委員会が開催された。

主な討議項目

① 適正な診療録の作成と管理について

(ア) 退院サマリーの作成状況の確認と作成依頼

現在70%程度で推移している。診療録管理体制加算1の基準を満たすため14日以内90%、30日以内100%のサマリー作成を勧奨する

(イ) 手術記録の作成状況の確認と作成依頼

- ・ 通年でほぼ100%を維持
- ・ 紙ベースでファイリングしているが、電カルに術式などの記載で可。電カル上で参照したい内容があれば都度スキャン依頼。

(ウ) 旧紙カルテや各種文書の保管状況の確認と廃棄予定のチェック

文書の種類ごとに処理を決定し、保管または廃棄とした。

(エ) 超音波検査の電子カルテへの画像添付について

現状のまま紙ベースで保存することになったが継続検討となった。

(オ) 付箋の管理について

付箋の乱立状態を解消するため、付箋整理を医局会などで勧奨した。

② 適正なコーディングについて

検証事例について詳細なコーディング見直しを行った。

今後、詳細不明コーディングが生じた際は、医師に確認すると共に、リスト化して周知することとなった。

(ア) 2021年10月～2022年9月での調査にて、詳細不明コーディングは、6-7%で年間10%未満の基準を満たしており今後も調査を継続していく。

(イ) 病棟入院中のコーディングが現在ほぼ実行されるようになり、詳細不明コーディングの減少に寄与していると考えられる。

③ クリニカルパスについて

昨年度に引き続き検討課題とし、診療情報管理の側面から運用状況の把握などの管理を行う。

④ 会議の開催回数について

毎月開催となった。

⑤ 指示簿の改訂について

業務改善委員会から引き継ぎ、今後の改訂は診療録委員会にて担当する。改訂要望の収集は引き続き業務改善委員会で施行頂く。

3) 次年度の目標

① 詳細不明病名の削減に引き続き取り組む

② サマリーの作成状況のモニターを継続し、早期作成の啓蒙を行う

③ クリニカルパスの管理の検討

④ 紙カルテ・検査結果の破棄

⑤ 電子カルテの不具合など情報収集、精査を施行し、情報委員会と協議など。

⑥ 指示簿の改訂

⑦ 診療録に関する業務の引き受け（主に業務改善委員会より）

(森下 城)



【輸血委員会】

1) 構成メンバー

【委員長】相良 守峰 (医局)

【委員】渡辺 峰人 (検査室)

佐藤 暢 (薬剤室)、佐藤 恵子 (検査室)、中野 優哉 (看護部)

岡田 留美 (看護部)、新津 佳代 (看護部)、本望 美和 (看護部)

和賀 明美 (病棟師長)、木村 千津 (事務部)

2) 活動報告

① 委員会開催 (計 9 回)

② 活動実績報告 (2022 年度)

輸血管理算定実績 : 57 件

輸血実績 : Ir-RBC-LR 247 単位

: Ir-PC-LR 90 単位

: Ir-PC-HLA-LR 0 単位

: アルブミン製剤 5% 25.0g

25% 112.5g

: グロブリン製剤 15.0g

輸血後感染症検査実施率 : 廃止

③ 主な活動内容と協議事項

- ・ 輸血マニュアルの改訂
- ・ 輸血後感染症検査を廃止に変更
- ・ 臨床輸血看護師試験に看護師 1 名が合格

④ その他

副作用発生件数 2 件 インシデント件数 2 件

Ir-RBC-LR 廃棄件数 6 単位 (廃棄率 2.37%) 前年度 8 単位 (廃棄率 2.22%)

3) 次年度目標

① マニュアルの変更点について継続した協議の実施

② 輸血時副作用の報告やインシデント詳細について委員会内での共有

③ 血液製剤発注を web に全面変更。運用面の徹底と問題点を協議事項とする

(相良 守峰、渡辺 峰人)

【臨床検査適正化委員会】

1) 構成メンバー

【委員長】相良 守峰（医局）

【委員】渡辺 峰人（検査室）

佐藤 暢（薬剤室）、佐藤 恵子（検査室）、中野 優哉（看護部）

岡田 留美（看護部）、新津 佳代（看護部）、本望 美和（看護部）

和賀 明美（病棟師長）、木村 千津（事務部）

2) 活動報告（委員会開催）（計 9 回）

〈外部精度管理〉

① 日本臨床検査技師会精度管理の結果報告（6 月に参加実施）

【評価】

A+B 評価：97.6%

C+D 評価：2.4%（すべてフォトサーベイの対象問題）

② 宮城県臨床検査精度管理の結果報告（10 月に参加実施）

【評価】

A+B 評価：100%

C+D 評価：0.0%

③ その他の外部精度管理への参加

5 月：コアプレスタサーベイ（積水メディカル）

コレステストサーベイ（積水メディカル）

6 月：RPR コントロールサーベイ（極東製薬）

WAKO サーベイ（生化学）

関東化学サーベイ（生化学）

HBA1c コントロールサーベイ（東ソ）

デタミナーサーベイ（協和メディカル）

9 月：イムノキャッチサーベイ（栄研化学）

10 月：KL-6、グリコ Alb コントロールサーベイ（積水メディカル）

11 月：CK-MB サーベイ（シノテスト）

2 月：尿定性サーベイ（アークレイ）免疫項目精度管理調査（ニットポー）

④ インシデント件数 89 件

3) 次年度目標

① 精度管理（内部、外部精度管理）の継続。SOP は監査対応も考慮する

② 外注検査項目を含めた検査データの精度管理を徹底する

③ 検体検査精度管理に関連するインシデントの詳細報告

（相良 守峰、渡辺 峰人）

【褥瘡対策委員会】

1) 褥瘡対策チーム構成メンバー

委員長 医師 武山 大輔、芳賀 泉、松本 翔子
皮膚・排泄ケア認定看護師 佐々木 多恵子
看護師 1病棟 鈴木 めぐみ、石井 美穂 2病棟 千田 恵美 3病棟 安部 真里菜
外来 崎山 順子 訪問看護 阿部 さくら
介護福祉士 1病棟 尾形 和香子 2病棟 千葉 真美、赤坂 優花
理学療法士 管原 一禎、佐々木 啓祐 作業療法士 今井 卓馬
管理栄養士 小岩 陽子、佐山 里美 薬剤師 高橋 秀紀 医事課 若生 真由美

2) 活動内容

- ① 委員会開催：毎月定例委員会開催（1回/月）12回開催
（4/10・5/12・6/16・7/14・8/12・9/8・10/13・11/10・12/8・1/12・2/9・3/9）
- ② 褥瘡対策マニュアル改訂
各項目を褥瘡対策チームで内容を再検討しマニュアルを改訂した
- ③ 褥瘡回診：毎週火曜日多職種での褥瘡ラウンド計51回実施
多職種（医師、皮膚・排泄ケア認定看護師、病棟看護師、管理栄養士、理学療法士、作業療法士、介護福祉士）でカンファレンスをしながらの褥瘡ラウンド継続実施

3) コンサルテーション件数

- ① 皮膚・排泄ケア認定看護師 佐々木へのコンサル件数（回診除く）
褥瘡：47件（病棟、外来含む）・スキンケア：8件・MDRPU：3件・IAD：16件
- ② PT 管原への急性期包括ケア病棟ポジショニングコンサル依頼数115件
（定期ポジショニング数除く）
- ③ OT 今井へのシーティングコンサル依頼数3件

4) CST（コンチネンスサポートチーム）の活動

- ① 構成メンバー
野村 竜矢、佐藤 結、村上 若、佐々木 多恵子
- ② 活動内容
年5回実施
6月 CSセット内プラン変更
大王製紙・ユニ・チャームメンリッケからユニ・チャームへ変更
7月...製品選定・オムツ研修会動画作成
8月...おむつの種類、おむつの当て方動画視聴研修
（全看護師、介護福祉士、看護助手対象）

オムツ重量表作成

近隣店での取扱アイテム作成

地域包括ケア病棟：おむつ回診（1回/週）実施

リーダー：佐藤 結、1病棟介護福祉士、1病棟リーダー看護師

5) その他

保有率・発生率（褥瘡・スキン-テア・MDRPU・IAD）

① 褥瘡保有率：6.12%・褥瘡新規発生率：0.83%

② スキン-テア保有率：0.45%・スキン-テア新規発生率：0.34%

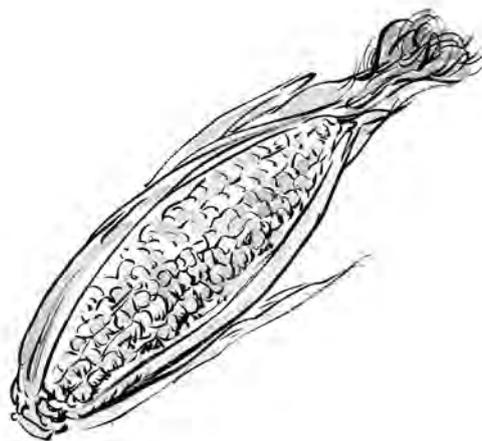
③ MDRPU（医療機器圧迫創傷）保有率：0.56%・MDRPU 新規発生率：0.42%

④ IAD（失禁関連皮膚障害）保有率：1.15%・IAD 新規発生率：0.64%

6) 次年度の目標

院内新規褥瘡、スキン-テア、IAD、MDRPU 発生率を 0.5%未満にする

（芳賀 泉、佐々木 多恵子）



【栄養委員会】

1) 構成メンバー

委員長 筒井 美穂 (医局)
医 局 武山 大輔→芳賀 泉
看護部 佐々木 多恵子、鈴木 めぐみ、千田 恵美、安部 真里菜
阿部 さくら、崎山 順子
医療技術部 高橋 秀紀 (薬剤室)、加藤 依子 (リハ室)、小岩 陽子 (栄養室)
佐山 里美 (栄養室)、三塚 彩 (グリーンハウス)
事務部 若生 真由美

2) 活動報告

計 12 回の委員会を開催

(4/14・5/12・6/9・7/14・8/4・9/8・10/13・11/11・12/7・1/13・2/9・3/9)

<主な議題>

- ① 食数、加重平均所要量、栄養指導件数報告
- ② 残食・嗜好調査結果について (6/14・9/7・2/1 実施)
- ③ 2021 年度の給与栄養目標量と実績の比較
目標値に近い値に改善している。成分表改定により栄養量が低くなる可能性があるため注意して見ていく。
- ④ 新型コロナ患者の食事提供について
- ⑤ エンシュアリキッドについて
エンシュアリキッド→エンシュア・H への切り替えについて
- ⑥ 食材料費の高騰について
委託費の値上げ交渉による対応について
- ⑦ 業務整理について
病棟配置用のトロミ剤の統一、糖尿食の簡素化について
- ⑧ インシデント対策について
時間外の入力について連絡の徹底を周知
- ⑨ 臨地実習生の受け入れについて

3) 次年度の目標

引き続き、病棟ラウンドやカンファレンスに参加し栄養状態の向上に努める。業務を整理し持続可能な安心・安全な食事提供に努める。

(小岩 陽子)

【薬事委員会】

1) 構成メンバー

医局 松尾 英史 委員長、医局全員
事務部 阿部 敏彦 事務部長
薬剤室 高橋 恵 室長、主任 佐藤

2) 活動報告

① 管理診療会議終了後、定例委員会の開催

令和4年. 4/25、5/28、6/27、7/25、8/22、9/26、10/24、11/28、12/26
令和5年. 1/23、2/27、3/27 合計 12回

② 委員会内容

(ア) 新規採用薬品等審議

(イ) 削除薬品、採用変更、採用統一薬品等審議

(ウ) 既存薬品についての情報紹介

(エ) 規格変更、販売移管、再在庫、自主回収、品薄、販売中止、
採用規格追加希望連絡

(オ) 薬価基準経過措置期間、欠品、一時供給停止等 新発売薬品情報

(カ) 後発医薬品への切り替えに関する審議

(キ) 使用期限切迫品のお知らせ

(ク) 各種薬剤情報

「効能・効果」「用法・用量」の追加や一部改訂、適正使用に関するお願い
使用上の注意改訂 等

3) 次年度の目標

- ・院内各部署へ各種薬品情報の提供
- ・新規採用薬品等の勉強会の企画、開催調整
- ・採用薬品数減少へ取り組む

(佐藤 暢)

【医療機器・材料選定委員会】

1) 構成メンバー

医局 角田 浩、南家 俊介、横道 弘直、田口 勝行、武山 大輔
田中 正彦、相良 守峰、岩城 利充
看護部 佐藤 カナコ
事務部 阿部 敏彦、高橋 秀作、鈴木 広明、海老名 勇介

2) 活動報告

今年度は書面にて、更新する医療機器・設備を報告

主な討議事項と結論

- ① 令和5年度、医療機器・設備更新依頼について
- ② 委員により次年度更新医療機器・設備機器の選定

3) 次年度の目標

令和6年度更新依頼する医療機器の機種選定・導入時期についての検討

(海老名 勇介)



【院内研修委員会】

1) 構成メンバー

委員長 医 局 上原 周悟
看護部 関川 智文 (外来)、田代 桃子 (病棟)
医療技術部 伊藤 智也、大塚 英樹、小鹿 淳史、丸山 陸 (以上リハビリ室)
事務部 太田 忍、宮澤 玲子

2) 活動報告

令和3年度より、「職員の業務・技術・協働関係の向上」を推進する委員会を目標に活動を開始しております。令和4年度は、院内での多職種協働促進のロールモデルの構築として、回復期病棟における看護師・リハビリスタッフ・介護士間でワークショップを開催する事を中心に活動しました。

まず事前に、看護師・介護士・リハビリスタッフの主任クラスのメンバーにより、協働がうまくいっていない場面の有無やその原因等について話し合い、互いの業務の流れ等について職種間での相互理解が不十分である事を確認しました。

その後、1回数名の多職種によるワークショップを、3ヶ月の期間で8回開催しました。業務の流れを話し合う事も重要ですが、まずは互いの個性も踏まえた上での基本的な人間関係の構築を促すようなワークショップを行い、事前事後のアンケート等でもその効果等を評価しております。その結果については、委員会のメンバーによる学会発表も行う予定です。

3) 次年度に向けて

COVID-19 は多職種間の相互理解や協働に関しても大きな影響を及ぼしている事が改めて分かりました。今後も同様の活動を継続し、Interprofessional Work や Interprofessional Education の構築に努めて参りたいと考えています。

(上原 周悟)



【健診運営委員会】

1) 構成メンバー

委員長) 健診医師 筒井 美穂
委員) 事務部長 阿部 敏彦 委員) 健診渉外係長 太田 忍
委員) 看護師長 石塚 玲子 委員) 健診係 阿部 幸恵
委員) 放射線室長 石森 靖朗 委員) 健診係 伊藤 彩
委員) 検査室長 渡辺 峰人 委員) 健診係(兼務) 高橋 秀作

2) 活動報告

① 健診会議の開催(不定期 2回開催)

7月7日、1月26日

② 委員会内容

- (ア) 健診予約状況および実績報告
- (イ) 健診実施体制および検査枠等の確認・調整
- (ウ) 住民検診実施についての確認
- (エ) 職員健診実施についての確認
- (オ) その他関連部署との情報共有、健診業務改善の検討

【健康診断実績】(件数) ※過去3年推移 (職員健診件数含まず)

	2020年度	2021年度	2022年度
健康診断	3,835	4,209	4,038
特定健診	154	83	79
人間ドック	220	249	258
脳検診	126	100	118
乳がん	488	567	572
子宮がん	503	563	577

3) 次年度の目標

- ① 業務改善(通常業務の効率化について検討の継続)
- ② 健診・ドック受診者数の増(健診 360人/月・人間ドック 40人/月)

(筒井 美穂)

【認知症ケア委員会】

1) 構成メンバー

- 医師) 委員長 松尾 英史
事務) 影山 淳一
看護部) 鈴木 文枝、和賀 明美、林 栄子、猪股 佳子、原田 智美、浦 祐希
鏡 哲也、菅井 千空
薬剤部) 虎岩 憲吾

2) 活動報告

毎月定例会を開催 第4火曜日 17:00～

- ① 身体拘束ガイドラインの改訂
(ア) 身体拘束として扱うものと除外するもの見直し
(イ) 身体拘束している患者の記録について再確認
(ウ) 身体抑制使用表の改訂を行なった

- ② 認知症ケアマニュアルの改訂
(ア) 認知症ケア加算取得の方法
(イ) 身体拘束の実施時の記録

③ 院内研修

実施時期 令和5年4月

内容 「介護抵抗・暴言暴力のみられる患者」に関する対応の事例検討

対象者 病棟看護師及び訪問看護ステーション看護師 72名

病棟介護福祉士 15名

④ 認知症ケア加算取得状況

<年間算定件数>

1病棟：123件 2病棟：141件 3病棟：165件 計 390件

昨年比：275%増加し、昨年度の2倍以上の取得となった

3) 次年度の目標

- ① 認知症ケア及びカンファレンス内容の質向上のための院内研修及び事例検討の実施
② 認知症ケア加算取得者数の維持、向上
③ 加算取得状況、記録の監査、カンファレンス実施状況の把握

(和賀 明美)

【排尿ケア委員会】

1) 構成メンバー

委員長：田口勝行

委員：佐々木 多恵子、池田 奈津美、松田 育、石岡 百合子、斉藤 真弓、菅原 由美子、
渡邊 大樹、高橋 舞、石井 美穂、管原 一禎、金嶋 珠美、木村 千津

2) 活動報告

① 排尿ケアに関する院内研修、アンケート調査の実施

(ア) 内容：『排尿ケアチームの取り組みの工夫と認知機能が低下した高齢者に対する排尿
リハビリテーション』（第35回日本老年泌尿器学会動画配信コンテンツ①～⑤）

※①～⑤のうち3項目以上の動画聴講、資料閲覧、アンケート回収

(イ) 対象：看護師、リハビリスタッフ、介護福祉士

(ウ) 期間：令和4年12月16日～令和5年1月31日

(エ) 参加人数 163名/163名、参加率：100%

② 排尿ケア委員会活動

(ア) 排尿ケア委員会マニュアルの見直し（2023年度改定予定）

(イ) 排尿ケアの周知

(ウ) 定期ミーティング1回/月 開催（第1火曜日、17時から）

開催日：6/7、7/5、8/2、9/6、10/4、11/1、12/6、1/10、2/7、3/7、4/4、5/2

計12回開催

(エ) 排尿ケアラウンド 1～2回/週 火曜日（不定期：木曜日等）

・年間ラウンド患者数約 96名

・ラウンドのべ回数約 197回 算定数177件、非算定数20件

(オ) 尿道留置カテーテル患者数、平均留置日数、平均留置患者率調査

(カ) 委員会内勉強会

①2022年7月5日：神経因性膀胱・膀胱機能障害について勉強会

②2022年11月1日：「排尿日誌によるコンチネンスケアについて」

「スピーディカテナビについて」（講師：コロプラスト）

3) 2023年度の活動課題

① 定期排尿ケアラウンドの継続

② 排尿ケアチームと病棟スタッフの連携強化

③ 排尿ケアを必要とする患者抽出を病棟看護師が積極的に行えるようになる

④ 統一した排尿ケアの計画と実施が行えるようになる

（池田 奈津美、田口 勝行）

【衛生委員会】

1) 構成メンバー

- 委員長 角田 浩 (管理者)
産業医 相良 守峰 (医師)、川住 幸子 (医師 [仙台かわすみ産業医事務所])
衛生管理者 筒井 美穂 (医師)、松本 翔子 (医師)
労働者 伊藤 美香 (看護師)、浅田 愛子、小鹿 友妃子 (事務)、富田 学 (事務)

2) 活動報告

2022 年度は毎月 1 回開催した。6 月からの新年度メンバー更新に併せて院外より川住産業医を迎え入れ体制強化を図った。

<主な活動内容>

- ① ストレスチェックの実施
10 月ストレスチェック実施
12 月ストレスチェック集団分析実施
 - ・集団分析結果を病院側へ報告
 - ・実施率は 75.8% (対象者 240 名、実施者 182 名) であった。前年比 2.1% 向上した。
- ② 特定保健指導の希望調査対応
 - (ア) 特定保健指導対象者への案内
 - (イ) 特定保健指導勸奨
- ③ 健診結果異常者への面談の実施検討
今年度健診結果を元に川住産業医に選定いただいた職員を対象に面談機会を設定し、就業上の意見をいただくこととした。

3) 次年度の目標

- ① ストレスチェック実
- ② 特定保健指導勸奨
- ③ 院内巡回実施
- ④ その他



(富田 学)

【リスクマネージャー会議】

1) メンバー

委員長 GRM 佐々木 貴子 obs 大黒 なか子看護部長

メンバー リスクマネージャー 13名

1病棟 松永 美咲、2病棟 岩井 寿子、3病棟 笹原 絵美子、外来 佐藤 智恵、
手術室 佐藤 カナコ、訪看 木下 恵、通所 阿部 千種、リハビリ 猪股 伸彦、
薬局 伊藤 麻実、健診 伊藤 彩、放射線 富樫 雅哉、検査 佐藤 恵子、
栄養 佐山 里美

他、リンクナース（リスクマネージャーの補助）4名

2) 活動報告

- ① 定例会議 リスクマネージャー会 毎月1回（12回）実施
- ② 医療安全点検の日 毎月1日 「医療安全点検」実施
- ③ タイムアウトポスター作成 毎月10日提出
時刻とタイムアウトの内容をポスターにし各部署で実践、報告書で提出
- ④ 医療安全活動の実施と報告
(ア) 医療安全月間（11月）；5S、川柳、タイムアウトポスター、ありがとうカード作成
(イ) 部署毎 KYT 研修、5S 活動
(ウ) 薬剤勉強会開催：看護部部署に薬剤師の出前講義実施。
- ⑤ 各部署の医療安全報告会「業務改善」（動画撮影、発表）
配信期間：2022年3月2日～3月17日
聴講人数：262名（委託職員含め）参加率：99%
- ⑥ 医療安全研修
・医療安全管理者研修と交流会：8月4、5日、二日間
場所：宮城県看護協会、参加者：佐々木 GRM、岩井 RM

3) 令和5年度の活動目標

- ① リスクマネージャーを中心とした医療安全活動の推進を図る
(ア) インシデントカンファレンスを開催する（目標：1回/1、2週間）
(イ) タイムアウトを毎月設定し活用する（時間設定必須）
(ウ) ヒヤリハットの報告数が50%達成する
- ② 部署ごとに業務改善を1つ以上行う
業務改善計画は共通テーマ【ダブルチェックの見直し】とし、評価、発表を実施する
- ③ 医療安全の質の向上を図る
(ア) 院内の医療安全研修を年2回以上開催する
(イ) 多職種で医療安全について意見交換する場を持つ

(佐々木 貴子)

【業務改善委員会】

1) 構成メンバー

委員長 武山 大輔 (医局)
副委員長 上原 周悟 (医局)
看護部 佐藤 紗菜、高橋 舞 (1病棟)、田村 久美子 (2病棟)、
石川 繭美 (3病棟)、熊谷 佳子 (外来)、佐々木 貴子 (GRM)
医療技術部 村上 克徳 (リハビリ)、虎岩 憲吾 (薬剤室)、
事務部 若生 真由美、今野 千春

2) 令和4年度の目標

各職員が納得と喜びを感じながら働けるような環境を作ること为目标とする。

3) 活動報告

① 委員会開催

計12回 (8/3、9/7、12/7、1/6、2/3、3/3、4/7、6/16)

② 活動内容

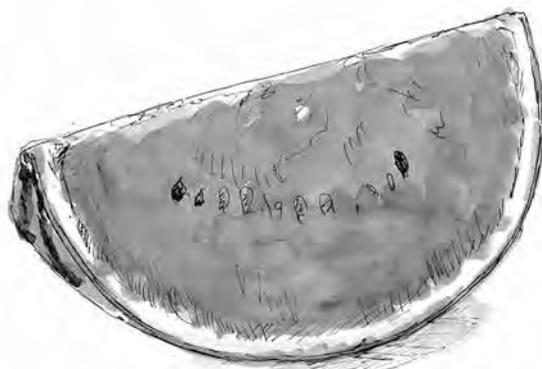
(ア) 職員からの業務問題点の抽出と整理。

(イ) 改善策の検討、各部署間の調整、管理部門への報告、院内への周知、実行。

令和4年度より、業務改善部会と改称し、各議案に対する対応部署の選定や検討について、拡大経営会議にて決定・周知・進捗確認する事となった。

(ウ) 院内ルール等について病棟間での統一、共通業務のマニュアル化、現存するマニュアルの改訂について、優先度と重要度が高いと判断し、次年度以降も引き続き整理していく事となった。

(上原 周悟)



【化学療法委員会】

1) 構成メンバー

委員長 芳賀 泉
医局 横道 弘直
看護部 石塚 玲子師長、村上 早紀 (外来)
伊藤 公恵師長、岡田 留美 (1病棟)、伊藤 美穂 (2病棟)
医療技術部 虎岩 憲吾 (薬局)、菊地 恵子 (臨床検査室)、渡邊 武史 (リハ室)

2) 今年度の目標

安全な化学療法の実施に向けて、レジメン、マニュアルを見直す

3) 活動報告

① 委員会開催

計 6 回 (6/23、8/25、10/27、12/22、3/23、5/25)

② 化学療案件数 (2022 年 4 月～2023 年 5 月)

外来化学療法	106 件	インシデント件数	0 件
入院	2 病棟 1 件 1 病棟 0 件	インシデント件数	0 件

③ がんリハ件数 50 件

④ 活動内容

- (ア) CV ポート使用時のマニュアル改訂
- (イ) 化学療法投与マニュアルの改訂
- (ウ) 抗腫瘍薬の変更に伴うレジメンの修正
- (エ) 化学療法の記録方法の統一化
- (オ) 48 時間持続ポンプ患者用説明書および看護師用マニュアルの改訂

4) 次年度の目標

- ① 安全な化学療法の実施に向けたマニュアル修正を継続
(CV ポート使用時、48 時間持続ポンプ使用時 等)
- ② 抗腫瘍薬の変更に伴うレジメンの修正
- ③ 化学療法に関連した勉強会の実施

(芳賀 泉)

【クリニカルパス委員会】

1) 構成メンバー

委員長 医 局 上原 周悟
看護部 和賀 明美、伊藤 宏、石井 美穂、佐久間 ともみ、北條 智

2) 活動報告

今日の病院医療では、治療や検査の標準化や医療安全・医療の質の向上および患者説明の観点から、クリニカルパスによる治療計画や運用が有用とされる場面が多く見られています。当院でも令和 3 年度よりクリニカルパス委員会としてパスの新設やバージョンアップを継続して参りました。

現時点では、看護介入を充実させるために、新規項目等の追加修正を行い、看護師業務の負担軽減を行っております。

○クリニカルパス運用実績	2022 年度	2021 年度
・ PSG	34 件	38 件
・ 前立腺生検	13 件	19 件
・ TUR-Bt	2 件	5 件
・ TUR-P	0 件	0 件
・ 精巣摘出術	0 件	0 件
・ 人工妊娠中絶術	0 件	0 件
・ 子宮内膜搔爬術	1 件	0 件
・ 鼠径ヘルニア	28 件	16 件
・ DM 教育入院	保留中	
・ 腰椎圧迫骨折	保留中	

■委員会開催

回数	日時	主な内容
全 7 回	月 1 回もしくは隔月に 1 回、 金曜午後に開催	クリニカルパスの作成、各種委員会との業務 内容調整

3) 次年度の目標

医師、栄養、リハビリ分野も含めた医療の標準化や質の向上を目指します。各種委員会との業務分担や連携を行い、最終的に患者にとって最大の利益になるように、当院の医療水準の向上に寄与します。

腹腔鏡下胆嚢摘出術のクリニカルパスを作成中です。

(上原 周悟)

【保険診療委員会】

1) メンバー

(委員長) 鈴木 広明

(医 局) 森下 城

(看護部) 和賀 明美、石塚 玲子、鈴木 文枝

(医療技術部) 高橋 恵、小岩 陽子、千葉 美玲、森 千絵、渋谷 圭介

(事務部) 高橋 秀作、影山 淳一、小川 順

2) 今年度の目標

・診療報酬改定等に対応し診療報酬算定に必要な条件を確認し周知することによって収益を改善する。

3) 活動報告

・計6回開催

○主な活動内容

- ・診療報酬改定の主な変更点の確認
- ・エンシュア・H 査定の情報共有
- ・看護必要度の分析
- ・施設基準の届出（新規・変更・辞退）の共有
- ・オンライン資格確認システム導入

(鈴木 広明)



【親睦会】

新型コロナウイルス感染拡大のため、活動なし



VII. 統計資料

1. 経営状況

1) 病院会計収支状況

(単位：千円)

科目	年度	R 3 年 度	R 4 年 度	差 額
I 事業収益		2,845,320	2,698,834	▲146,486
1) 入院収益		1,558,176	1,502,525	▲55,651
2) 室料収益		17,426	14,906	▲2,520
3) 外来収益		1,007,795	923,604	▲84,191
4) 介護収益		118,627	76,891	▲41,736
5) 保健予防収益		128,422	109,795	▲18,627
6) その他収益		8,247	7,267	▲980
7) 児童社会福祉収益		10,412	10,443	31
8) 保険等査定減		3,785	54,794	51,009
II 事業費用		3,053,723	3,008,813	▲44,910
1) 給与費		1,722,784	1,708,944	▲13,840
2) 材料費		675,742	639,623	▲36,119
3) 委託費		208,889	208,724	▲165
4) 設備関係費		181,073	172,830	▲8,243
5) 経費		265,235	278,692	13,457
III 事業収支 (I - II)		▲208,403	▲309,979	▲101,576
IV 事業外収益		135,262	123,876	▲11,386
V 事業外費用		9,489	11,751	2,262
VII 経常利益 (III + IV - V)		▲82,630	▲197,854	▲115,224
VIII 臨時収益		550	0	▲550
IX 臨時費用		77	3,030	2,953
X 当期利益 (VII + VIII - IX)		▲82,157	▲200,884	▲118,727

(富田 学)

2. 診療状況

1) 診療科別患者延数

	入院延患者数	外来延患者数
内 科	28,171	29,880
小 児 科	0	2,225
外 科	1,871	7,394
整 形 外 科	10,808	4,405
婦 人 科	7	1,809
眼 科	0	1,527
耳 鼻 科	0	1,268
泌 尿 器 科	97	4,078
皮 膚 科	0	1,739
計	40,954	54,325
1 日 平 均	112.2	185.4

2) 地域別患者数

	入院延患者数	外来延患者数
大 和 町	12,789	23,281
富 谷 市	3,765	6,962
大 郷 町	4,758	7,269
大 衡 村	4,430	7,034
黒 川 郡 外	15,176	9,324
宮 城 県 外	36	455
計	40,954	54,325

3) 救急来院、救急車搬送・入院患者数

	令和2年度	令和3年度	令和4年度
救 急 車 搬 送 数	324	358	370
(再掲) 上記のうち入院数	(150)	(178)	(183)
救 急 来 院 (直 来)	513	596	543
合 計	837	954	913

(鈴木 広明)

3. 健診統計

	H30 年度	R1 年度	R2 年度	R3 年度	R4 年度
健康診断	5,102	4,855	3,835	4,209	4,038
特定健診	130	104	154	83	79
人間ドック	195	268	220	249	258
脳検診	153	173	126	100	118
乳がん（単独）	7	8	7	6	12
子宮がん（単独）	31	25	25	29	32
乳・子（単独）	9	7	9	9	50
合計	5,627	5,440	4,376	4,685	4,587

乳がん	560	569	488	567	572
子宮がん	586	566	503	563	577
合計	1,146	1,135	991	1,130	1,149

(太田 忍)



4. 医療機器整備一覧

1) 行政事務組合購入分

機器名	メーカー名	台数	納入年月日	耐用年数	保管先
3次元眼底像撮影装置	トプコン	1	令和4年8月	8年	眼科外来
耳鼻科用電子内視鏡	ペンタックス	1	令和4年9月	6年	耳鼻科外来
上部消化管ビデオスコープ	オリンパス	1	令和4年9月	6年	内視鏡室
内視鏡診察台	タカラベルモント	1	令和4年9月	7年	内視鏡室
産婦人科用検診台	タカラベルモント	1	令和4年9月	7年	婦人科外来
耳鼻科治療椅子、顕微鏡	第一医科	1	令和4年9月	8年	耳鼻科外来
オンライン資格確認システム	アルメックス	1	令和4年10月	5年	受付窓口
血液ガス分析装置	ラジオメーター	1	令和4年12月	6年	検査室
エルゴメータ	インターリハ	1	令和4年12月	6年	リハビリ室

2) 公立黒川病院購入分

① 医療機器

機器名	メーカー名	台数	納入年月日	耐用年数	設置先
新版 K 式発達検査 2020	京都国際社会福祉協力会	1	令和4年5月	5年	小児科
ウォッチパッド	フィリップス・ジャパン	2	令和4年5月	6年	検査室
クリニースキャン	クリエートメディック	1	令和4年9月	6年	泌尿器科外来
クリーンパーテーション	エアーテック	2	令和5年2月	6年	救急外来
陰圧 HEPA フィルターユニット	日科ミクロン	1	令和5年2月	6年	救急外来
全自動免疫測定装置	シスメックス	1	令和5年2月	5年	検査室

② 工具備品器具

備品名	メーカー名	台数	納入年月日	耐用年数	設置先
複合機	リコー ジャパン	8	令和4年8月	5年	医局、事務室等
通話録音装置	タカコム	1	令和4年9月	6年	機械室
冷温蔵配膳車	フジマック	3	令和4年11月	8年	栄養室

(富田 学)

VIII. 研究学術業績

1. 論文

提出なし

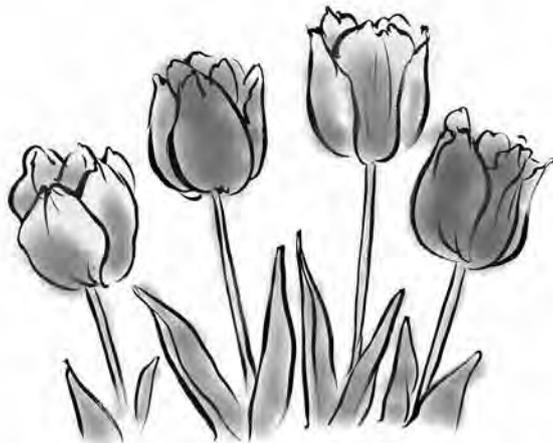
2. 講演・発表

1) 学会発表

- 2022/12/10 『新人・先輩看護師双方の視点からみた新人看護師の看護技術習得支援の検討』
斉藤 真弓（3病棟）、宮城県看護学会 第16回学術集会

2) 講演等

- 2022/ 7/23 『第1回研修会 訪問リハビリテーション入門編』
大塚 英樹（リハビリ） 新潟訪問リハビリネットワーク
- 2022/ 9/30 『リハビリテーション・ケア合同研修大会 日本訪問リハビリテーション協会シンポジウム座長』
大塚 英樹（リハビリ） 苫小牧
- 2022/11/12 『知っておきたい動作介助とポジショニング』
菅原 一禎（リハビリ） 宮城県看護協会
- 2023/ 3/10 『令和4年度栗原市介護予防のための地域ケア会議助言者研修会』
大塚 英樹（リハビリ） 栗原市



Ⅸ. 臨床教育

1) 看護部（病棟および在宅実習併用）

養成校・施設名	人数	延日数
東北福祉大学	49	269
宮城大学	21	84
東北文化学園大学	20	150
東北福祉看護学校	9	18
仙台青葉短期大学	8	8

2) 医療技術部（リハビリテーション室）

職種	養成校	人数	延日数
理学療法士	東北福祉大学	7	70
	仙台リハビリテーション専門学校	2	38
	仙台青葉学院短期大学	1	15
	東北保健医療専門学校	1	19
	山形県立保健医療大学	1	30
	仙台保健福祉専門学校	1	29
	東北文化学園大学	1	29
	仙台医健スポーツ専門学校	1	29
作業療法士	仙台保健福祉専門学校	4	4
	東北文化学園大学	1	41
	東北保健医療専門学校	1	15
	仙台リハビリテーション専門学校	1	19
	仙台青葉学院短期大学	1	4
言語聴覚士	東北文化学園大学	1	20
	仙台青葉学院短期大学	1	5

3) 事務部（医事業務実習）

養成校	人数	延日数
仙台医療秘書福祉専門学校	2	10

4) 消防（救命救急士再研修）

部門	人数	延日数
黒川消防署	7	21

（富田 学）

X. 地域貢献

1. 糖尿病教室

1) 構成メンバー

医師 筒井 美穂
理学療法士 村上 克徳
管理栄養士 佐山 里美、小岩 陽子
薬剤師 伊藤 麻美
臨床検査技師 今井 奈菜実

2) 活動報告

黒川地域は宮城県内でも糖尿病患者が多いにもかかわらず、糖尿病専門医や糖尿病外来が不足しています。昨今の新型コロナウイルス感染症の重症化予防のため、血糖コントロールの重要性も高まっております。当院では以前より糖尿病教室を開催しておりましたが、今年度は感染拡大防止のため、中止といたしました。そこで昨年より引き続き糖尿病についての知識の普及啓発を目的とし糖尿病たよりを発行することとしました。それぞれの専門分野から分かりやすく糖尿病について書かれています。内科待合室や健診室にて配布を行っています。

○糖尿病たより

回数	日時	主な内容	
第1回	令和4年春号	内科外来から(筒井) 運動療法について(村上)	栄養療法について(佐山) 栄養について(小岩)
第2回	令和4年夏号	内科外来から(筒井) 運動療法について(村上)	栄養療法について(佐山) 内服について(伊藤)
第3回	令和4年秋号	内科外来から(筒井) 運動療法について(村上)	栄養療法について(佐山) 検査値について(伊藤)
第4回	令和4年冬号	内科外来から(筒井) 運動療法について(村上)	栄養療法について(佐山) 神経障害について(小岩)

3) 次年度の目標

- ・感染状況をみて地域の方達に向けて、糖尿病教室開催の検討をする。
- ・院内や地域に向けて、糖尿病についての情報発信をしていく。

(小岩 陽子)

2. 医師・職員派遣

1) 医師派遣

番号	代診施設名	代診診療科	勤務日数
1	富谷の郷	内科	26
2	大崎市民病院	小児科	23.5
3	小出医院	内科	15
4	七ヶ宿町国民健康保険診療所	内科	13
5	大崎市民病院鳴子分院	小児科	12
6	栗原市立鶯沢診療所	内科	10
7	宮城県立黒川高校（健診）	内科	3
8	加美電子工業（予防接種）	内科	1

2) 職員派遣

番号	派遣施設名	職種	日数
1	宮城県立黒川高校（健診）	看護師	3

(富田 学)



3. 地域包括ケアシステム構築

地域医療センター長
横道 弘直

例年、多職種連携の推進を通して、黒川地区の地域包括ケアシステム構築に取り組んできた。
2022年度の活動概要は下記の通り（敬称略）。

1) 黒川地区地域包括ケア専門部会（黒川地区 在宅医療・介護連携推進事業）

① 構成メンバー

黒川地区4市町村の医師、歯科医師、薬剤師、看護師、ソーシャルワーカー、理学療法士、保健師など多職種22名（黒川病院からは赤間弘治、横道弘直が参加）

② 活動内容

新型コロナウイルス感染拡大のため、以下の内容でオンライン研修会を開催した。

日時：2023年2月16日 18:00～19:30

テーマ：「コロナ禍における黒川地区の医療・介護とケア
～コロナ禍の危機、不安を乗り越える～」

ミニ講話：「医療機関でのコロナ禍における機器と不安を抱えた事例の経験」

講師：公立黒川病院 医師 上原 周悟

座談会：「コロナ禍中で不安を抱えた事例に医療介護連携はどう向き合うか」

ファシリテーター：公立黒川病院 医師 上原 周悟

発表者：

まほろば歯科クリニック 歯科医師 島田 俊

マリン調剤薬局上桜木店 薬剤師 泉川 裕太

仙台リハビリテーション病院 ソーシャルワーカー 千葉 寛美

仙台リハビリテーション病院 理学療法士 榊 望

大衡村社会福祉協議会 ケアマネージャー 郷家 なみえ氏

各職種の立場でコロナ禍の影響、住民・患者に与えた問題、対応の工夫、医療・介護との連携についての発表があった。職種による視点やアプローチの違いを知る有意義な時となった。

2) とみや南部健康福祉ネットワーク 「笑結び（えんむすび）」

① 構成メンバー

富谷市東向陽台・成田圏域の医療・介護・福祉に関わる方々

② 活動内容

この会は東向陽台・成田圏域地域包括支援センター（包括「さくら」）に事務局を置き、圏域の医療・介護・福祉に関わる多職種がつながることを目指して2018年に立ち上げられ

た。毎月世話人会を行い、年3回の「地域連携の会」を開催してきたが、新型コロナウイルス感染拡大のため2020年3月以降は活動が中断していた。

2021年3月以後、オンラインで毎月の世話人会、年2回の地域連携の会を再開している。2022年度は、富谷中央・あけの平圏域地域包括支援センター（包括「いちい」）が担当事務局となり9月、2月にオンラインで地域連携の会を開催した。

(ア) 第8回笑結び地域連携の会

テーマ：「人生会議って何だろう より良く生きるために
～多職種で考える ACP（人生会議）～」

日時：2022年9月21日（水）19：00～20：40

講師：富谷中央病院 渡邊 哲子

参加者：56名

(イ) 第9回笑結び地域連携の会

テーマ：「人生会議って何だろう より良く生きるために ～これが私の生きる道！～」

日時：2023年2月22日 18：30～20：00

前回講話内容ダイジェスト：富谷中央病院 渡辺 哲子

事例提供：

黒川病院 上原 周悟

ケアプランセンター松の実 大神 健一

特別養護老人ホーム成田の里 千石 愛

参加者：52名

それぞれ講演・事例紹介の後、Zoomのブレイクアウトルームを使ったグループワークをとりいれて活発な話し合いがなされた。

3) 2022年度の総括と今後

オンライン2年目であった。直接集うことはできなかったが、研修会、地域連携の会を通して黒川地区の医療・介護・福祉関わる方々のリソースの豊かさを実感する。これだけの多職種が繋がり、同じ方向を目指すときに生まれる協働の力を思うと胸は踊る。この地域には、コロナに屈しない連携がある。

来年度、さらなる連携の深まりを期待したい。

（横道 弘直）

4. 福祉ネイル・爪ケア外来

1) 構成メンバー

- 佐久間 ともみ (看護師/福祉ネイリスト/医療フットケアスペシャリスト)
佐藤 紗菜 (看護師)
上原 周悟 (医師)
角田 浩 (医師)

2) 活動報告

① 福祉ネイル

福祉ネイルは、爪を美しくするだけではなく、ネイルの動作によって自然に行われるスキニッップや会話により、生活に笑顔や彩りを添え、穏やかな気分や well-being を導く事を目的としています。マニキュア塗布の他に、ハンドトリートメントや爪磨き等のメニューもあり、男性患者さん、ターミナル期の患者さんにも特別な時間をお届けします。

今年度は新型コロナウイルス感染症予防のため、院内での定期的な開催は見送りましたが、希望の患者さんには個別にて施術を行いました。通常は 15～30 分/回で行いますが、ネイルシール等を使用した 5 分間の短縮版を考案し、入院中に誕生日を迎える方やターミナルケアの方へ施術を行いました。

② 爪ケア外来

2021 年 8 月より爪ケア外来を開設しました。巻き爪や肥厚爪、外傷にて剥がれてしまった爪等、爪の悩み全般に応えるべく、フットケアとネイルの技術を学んだ看護師が医師と連携し行っています。爪切りや人工爪形成、靴の履き方のアドバイス等、その患者さんの状況に合わせてケアを行います。今年度は施設へ訪問し、施設職員への技術指導も行いました。

3) 実績

① 爪ケア外来：第 1、3 金曜日に外来開設

爪甲切除（麻酔を使用しないもの）60 点、胼胝鶏眼処置 170 点 算定
2022 年 4 月～2022 年 3 月まで のべ患者数 220 名（前年比+97 名）

② 講演等

(ア) 2022 年 9 月 日本保健福祉ネイリスト協会 インタビュー掲載

「看護師と 2 足のわらじを履く福祉ネイリスト～福祉ネイルと医療を繋ぐ挑戦～」

(イ) 2022 年 10 月 宮城県看護協会仙台黒川支部令和 4 年度研修会 講師

『医療×ネイル』の可能性～不備先から笑顔と癒しを～」

(ウ) 2022 年 11 月 黒川郡大和町 まちの保健室 講師

「爪の相談会&福祉ネイル体験」

(エ) 2023 年 2 月 第 5 回宮城県フットケア医研究会 講師

「医療ネイリストが送る美爪メソッド」

4) 次年度の目標

- ① コロナ禍で安全にできる福祉ネイル開催方法の検討と実践
- ② 爪ケア外来の周知、規模拡大、スタッフの育成
- ③ 学会発表

(佐久間 ともみ)



5. 小児科の地域貢献

1) メンバー

小児科：岩城 利充

医療ソーシャルワーカー：赤間 弘治

2) 活動実績 (ZOOM でのオンライン開催)

医教連携の勉強会、ケーススタディ：対象者（保育士、幼稚園教諭、小・中学校、高校教諭、保健師など）

① 黒川地区 医・保・幼・教 養育学習懇談会

（発達障害、行動異常を呈する児童、生徒の理解と対応のためのケーススタディ）

（4月30日、6月25日、8月27日、10月29日、12月23日、2月25日）計6回開催

② 栗原地区 医教連携の会 （発達障害、行動異常を呈する児童、生徒の理解と対応のためのケーススタディ）

（4月28日、5月26日、6月30日、8月31日、9月30日、10月21日、12月16日、1月27日、2月24日、3月31日）計10回

③ 大崎地区 医教連携の会 （発達障害、行動異常を呈する児童、生徒の理解と対応のためのケーススタディ）

（7月30日、10月30日）計2回

3) 学校医活動（大和町立小野小学校、鶴巣小学校、宮城県立利府支援学校富谷校）

活動内容：①健康診断（計6回）、②保健安全委員会（計2回）

4) 学校での研修会 実績

① 多賀城市立城南小学校 10月12日

- ・ 講義：発達障害について、発達検査について

② 富谷市立東向陽台小学校 12月8日

- ・ 講義：発達障害について、発達検査について

③ 大崎市立敷玉小学校 10月13日

- ・ 講義：発達障害について

④ 宮城県立養護学校岩沼高等学園 7月28日

- ・ 講義：発達障害児への対応について

5) 保護者懇談会

富谷市立富谷市中学校西成田分校 12月20日

- ・ 講義：何らかの理由で学校に行くことが出来なくなった子どもの回復過程

6) 大和町教育支援委員会
・就学児の検討 9月30日

7) 講演、研修

- ① 東松島市要保護児童対策協議会研修 9月22日
- ② 富谷ユネスコ協会講演 7月30日

8) シンポジウム

- ① 2022年度アルコール・薬物依存関連学会市民公開講座 9月10日
アディクションフォーラムシンポジスト
- ② 第14回虐待防止県北シンポジウム 11月23日

2)、4)、7) ②については、2名で参加。

3)、6)、7) ①、8) については、医師1名の参加。

5) については、医療ソーシャルワーカー1名で参加。

(岩城 利充、赤間 弘治)



6. 出前講座

	所属	実施日	場所	講師	内容
1	看護部	2月	富谷の郷	伊藤 公恵、大黒 なか子	第1回 感染対策、演習
2	看護部	2月	富谷の郷	伊藤 公恵、佐々木 貴子	第2回 感染対策、演習
3	看護部	3月	船形の郷	伊藤 公恵、大黒 なか子	第1回 感染対策、演習
4	看護部	3月	舟形の郷	伊藤 公恵、佐々木 貴子	第2回 感染対策、演習

(富田 学)

7. 黒川連携の会

新型コロナウイルス感染拡大のため、活動なし

8. にじの会

新型コロナウイルス感染拡大のため、活動なし

9. 訪問リハビリ 芋煮会

新型コロナウイルス感染拡大のため、活動なし

XI. 広報誌

1. 緑風

VOL28 令和4年5月発行

内容： 私はまだかつて嫌いな人に逢ったことがない 管理者
公立黒川病院常勤医師紹介 地域連携室
着任のご挨拶 事務部長
着任のご挨拶 内科医

VOL29 令和5年1月発行

内容： 「志村けん」さん名言集 管理者
着任のご挨拶 外科医師
病棟紹介 病棟師長

(佐藤 亜紀子)



2. みどり通信

- 第 111 回 令和 4 年 4 月 1 日発行
人工股関節置換術の進化と術後リハビリテーション
副院長・整形外科医師 田中 正彦
手洗いの重要性について 2 病棟師長 伊藤 公恵
笑う門にはアンチエイジング効果あり
くろかわ訪問看護ステーション所長
鈴木 文枝
- 第 112 回 令和 4 年 7 月 1 日発行
私の祖母のお話 内科医師 上原 周悟
「ふれあい看護体験」に参加してみませんか
看護部長 大黒 なか子
新入職員紹介
- 第 113 回 令和 4 年 10 月 1 日発行
皮膚のできもの・粉瘤 外科医師 松本 翔子
意識して運動していますか 理学療法士 千葉 淳子
手術室看護師の私 看護師 佐藤 カナコ
インフルエンザ予防接種のご案内
- 第 114 回 令和 5 年 1 月 1 日発行
レレレレ 管理者 角田 浩
「冬アイス」にご注意！ 管理栄養士 小岩 陽子
利用者様から得られた楽しみ 理学療法士 齋藤 康子

(佐藤 亜紀子)



3. 栄養室広報

1) 栄養だより 年4回発行

健康情報の発信を目的とし、臨地実習生が作成しています。

発行日	内 容
R4.6.1	「脱水について」 水分補給のポイント
R4.9.1	「脂質について」 脂質の働きと食事のポイントについて
R4.12.1	「減塩について」 減塩のポイントについて
R5.3.1	「ビタミンについて」 ビタミンの役割について

2) 季節のたより 毎月発行

季節の食材と行事の話題を提供しています。

発行日	誕生花	行事	食材
R4.4	チューリップ	いんげん豆の日・地図の日	スプラウト
R4.5	あやめ	こどもの日・旅の日	キス（鱈）
R4.6	カラー	牛乳の日・五輪旗制定記念日	牛乳
R4.7	ダリア	七転八起の日・虹の日	枝豆
R4.8	スイレン	奴の日・歯ブラシの日	そうめん
R4.9	菊	クローバーの日・クルミの日	栗
R4.10	キンモクセイ	徒歩の日・冷凍食品の日	豆乳
R4.11	サフラン	ラジオ体操の日・一茶忌	カニ（蟹）
R4.12	カトレア	カレンダーの日・福の日	明太子
R5.1	水仙	石の日・塩の日	ほうれんそう
R5.2	梅	笑顔の日・ふろしきの日	油揚げ
R5.3	スイートピー	だがしの日・電気記念日	おかき

(小岩 陽子)

4. 回復期リハビリ日より

新型コロナウイルス感染拡大のため、活動なし



5. ホームページ

各部門、部署から広報担当者選出、担当者を通して広報委員会で更新をした

■更新内容

【各部門、部署】

- ・ 医師紹介
 - 診療科
 - 出身地
 - 患者さんへ向けて一言
- ・ 看護部
 - 各病棟
 - 外来
 - 患者サポート室
 - 医療安全室
- ・ 感染指針
- ・ 入院のしおり
- ・ 地域連携センター

【おしらせ】

- ・ ワクチン接種について
 - インフルエンザ ワクチン接種
 - 新型コロナウイルス ワクチン接種
- ・ 面会制限について

【広報誌】

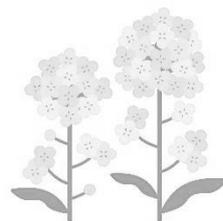
- ・ みどり通信

(佐藤 亜紀子)

XII 資料

みどり通信

公立黒川病院院内広報 令和4年4月1日 発行
院内の情報を患者さんにお知らせします



第111号
公立黒川病院院内広報
発行：公立黒川病院

【春号の内容】

- 人工股関節置換術の進化と術後リハビリテーション…副院長・整形外科：田中 正彦
- 手洗いの重要性について …2病棟師長：伊藤 公恵
- 笑う門にはエイジング効果あり …くろかわ訪問看護ステーション所長：鈴木 文枝

人工股関節置換術の進化と 術後リハビリテーション



副 院 長：
整形外科科長・医師
田 中 正 彦
(たなかまさひこ)

当院整形外科は本年度も私一人の診療体制となります。診療制限などご迷惑をおかけしますがよろしくお願いいたします。現在、当科では高齢者の大腿骨頸部骨折や橈骨遠位端骨折など一人でできる手術を細々と行っています。そのほか、変形性関節症に対する人工膝関節置換術や人工股関節置換術を院外の先生に執刀してもらって行っています。今回は、人工股関節置換術についてのお話です。

私が整形外科医になった1990年頃の人工股関節置換術のリハビリは術後1~2週間の免荷期間を設けて退院まで2ヶ月程度だったように記憶しています。患者さんや先輩医師から聞いた話では、それより前の時期には長期間ベッド上安静とか術後ギブ

ス固定をしていたこともあったようです。当時は後方アプローチという股関節の後ろ側から手術する方法が主流で、皮膚切開も20cm程度でした。その後2000年代になるとMIS (minimally invasive surgery) の流行がありました。低侵襲手術という概念ですが、低侵襲の評価が難しいため、学会では皮膚切開の小ささが盛んに報告されました。MISの定義は皮膚切開が10cm以下というイメージでした。この頃、入院期間の短さも低侵襲の目安とされ、リハビリの進め方は一気に早まりました。手術後免荷期間を設けることはなくなり、大きな施設からの報告は入院期間が2週程度でした。その後、手術創の大きさが発表されることもなくなり、MISという言葉は聞かなくなりました。2010年代になると本当の意味での低侵襲手術が追求され股関節の前方からアプローチし筋肉や腱を温存する手術方法が広まりました。手術中から股関節の安定性が非常に高く、術後の大きな合併症であった股関節脱臼については心配が減りました。当院でもこの方法を行っており2週程度で退院される方がいます。欧米では日帰り手術で行う施設もあるようです。私が人工股関節手術を始めた頃にはすでに完成した術式との思い込みがありましたが、今振り返ると大きな進化があり驚いています。



手洗いの重要性について

2病棟師長：
看護師

伊藤 公恵
(いとうきみえ)



新型コロナウイルスの話題が世の中を賑わせてから、早くも丸2年が経過しました。

ウイルス自体は、どんどん変異を重ねデルタ株からオミクロン株、そして最近ではBA-2というウイルスを耳にするようになりました。

BA-2は、感染力が強く重症化するという予測がされています。県内でも1例確認されています。

そのような中での感染対策の基本は、やはり手洗いが原則になります。

人間が生活をする中で、体の「手」を一番使うと言っても過言ではなく、外出して何も触らず帰宅することはまずいのではないのでしょうか？何かしら触れた手には、たくさんのウイルスや細菌がついているという意識がとても重要です。ウイルスや細菌は、口や鼻、粘膜などから体内に侵入します。ウイルスや細菌が付いた手で飲食することは、体の中にウイルスや細菌を入れ込むことと同じことになります。

医療現場においては、WHO（世界保健機関）が手洗いの5つのタイミング①患者に触れる前 ②清潔操作の前 ③患者の体液に触れた後 ④患者に触れた後 ⑤患者周辺の物品に触れた後 を提唱しています。目に見える汚れがある時には、流水と石鹸による手洗いが原則となりますが、それ以外の時は容易に手の消毒ができるアルコール製剤が有効的です。

新型コロナウイルス感染症が発生した以降は、どのスーパーの入り口にもアルコール製剤が設置されています。ウイルスや細菌を持ち込まない、持ち出さない意識も重要です。

元通りの生活が1日でも早く可能となるよう、一人一人が感染対策の基本である手洗いの重要性の意識を持ち、そしてその他の感染対策もしっかり実施することが重要です。さらに完全な終息までには、ワクチンや治療薬の開発が期待されます。

大変な世の中ですが、この感染症から来るストレスともうまく向き合い、皆で力を合わせ頑張っていきましょう。

笑う門には エイジング効果あり

くろかわ訪問看護ステーション所長：
看護師

鈴木 文枝
(すずきふみえ)



今年も早いもので、新年度が始まりました。

4月には新採用の職員の入職や、人事異動などがあり不安や緊張でドキドキしながら新しいスタートを切る人も多いと思います。

新人や移動してきた人を迎え入れる側の人たちは「笑顔」で迎え入れてあげたいものですね。そんな笑顔にはものすごい効果があることを知っていますか？

- ① ストレス解消&プラス思考により幸福度がアップ
- ② 自律神経のバランスを整えてリラックス効果
- ③ 免疫力を高める
- ④ ホルモンの分泌による美容効果
- ⑤ 表情筋が鍛えられシワ・たるみ軽減効果
- ⑥ コミュニケーションがスムーズになり人間関係も良くなる

などたくさんの効果があり、人も自分も幸せにする力があります。

「笑いや笑顔には、ナチュラルキラー細胞という免疫細胞を活性化させ、免疫力をアップする効果があり、すでに病気の予防に生かす取り組みも広がっている」と言われています。さらに女性にとっては、笑顔を作ることで表情筋が鍛えられるため、加齢やストレスによるシワやたるみが軽減されるとともに、表情筋を使えば使うほど顔の血流も促進されるので、肌ツヤが良くなる効果もあります。

笑顔は最強のエイジングケアになりますので毎日取り入れたいものです。



みどり通信

公立黒川病院院内広報 令和4年7月1日 発行
院内の情報をみなさんにお知らせします



第112号
公立黒川病院院内広報
発行：公立黒川病院

【夏号の内容】

- 私の祖母のおはなし ……内科医師：上原 周悟
- 「ふれあい看護体験」に参加してみませんか ……看護部長：大黒 なか子
- 新入職員紹介

私の祖母のおはなし



内科 / 医師：

上原 周悟

(うえはら しゅうご)

今年は私の出身地である沖縄県が本土復帰50周年という節目の年です。ふと、郷里の祖母の人生が無性に思い出されましたので、私事で恐縮ではありますが、今回は祖母のことについて記してみます。

私の祖母は大正6年の生まれで、今年で105歳になります。それもつい数年前までは一人暮らしで畑仕事をしておりました。祖母の少女時代は、苦労の連続であったようです。曾祖父を幼い頃に亡くし、さらに尋常小学校6年の時には曾祖母も病気で亡くしました。親戚を頼りながら幼い弟と妹を養わないといけないため、大好きだった小学校を退学して様々な仕事をしていたようです。後年、小学校の卒業式の日、校長先生から卒業証書を特別に手渡されたエピソードを嬉しそうに何度も話してくれました。とにかく学校は出なさいと口酸っぱく言っていたのは、そういった背景があったからかもしれません。

太平洋戦争で最初の夫と長男を亡くし、戦後に祖父と再婚して父と叔母を産み育てましたが、同時に孤児となった祖父の甥姪達を引き取って育てていました。アルゼンチンに移住した一族の土地や位牌（沖縄ではトートーメーと言います）を数十年にわたり守り続けたりもしていました。辛くても家族や地域の面倒をみるのが祖母の姿でした。85歳で祖父と死別しましたが、100歳まで地域のコミュニティに支えられながら自宅生活を営むことができたのも、そういった祖母の日頃の行動が影響していたのだと思います。

現在は認知症も進み、いわゆる施設に入所しています。COVID-19の影響で長らく面会禁止の状況です。食事は自力で食べていますが、今後食べられなくなるかもしれません。私はいわゆるACP（アドバンス・ケア・プランニング）について患者様やご家族様と今後の治療・療養方針を相談させて頂く時、現在の状況のみに目を向けるのではなく、これまでの生き方を振り返ってもらいようとお話しすることが多いです。ままならない生き方をせざるを得なかった人も多いかもしれませんが、人生の最期ぐらいはワガママに、そして周囲に甘えて過ごせるような環境作りをサポートしたいと思っています。日頃、病棟や外来、訪問診療で患者様と接する時、祖母の顔を思い出しながら診療にあたっているこの頃です。

「ふれあい看護体験」に参加してみませんか



看護部長：
看護師
大黒 なか子

(だいこく なかこ)

昨年度、高校生がなりたい職業ランキング第1位は「看護師」でした。上位「看護師」「保育士」「地方公務員」と続き、「薬剤師」や「管理栄養士・栄養士」といった専門性のある職種も多い一方で「歌手・ミュージシャン」「ゲームクリエイター」といった、職業もランクインしていました。自分の好きなことを突き詰めたい、一生の仕事にしたいと思う生徒も大勢いるようです。看護師を目指す方が多いのは嬉しいことですが、新型コロナウイルス感染対策で職業体験なども中止している事もあり、十分な情報が行き届いているのか心配なところではあります。

さて、5月12日(ナイチンゲール生誕日)は「看護の日」として知られています。宮城県看護協会では、「看護のひろば2022」と掲げて「看護の日」を記念したラッピングバスを走行させ、県民に「看護の日」を広くPRしました。また、現場の看護師が仙台市内の中学校へ伺い「看護の出前授業」を実施しました。当院では「看護の日」のイベントとして3年ぶりに「ふれあい看護体験」を7月に開催する予定です。現場で働く看護師の仕事ややりがい、魅力等の紹介と、簡単な看護技術の演習等を実施します。この地域の中高生に生の「看護職」を間近で体感してもらいたいと考えています。ぜひ興味がある方のご参加をお待ちしています。申し込みは、宮城県看護協会「看護のこころ普及事業」からお申し込みください。

新入職員紹介



事務部：事務部長
女川町出身
趣味：釣り・DIY・土いじり
あべ としひこ
阿部 敏彦

「チーム黒川」の一員としての絆を大事にし、「One for all, all for one」の精神で頑張っています。どうぞよろしくお願いいたします。



リハビリテーション室
理学療法士
仙台市出身
趣味：温泉・神社仏閣巡り
かねしま たまみ
金嶋 珠美

福島から地元の宮城に戻ってきました。まだ慣れないことも多いと思いますが、笑顔で元気に頑張りたいと思います。



看護部：3病棟
看護師
美里町出身
趣味：カフェ巡り・ドライブ
あべ あやか
安部 朱香

患者さんとご家族に寄り添った看護を大切にしたいと思っています。チーム医療の一員として日々の療養をサポートし、安心してご退院いただけるよう頑張っていきたいです。

みどり通信

公立黒川病院院内広報 令和4年10月1日 発行
院内の情報をみなさんにお知らせします



第113号
公立黒川病院院内広報
発行：公立黒川病院

【秋号の内容】

- 皮膚のできもの・粉瘤
- 意識して運動していますか
- 手術室看護師の仕事

…外科医師：松本 翔子
…理学療法士：千葉 淳子
…看護師：佐藤 カナコ

皮膚のできもの・粉瘤



外科 / 医師：

松本 翔子

(まつもと しょうこ)

皮膚や皮膚の下にできる「できもの」にはたくさんの種類があります。

ほくろや老人性のいぼなどの良性のものから、皮膚がんといった悪性のものまで様々です。

今回は当科(外科)でよく診る「粉瘤(ふんりゅう)」について説明したいと思います。

粉瘤は良性の腫瘍で、皮膚の下に袋状の構造物ができ、その中に皮脂や角質などの垢のようなものが溜まります。アテロームとも呼ばれます。

皮膚が盛り上がったしこりで、腫瘍の中央あたりに黒っぽい点状の開口部を認めることがあります。

腫瘍を圧迫するとその開口部から白っぽいどろどろした垢のようなものが出てくることもあります。

体のどこにでもでき、小さいものだと数mm程度で、大きいと10cm程度まで成長します。



良性腫瘍なので、ほっといても大丈夫と思われるかもしれませんが、粉瘤を見つけた場合は切除をおすすめしています。

理由はいくつかありますが、まず1つ目は、粉瘤に感染して炎症を起したり、化膿したりすると治療が面倒になります。化膿すると皮膚を切開して膿を出して粉瘤の中を洗浄します。痛みを伴いますし、連日の通院が必要になります。

2つ目の理由は、粉瘤は時間をかけて徐々に大きくなります。大きいものだと10cm近くになることもあります。小さいうちに切除すると傷が小さくなりますし、大掛かりな手術ではなく短時間で終わります。

3つ目の理由は、再発予防のためです。粉瘤を切除する際は、粉瘤の袋ごとしっかり取ります。これにより再発を防ぎます。粉瘤の中身だけ出した場合は袋が残っているので、いずれまた垢が袋にたまって大きくなります。

皮膚の病気には皮膚科で診療した方が良いものもありますが、気になることがありましたら一度当科にご相談ください。

意識して運動していますか

通所リハビリ：

理学療法士

千葉 淳子

(ちば じゅんこ)



新型コロナウイルスが流行し、感染症対策として様々な行動制限が講じられてきました。お家で過ごす時間が増えたことで身体を動かす機会も減ってきているのではないのでしょうか。また、加齢に伴い食事量が減ることで体重や筋力が低下し、疲れやすくなり、更にお家に閉じこもりがちになります。フレイルといわれる「健康」と「要介護」の中間の虚弱状態となり、そのままにしていると要介護状態になる危険性が高いといわれています。フレイルを予防する為には、運動やバランスの取れた食事、社会参加が必要です。

では、みなさんは、自分が1日にどのくらいの歩数歩いているか知っていますか？国が推奨する1日の歩数は、65歳以上の男性で7000歩、65歳以上の女性で6000歩とされています。普段、そんなに歩いていない方でもお家で行っている家事を歩数に換算することができます。例えば、体重60kgの人が10分間行った場合、料理・後片付け、洗濯物を干す動作は650歩程度(22kcal)、電気掃除機かけ1100歩程度(36kcal)、草むしり1200歩程度(39kcal)となります。普段、何気なく行っている家事も身体活動であり、家にもできるとてもいい運動です。これらの家事に加えて、習慣的に散歩や体操を行うことでより目標の歩数に届きやすくなります。最近、携帯電話やスマートウォッチなど歩数計の機能がついているものが増えてきています。この機会に自分の1日の運動量や活動量がどの程度か意識しながら生活してみるのもいいのではないのでしょうか。

これからもしばらく新型コロナウイルス感染症に伴う制限が続くと思いますが、健康を維持する為、バランスよく食事を摂り、適度な運動を心がけていきましょう。



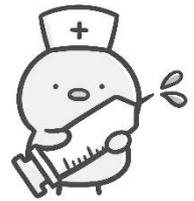
手術室看護師の仕事

手術室

看護師

佐藤 カナコ

(さとう かなこ)



手術室の看護師というと病棟や外来の看護師と違いなじみが薄く、テレビドラマの手術シーンでメスを渡している姿のイメージが強いかと思います。実際、私達は【器械出し】と【外回り】という役割に分かれて仕事をしています。器械出しはその名の通り医師に器械を渡す役目です。ただ言われたものを渡すのではなく、膨大な数の器械の名前と使用用途を覚え、各科の術式や体の解剖を学習し手術がスムーズに進むよう先読みしながら介助します。外回りは器械出し以外の全ての業務を担います。患者さんの状態観察と対応、記録、器材のセッティングなど手術の流れを読み的確で迅速な行動が要求されます。また術前や術後に情報収集したり、患者さんを訪問したり、器械の洗浄や滅菌処理など業務は多岐にわたります。特殊性のある部署ですが、緊張感のある限られた時間と空間のなかで常に優先順位を考えて動く。私はこの手術室の仕事にやりがいがあり好きだと感じています。

患者さんの人生の中で「手術」というとても重要な治療の一部にたずさわらせてもらっているという気持ちで、患者さんに安心、安全に手術を受けていただけるようこれからも努力していきたいと思っています。

インフルエンザ予防接種のご案内

インフルエンザ予防接種を開始いたします。

期間：令和4年10月3日(月)～12月28日(水)

(火曜午後・土曜日を除く)

小児(生後6か月～中学3年生)は予約制です。

ワクチンがなくなり次第終了となります。詳細につきましては当院ホームページでご確認いただくか正面受付窓口またはお電話にてお問い合わせ下さい。

公立黒川病院：022-345-3101(代)

みどり通信

公立黒川病院院内広報 令和5年1月1日 発行
院内の情報をみなさんにお知らせします



第114号
公立黒川病院院内広報
発行：公立黒川病院

《冬号の内容》

- レレレのレ
- 「冬アイス」にご注意！
- 利用者様から得られた楽しみ

…管理者：角田 浩
…管理栄養士：小岩 陽子
…理学療法士：齋藤 康子

レレレのレ



管理者／医師：

角田 浩

(かくた ひろし)

赤塚不二夫の名作に「天才バカボン」がある。それに登場する私の大好きなキャラクターは、レレレのおじさんである。

いつでも明るく、「おーでかーけでーすかー」と声をかけ、常に箒で掃除をしている。レレレのおじさんには、(ホントかどうかはわからないが) モデルがいるらしい。周利槃陀伽、パーリ語ではチューラパンタカというお釈迦様の弟子らしい。

チューラパンタカというお方は、釈迦の弟子の中でもっとも愚かで頭の悪い人だったと伝えられている。チューラパンタカは、「自分はなんて愚かなのだろうか。もうお釈迦様のもとにはいられないな」と考え、お釈迦さまの所に相談に行ったらしい。お釈迦様のお答えは、「自分が愚かだと気づいている人は、愚かではない。自分は賢いと思いがっている人こそ愚かなのだよ。」と諭して、チューラパンタカの掃

除好きを見越して、一本の箒を与えたと伝えられている。そして「塵を払わん、垢を除かん」と唱えながら掃除をするように諭した。チューラパンタカは、こんな短い言葉でも忘れそうになりながら、何年も何年もそして何年も箒を持って「塵を払わん、垢を除かん」と唱えながら掃除をした。チューラパンタカは素直に掃除をし続け、「掃除をすべき環境と自分の心は同じだな」と思い至り、成道されたと伝わっている。

職業柄、毎日たくさんの人と出会う。人と会えばいろんな感情が沸き起こる。チューラパンタカにならって、無駄な怒りや無駄な欲を出さないように常にココロの掃除をしておかないと、特に敏感な体調に悪い患者さんたちには見透かされてしまう。

明るいレレレのおじさんのように屈託なく、「おーでかーけでーすかー」と言えるようになりたい、そして自信をもって「これでいいのだ」と思いたい。これがウサギ年、年頭の私の抱負である。

みどり通信読者の皆様、今年もよろしくお願ひいたします。



「冬アイス」にご注意！

栄養室：

室長・管理栄養士

小岩 陽子

(こいわ ようこ)



寒い時期にアイス？と思われるかもしれませんが、ここ最近冬のアイスの売り上げが年々増加傾向にあります。「冬アイスの日」なるものもあるようで、某高級アイスメーカーでは12月の売り上げが一番多いとか。

アイスを食べたいと思う秘密は温度にあるようです。アイスが売れ始める気温は22～23℃くらいであり、人がアイスを食べたいと思う気温が25℃くらいと言われています。30℃を超えるとアイスよりも冷たい飲み物が人気になるようです。現在エアコンの普及で冬でも室内が暖かいというのがアイスが売れる原因だそうです。夏のオフィスの推奨温度は28℃設定でアイスの適温より暖かめです。それに対し冬の推奨温度は20℃前後になっており、アイスの適温に近い状態になります。暑い夏は体を冷やそうと氷のアイスキャンディーやシャーベットが人気なのに対し、冬は濃厚なバニラやチョコレート味が好まれる傾向にあります。寒い冬に暖かい室内でちょっと高級なアイスをとというのが冬アイスの特徴になります。

夜食に好まれるのが男性はラーメンに対し女性はアイスを食べる方も増えているとか。ちょっとしたご褒美に食べるのもいいですが、濃厚バニラはかなりのカロリーになります。メーカーや大きさにもよりますが250～400kcal近くあるものもあります。ごはんというと軽く1杯～1.5杯分に相当します。ちなみにラーメンは400～500kcal前後ですが、コッテリしているものは800kcal近くになります。あまり動かない冬に、このカロリーを消費するのは大変です。間食や夜食はくせになると、なかなかやめられなくなります。そうなる前に「余計なものは買わない。」「目に付く所に置かない。」など習慣化しないよう工夫してみましょう。甘い誘惑に負けて後悔しないように体重管理をしっかりしておきましょう。

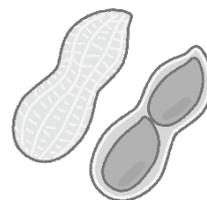
利用者様から 得られた楽しみ

訪問リハビリ室

理学療法士

齋藤 康子

(さいとう やすこ)



訪問リハビリを利用されている方で「野菜を作りたい。」「草むしりをしたい。」を希望や目標にしている方が多くみられます。数年前に「どういう気持ちになるか、ほらっ、作ってみなさい。」ときゅうりの苗を3本渡され家庭菜園未経験の私は途方に暮れ、何から手を付ければよいのかお手上げ状態でした。そこで土の作り方から肥料の種類、どのタイミングでどれくらいの量を与えればいいのか多数の畑経験者の利用者様やそのご家族にアドバイスを頂きながら育てました。小さな実をつけた時にはいつもより早起きをして水やりも惜しまず、店で売っているようなきゅうりを収穫して味わったら家庭菜園の醍醐味を覚えてしまいました。翌年から初心者でも育てやすい夏野菜にチャレンジするようになり、その後も指導は利用者様から。インターネットやYouTubeでも家庭菜園についての知識を得ることができますが、あえて先輩方に話をしていただき情報を得るようにしています。今年は落花生に挑戦し種まきをしました。失敗に終わり、苗を購入して植えました。立派な落花生がたくさん出来て、塩ゆでをしていただきました。いつかまた、コロナが収束して訪問リハビリの芋煮会が再開できた際には皆さんにごちそうしたいと思っています。



栄養だより

R4.6月
公立黒川病院
栄養室発行

脱水とは「水分」と「電解質」が不足した状態です

「水分」と共に「電解質」も不足すると、細胞の浸透圧調整、筋肉細胞や神経細胞の働きをうまく調節することができなくなってしまいます。

脱水症の症状としては、吐き気、手足の震え、脱力感などがあり、意識を失ったり、体の痙攣が起こったりすることもあります。さらに症状が進行すると、脳梗塞、心筋梗塞など、さまざまな健康障害のリスク要因となります。

脱水症になってしまう前に、こまめな水分補給を心がけましょう。

水分補給をしましょう！

いつ？



- のどが渇く前にこまめに
- 就寝の前後
- 入浴の前後
- 運動中と前後
- 飲酒中とその後

※就寝時に枕元に水分を置いておきましょう！

なにを？

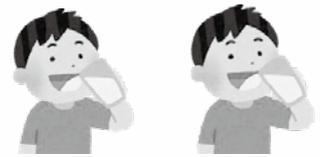


- お茶やお水

※明らかな脱水症状がある場合はスポーツドリンクや経口補水液を飲むことをお勧めします。

※アルコールや多量のカフェインを含む飲料は利尿作用があるので、水分補給としては適しません。

どのくらい？



- コップであと2杯

※水分の摂取量は多くの方では不足気味であり、平均的には、コップの水をあと2杯飲めば、1日に必要な水の量を概ね確保できます。

自分で作る経口補水液（日本ユニセフ協会より）

- 水 1L
- 砂糖 小さじ6杯
- 塩 小さじ半分

以上を混ぜて出来上がりです。

飲みやすくするために、レモン汁を絞って入れても良いです。

長い時間作り置きすることは避けてください。

スポーツドリンク
500mlには砂糖が
約小さじ10杯（角
砂糖7.5個分）ほど
含まれています。



※疾患により水分や糖分、塩分制限が必要な場合があります。主治医にご確認ください。

令和4年8月31日まで掲示

栄養だより

R4.9月発行
公立黒川病院
栄養室発行

脂質と上手につきあおう

脂質というと悪者扱いされがちですが、体内でどのような働きをしているかご存知ですか？

脂質の働き

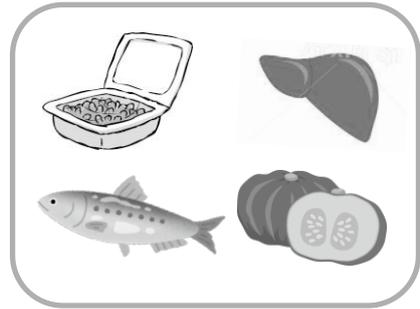
エネルギー源になる



体温の保持



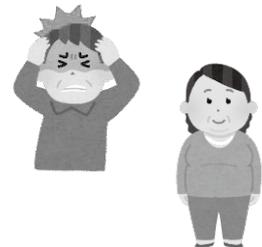
脂溶性ビタミンの吸収促進



過剰症になると…？

体脂肪が蓄積して肥満につながります。

血中脂肪のバランスが悪くなり、**動脈硬化**をはじめ**血管疾患**などの**生活習慣病**のリスクが高まります。



欠乏症になると…？

エネルギー不足になり、脂溶性ビタミンの吸収が悪くなります。

肌荒れや**便秘**などを起こしやすくなり、女性の場合は**月経不順**になることもあります。



脂質とうまく付き合うための食事ポイント

- 飽和脂肪酸（肉類、バター、乳製品など）よりも良質な脂質といわれている不飽和脂肪酸（青魚、ナッツ類、オリーブオイルなど）を摂りましょう。
- 料理や調味料に油を使った料理は1食に1品程度にするなどし、使い過ぎに注意しましょう。
- 油がのった肉や魚はコクがあり美味しいですがカロリーが高いため、肉なら脂身の少ない赤身肉、魚では白身魚のほうが脂質が少なめなので交互に食べるのがおすすめです。
- 脂質の代謝を助けるビタミンB2（レバー、あさり、納豆、まいたけなどに多く含まれます）を摂りましょう。



食生活が豊かになり、食事の欧米化が進んだことなどから、私たち日本人は脂質を摂りすぎていることが多く、注意が必要です。しかし、摂らなすぎも体に悪影響を及ぼします。

脂質と上手につき合いながら、楽しく、おいしい食事をしましょう。

栄養だより

R4.12月発行
公立黒川病院
栄養室

～減塩の工夫とポイント～

食塩の過剰摂取は、高血圧だけでなく心機能不全や脳梗塞など生活習慣病を引き起こす可能性もあります。そのため、日ごろから注意する必要があります。



では、1日に何gまでの塩分摂取が望ましいのでしょうか？
厚生労働省が推奨する1日の塩分摂取量は男性7.5g、女性は6.5gです。
しかし、平均的に摂られている塩分量は約11gです。特に、宮城県は塩分摂取量が全国平均を上回るため、減塩を心がけることが大切です。

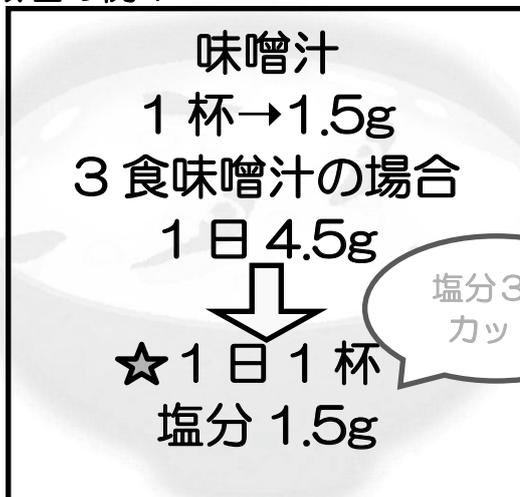


減塩のポイント

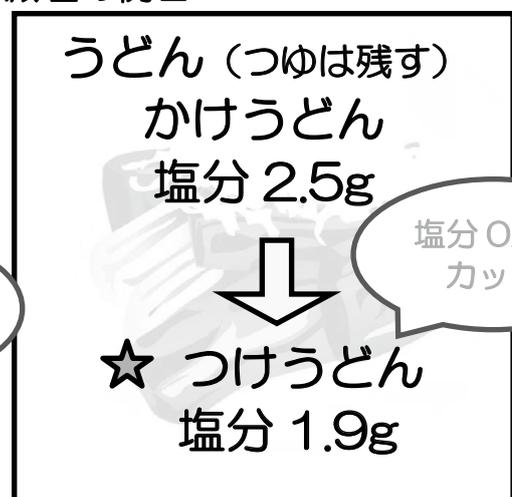
1. 汁物は1日1回
2. かけ醤油ではなくつけ醤油にする
3. 酸味・香料を使用する
4. 塩蔵品・加工食品の多用を避ける
5. 新鮮な食材を用い食品のうま味を生かす



減塩の例1



減塩の例2



栄養だより

R5.3月発行
公立黒川病院
栄養室

ビタミン足りていますか？

○ビタミンの役割は？

ビタミンとは、体の機能を調節するのに必要となる栄養素です。体内で合成できるものもありますが、基本的には食事で体に取り入れます。ビタミンは脂溶性と水溶性に分けられます。

水溶性ビタミン

水に溶ける性質があり、水にさらすと溶けだしてしまいます。煮たりゆでたりする場合は煮汁ごと使うようにするのがおすすめです。

ビタミンB群

主にエネルギーを作り出すときに必要となる栄養素です。疲労回復や、皮膚や粘膜の健康、貧血予防に効果があります。豚肉やレバー、納豆などに含まれます。

ビタミンC

病気から体を守ってくれる働きや、コラーゲンの生成を助ける働きをします。アセロラやいちごなどの果物や、ピーマンやブロッコリーなどの野菜に多く含まれます。

脂溶性ビタミン

油に溶ける性質があります。油いためなどにすると吸収力が高まります。

ビタミンA

視覚や粘膜などに作用する栄養素です。視力低下予防や粘膜に作用することで免疫力が向上します。緑黄色野菜やレバー、卵などに含まれます。

ビタミンD

丈夫な骨を作る働きがあります。魚介類やきのこ類に含まれます。

ビタミンK

骨の形成を促したり、血管の健康を維持したりする作用があります。納豆や緑黄色野菜に含まれます。

ビタミンにはこのように、体を調節してくれる役割があります。すこし摂取するだけでも、心身ともに健康に過ごすための良い影響がたくさんあります。毎日少しずつ、食事の中に取り入れて健やかに過ごしましょう！

※お薬により注意が必要な場合もあります。医師とのご相談の上で指示に従ってください。

※サプリメントは過剰摂取の恐れもあるので注意しましょう。



季節のたより

令和4年4月



公立黒川病院 栄養室発行

4月の誕生花（チューリップ）

花言葉は「思いやり」「恋の宣言」「博愛」です。
品種により開花時期が異なり、3月下旬～5月頃まで楽しめます。トルコが原産地ですが、オランダで愛されオランダから日本に輸入されています。



4月の行事

いんげん豆の日（4月3日）

明（中国）から日本に伝えたと言われる隠元法師が亡くなった日に因んでいます。隠元法師は江戸時代前期に幕府によって招かれ、日本黄檗宗を開祖した人物です、いんげん豆の他に、煎茶、レンコン、スイカ、孟宗竹を伝えたと言われています。「明朝体」も隠元法師が携えてきた経本の版木を元に行っているとか。木魚も隠元法師が広めたといわれています。

地図の日（4月19日）

伊能忠敬が蝦夷地（北海道）の測量へ出発したことに因んでいます。別名「最初の一歩の日」。家督を長男に譲り、49歳で本格的に天文学や暦学を学びはじめ、55歳で測量の旅に出ました。測量の旅は17年間にわたり計10回、総測量距離は約4万kmに及びます。どんなチャレンジにも「遅すぎる」ことはなく、「はじめの一歩」を踏み出すにはうってつけの日ですね。



季節の食材

< 発芽野菜（スプラウト） >

4月20日は発芽野菜の日です。カイワレ大根やブロッコリー、マスタード、レッドキャベツ等があります。スプラウトは種に凝縮された栄養と光合成によって生長した野菜の栄養を併せ持っており、βカロテン、ビタミンC、葉酸、ビタミンK、カルシウム、食物繊維等が豊富です。特にブロッコリースプラウトにはがん抑制効果があると言われる、スルフォラファンが含まれています。

生ハム巻き

- ①スプラウトは根元を切り落とします。
- ②クリームチーズは縦半分に切ります。
- ③生ハムにスプラウトとチーズを乗せて巻きます。
- ④お皿にのせ、オリーブ油と黒コショウをかけます。

< 材料（2人分） >

スプラウト	50g
生ハム	6枚
クリームチーズ	3個
オリーブ油	大さじ1
黒コショウ	適量

季節のたより

令和4年5月



公立黒川病院 栄養室発行

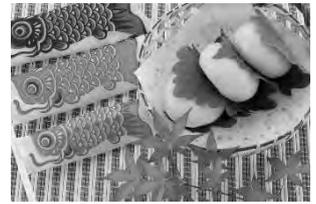
5月の誕生花（あやめ）

花言葉は「良い便り」「信じるものの幸福」です。かきつばたや花菖蒲と合わせて「あやめ」と呼ぶことが習慣化していますが、あやめの花弁には網目模様があります。

5月の行事

こどもの日（5月5日）

「こどもの人格を重んじ、こどもの幸福をはかるとともに、母に感謝する」日です。端午の節句とどう違うかというところ、「こどもの日」は「国民の休日」で、「端午の節句」は「伝統行事」となります。祝日を制定するとき「国民感情に深くつながった、文化的な日を祝日にすべき」との意見からこの日になったそうです。



旅の日（5月16日）

1689年3月27日俳人・松尾芭蕉が「奥の細道」の旅に出ました。この日を新暦に換算した5月16日を旅の日に制定しました。この日は、せわしない現代生活の中で忘れがちな「旅の心」を大切に、そして「旅人」とは何かという思索をあらためて問いかけることが目的です。ちなみに原題名は「おくのほそ道」が正式です。

季節の食材

<キス（鱧）>

キスの旬は産卵前の晩春から初夏にかけてです。輸入の冷凍ものが多く、鮮魚は高価なものになっています。天ぷらが定番ですが、新鮮なものは握りや炙りで提供されることも。三枚おろしにして骨を素揚げにしてもおいしくいただけます。身は高たんぱく、低脂肪、低カロリーのヘルシーな食材です。



キスの天ぷら

- ①キスは水気をきって、分量外の薄力粉を軽くまぶしておきます。
- ②ボールに卵を入れよく混ぜ、次に水を入れ混ぜ併せます。薄力粉を加えて軽く粉が残るくらい混ぜます。
- ③180℃の油に衣を付けたキスを入れ、裏返ししながら2分くらい揚げます。器にキスと塩を盛りつけます。

※衣の材料をあらかじめ冷蔵庫で冷やしておくとかラッと揚げられます。

<材料（4人分）>

キス	8枚
卵	1個
冷水	150cc
薄力粉	100g
揚げ油	適量
塩	適量

季節のたより

令和4年6月

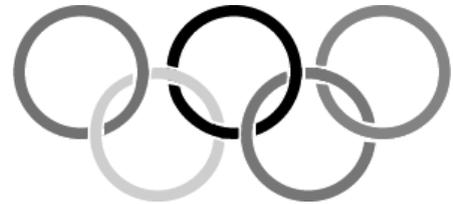


公立黒川病院 栄養室発行

6月の誕生花（カラー）

花言葉は「乙女のしとやかさ」「清浄」です。花びらに見える部分は仏炎苞（ぶつえんほう）と言い黄色い花の部分を守っています。ギリシア語で「美しい」という意味ですが、仏炎苞が修道女の襟（カラー）に似ているからその名がついたとも言われています。

6月の行事



牛乳の日（6月1日）

2001年に世界食糧農業機構は牛乳への関心を高め、酪業・乳業の仕事を多くの方に知ってもらうことを目的に、「世界牛乳の日」を定めました。これに因んで日本でもこの日を「牛乳の日」としました。「牛乳」とは牛から搾った乳を加熱殺菌したもので水や添加物を一切加えられていないものを言います。

五輪旗制定記念日（6月14日）

紀元前から行われていた古代オリンピックは393年まで。それから1500年後にフランス人男爵ピエール・ド・クーベルタン呼びかけで近代オリンピックが開催されました。五輪旗も彼の考案です。正式名称は「オリンピック・シンボル」青・黄・黒・緑・赤は世界の大陸を表しています。世界中の国々がスポーツのもとに集い、競い合いながら友好を深めるというオリンピックの理念が込められているそうです。

季節の食材



<牛乳>

牛乳と言えばカルシウムを思い浮かべますが、それだけではなく「たんぱく質・脂質・炭水化物・ミネラル・ビタミン」がバランスよく含まれています。たんぱく質・脂質・炭水化物は私たちが活動するためのエネルギー源となり、ミネラル・ビタミンはその働きを助け、さまざまな体の機能を調節する役目があります。この5大栄養素上手に取り入れられる食材が牛乳になります。

コーンスープ

- ①鍋に材料をすべて入れます。
- ②中火で3分加熱し出来上がり。

材料（2人分）	
クリームコーン缶	150g
牛乳	200cc
コンソメ顆粒	小さじ1/2
塩・コショウ	2つまみ

季節のたより

令和4年7月



公立黒川病院 栄養室発行

7月の誕生花（ダリア）

花言葉は「華麗」「優雅」「威厳」「感謝」「不安定」「移り気」です。メキシコが原産で和名は「天竺牡丹（テンジクボタン）」といいます。1842年にオランダから長崎に持ち込まれました。

7月の行事

七転八起の日（7月8日）

2016年4月14日、16日に発生した熊本地震からの復興する心意気と決意を込めて制定されました。「七転八起」は何度転んでも起き上がることを表す四字熟語で、多くの人に勇気と励ましを送ることが目的です。



虹の日（7月16日）

7と16で（ナナイロ=七色）の語呂合わせと、梅雨明けのこの時期には空に虹が架かることが多いことから、自然を大切に思う心、人と人の心が虹のように結びつきあえる日にと制定されました。

季節の食材

〈枝豆〉

枝豆は大豆が熟す前の未熟果です。「畑のお肉」と呼ばれるほど良質なたんぱく質に富んだ大豆と同様、たんぱく質はもちろん、ビタミンB1、B2、カルシウムが豊富に含まれ、大豆にはないビタミンCもたっぷり含んでいます。葉酸も多く、体の成長促進、貧血予防などに効果が期待されます。夏のビールの友というイメージがありますが、枝豆に含まれているビタミンB1、B2、Cとたんぱく質にあるアミノ酸のメチオニンがアルコールの分解を促し、肝臓への負担を軽くしてくれます。枝から切り離すと一気に味が落ちるので、枝付きの物を購入しましょう。



＊おいしい枝豆の茹で方＊

- ① 枝豆はよく洗って、さやの両端を切り落とします。
- ② 塩をふりかけ、よく揉みます。
- ③ 鍋に水を入れ沸かし、塩と枝豆を入れ3～5分茹でます。
- ④ お湯を切り、お皿に盛り付け出来上がり。

材料	
枝豆	200g
塩（もみこみ用）	大さじ1
水	1000cc
塩（茹で用）	大さじ1

季節のたより

令和4年8月



公立黒川病院 栄養室発行

8月の誕生花（スイレン）

花言葉は「純粋な心」「信頼」「信仰」です。漢名の「睡蓮」は夕方になると閉じる（^{ねむ}る）ことからきており、古代エジプトでも日中に咲くことから太陽のシンボルとされています。スイレンはハス（蓮）と混同されますが、葉に切れ込みがあり、水面近くで花が咲くのがスイレン。葉に切れ込みがなく、水面より高く花が咲くのがハスになります。

8月の行事



奴の日（8月5日）

「や（8）っこ（5）」の語呂合わせから、全国の食卓で健康食品として親しまれている豆腐を、夏には冷たくておいしい奴豆腐で食べてもらうことが目的で制定しました。冷奴の「奴」は江戸時代の奉公人である「^{やっこ}奴」から。四角く切った豆腐を彼らの着る^{はんてん}半纏に染め抜かれた、正方形の紋に見立てたのだそうです。

歯ブラシの日（8月24日）

「歯（8）ブラシ（24）」の語呂合わせから、歯ブラシでの歯みがきをもっと普及させて、口腔ケアへの関心を高めてもらうことが目的で制定されました。歯みがきが日常習慣として一般に普及したのは江戸時代からです。当時は「房楊枝（ふさようじ）」と言って、片方を木槌でたたき房状にし今の歯ブラシのように使い、反対のところが歯間の汚れを取り除き、毎日使い捨てにするのが粋とされていました。



季節の食材

<そうめん（素麺）>

そうめんは小麦粉を原料とした麺のひとつです。主に乾麺として流通するため通年入手できますが、冷やして食すことが多く夏の麺料理の代表のひとつです。日本農林規格ではそうめんの太さは直径1.3mm以下とされ、1.3mm以上1.7mm未満をひやむぎ、1.7mm以上はうどんと分類されています。

めんつゆ

- ① 鍋に本みりんを入れ中火にかけ、アルコールをとばします。
 - ② しょうゆを加え、20～30秒程度煮立たせます。
 - ③ 顆粒だしを加え、溶けたら火を止め冷まします。
- ※ つけなら3倍、かけなら5倍に薄めて使います。昆布だしや、かつおだしで割るとお店の味になります。

材料

しょうゆ	100cc
本みりん	100cc
顆粒だし	大さじ1

季節のたより

令和4年9月



公立黒川病院 栄養室発行

9月の誕生花（キク）

花言葉は「高貴」「高尚」「高潔」です。春の桜に対して、日本の秋を象徴する花になります。皇室の紋章として知られる菊花紋は、鎌倉時代、後鳥羽上皇が菊の花の意匠を好み、自らの印章として愛用したことがはじまりとされています。



9月の行事

クローバーの日（9月6～8日）

9（ク）月6～8（ローバー）日の語呂合わせでこの3日間はクローバーの日です。日本名は「シロツメクサ」。江戸時代にオランダから輸入したガラス製品の緩衝材の「詰め物」として伝来したことから「詰め草」の名前が付けられました。

クルミの日（9月30日）

9（くる）月30（みはまるい）日と読む語呂合わせから制定されました。紀元前700年頃から食べられていたとされ「最古のナッツ」と言われ、日本でも縄文時代の遺跡からも見つかっています。クルミに含まれるオメガ3系脂肪酸は血行を促進し動脈硬化を予防する効果があると言われています。



季節の食材

<くり（栗）>

栗は糖質が多く、ショ糖やブドウ糖による甘みがあります。糖質の代謝を促すビタミンB1やB2も含まれるので効率よくエネルギーとなり、疲労回復の効果が期待できます。さらに渋皮に含まれるタンニンには抗酸化作用があり、動脈硬化や老化防止に役立ちます。

栗の渋皮煮

- ①たっぴりの熱湯に栗を入れ冷めるまでつけて置いたら、渋皮を傷つけないように鬼皮をむきます。
- ②鍋に栗と重曹大さじ1とヒタヒタになるくらいの水を入れ、火をつけ沸騰したら、弱火で20分茹でます。ゆで汁が真っ黒になったらお湯をすて、流水でスジやうぶ毛を取り除きます。この作業を3回繰り返します。
- ③水に砂糖を入れ、煮立ったら栗を入れ、弱火で1時間煮てそのまま冷まして出来上がり。

<材料>

栗	1kg
重曹	大さじ3
水	2ℓ
砂糖	500g

季節のたより

令和4年10月



公立黒川病院 栄養室発行

10月の誕生花（キンモクセイ）

花言葉は「謙虚」「謙遜」「真実」「初恋」です。原産地の中国では桂花と呼ばれ「雅な花」という意味を持ちます。砂糖やお酒に漬けたり、香味料として使う事もあります。花言葉の「謙虚・謙遜」は香りに比べて花が控えめであることからきています。

10月の行事



徒歩の日（10月4日）

「10（と）月4（フォ）日」の語呂合わせから、「日常生活で歩く習慣をつけて、健康を促進すること」を目的に制定されました。歩くことを楽しむ方法をして「ハイキング」「ウォーキング」「散歩」があります。ハイキングは「目的地を決めて、景色などを楽しみながら歩くこと」で、ウォーキングは「健康のためという目的を持って歩くこと」を言い、散歩は「目的を決めずに散策すること」を言います。

冷凍食品の日（10月18日）

冷凍の「とう10」と冷凍食品の世界共通の管理温度であるマイナス18℃にちなんで制定されました。便利な冷凍食品を上手に使いこなして、より多くの人に食べてもらうことが目的です。マイナス18℃以下にすることで寄生虫を殺したり、ビタミンCなどの栄養素を保つことができます。

季節の食材

<豆乳>



10月12日は豆乳の日です。豆乳は大豆に水を加え、すりつぶして液状にし、これをこして加熱したものです。大豆の栄養素を引き継ぎ、良質のたんぱく質が豊富です。大豆たんぱく質は消化・吸収に時間がかかるため、豆乳を飲むと腹持ちがよく、食べ過ぎの予防におすすめです。

白菜の豆乳スープ

- ① 白菜を洗って一口大に切っておきます。
- ② 鍋にバターを入れ白菜を軽く炒めてから、ツナ缶と水、コンソメを加えて煮込みます。
- ③ 豆乳を注ぎ、塩・黒コショウを加え、味を調えます。

<材料（2人分）>

豆乳	200 cc
水	200 cc
白菜	150 g
ツナ缶	1 缶
コンソメ	1/2 個
バター	10 g
塩・黒コショウ	適量

季節のたより

令和4年11月



公立黒川病院 栄養室発行

11月の誕生花（サフラン）

花言葉は「陽気」「喜び」「歓喜」「節度ある態度」です。原産地は地中海沿岸から西南アジアになります。別名薬用サフランと呼び、花サフラン（クロッカス）と区別されています。赤いめしべは香辛料や着色料に利用されています。

11月の行事



ラジオ体操の日（11月1日）

1928年11月1日に初めて「ラジオ体操」の放送が行われました。「いつでも、どこでも、だれでも」気軽に取り組める体操として親しまれています。記念日はラジオ体操制定90周年を記念して2018年に認定・登録されました。

一茶忌（11月19日）

松尾芭蕉・与謝野蕪村とともに江戸三大俳人に数えられる小林一茶の忌日です。一茶の没年は1827年。65年の生涯を通して2万句以上の作品を残しました。素朴さと弱者への慈しみあふれる一茶の句は今でも多くの人に愛されています。

季節の食材

<カニ（蟹）>



国内で流通しているものは、ズワイガニやタラバガニ、毛ガニ、ワタリガニなどがあります。栄養はたんぱく質が中心で低脂肪、低エネルギーの食材です。うまみ成分のグルタミン酸やグリシンが多く、濃いうまみのある味わいが特徴です。アミノ酸の一種であるタウリンも多く、ビタミンB群も豊富なので疲労回復に役立ちます。

カニたまスープ

- ①鍋にお湯と鶏がらスープの素を入れ、カニ缶を入れてほぐします。
- ②塩・コショウで味を調え、水溶き片栗粉を入れ中火で煮ます。
- ③トロミがついたら溶き卵を回し入れ、固まってきたら火を止め、器に盛り小ねぎを散らします。

<材料>

カニ缶	50g
卵	1個
お湯	400cc
鶏がらスープの素	小さじ2
塩・コショウ	適量
水溶き片栗粉	小さじ2
小ねぎ	少々

季節のたより

令和4年12月



公立黒川病院 栄養室発行

12月の誕生花（カトレア）

花言葉は「優美な貴婦人」「成熟した大人の魅力」「魔力」です。原産地は中南米になります。カトレアはランの中でも大きく華麗な花が多いことから「ランの女王」と呼ばれ、コサージュや贈り物などフォーマルフラワーとして親しまれています。



12月の行事

カレンダーの日（12月3日）

旧暦から新暦へと移行した「明治改暦」を記念して制定されました。太陽暦（新暦）を採用している諸外国と足並みをそろえるため、約一か月まえの11月9日に「明治5年12月3日を明治6年1月1日にする。」と当時の政府が宣言しました。この急な決定の裏には明治政府の深刻な財政難があったと言われています。

福の日（12月29日）

29日を「ふく」と読む語呂合わせから、「正月行事の本来の意味や謂われなどを知ることによって、福を招いてもらう」ということを目的とした記念日です。正月を迎える直前であり、買い物や大掃除をして正月に備える日であることが由来です。

季節の食材



<めんたいこ（明太子）>

12月12日は初めて「明太子」が新聞の登場した日で明太子の日となっています。「明太子」とは「スケトウダラの子（卵巣）」という意味であり、本来「タラコ」を指す言葉です。今日では唐辛子で漬けた「辛子明太子」が「明太子」となりさらに略して「めんたい」と言われています。

めんたい卵焼き

- ① ボールに卵とだし汁を入れ良くかき混ぜておきます。明太子は、真ん中に切れ目を入れておきます。
- ② 玉子焼き器に油をなじませ、卵を1/3~1/4くらい入れ、均等に広げ中火で焼きます。
- ③ 卵が固まってきたら、奥側に明太子を丸ごとのせ、ほぐしながら端まで広げます。奥から手前に2~3回巻きます。
- ④ 卵を奥に移動させ、油をひいて卵を同様に入れて巻く作業を繰り返します。
- ⑤ 食べやすい大きさに切って出来上がり。

<材料>

卵	3個
だし汁	大さじ3
明太子	1腹
油	適量

季節のたより

令和5年1月



公立黒川病院 栄養室発行

1月の誕生花（水仙）

花言葉は「自己愛」「うぬぼれ」となっています。学名の「ナルシアス」は、ギリシャ神話の「ナルキッソス（ナルシストの語源でもあります）」からとったもので、そのイメージが花言葉になっています。悪い花言葉ばかりではなく、白い水仙は「希望の象徴」ともされています。



1月の行事

石の日（1月4日）

「1（い）4（し）」の語呂合わせから。「ストーンズデー」とも言われています。石や岩は昔から神様の寄り付く場所として尊ばれてきました。この日にお地蔵様や狛犬・墓石など、願いをかけた石に触れると、その願いが叶うと言われています。

塩の日（1月11日）

1567年武田信玄が今川氏から「塩止め」をされ領民が苦しんでいることを知り、長年交戦状態にあった上杉謙信がこの日に塩を送った日とされています。この話が「敵に塩を送る」という言葉の元になっています。



季節の食材

＜ホウレンソウ（法蓮草）＞

ホウレンソウにはビタミンB群の葉酸が発見されたことで知られています。鉄分やカルシウムなどのミネラルが含まれており、鉄分の吸収をよくするビタミンC、抗酸化があるβカロテンも豊富で緑黄色野菜の中でも栄養価の高さはトップクラスです。

ホウレンソウの白和え

- ①人参は2cmくらいの線切りにし、茹でます。
- ②ホウレンソウは茹でて冷水にとり、水気を切ってから2cmくらいに切ります。
- ③豆腐はキッチンペーパーで包み電子レンジで2～3分加熱し、粗熱を取ります。
- ④③に調味料を入れ滑らかになったら、①と②を加えて混ぜ合わせたら出来上がり。

材料（2人分）	
絹ごし豆腐	1/2丁
ホウレンソウ	200g
人参	30g
白すりごま	大さじ1
薄口醤油	大さじ1
砂糖	大さじ1/2

季節のたより

令和5年2月



公立黒川病院 栄養室発行

2月の誕生花（梅）

花言葉は「忠実」「気品」となっています。「忠実」という花言葉は、菅原道真が太宰府へ左遷された際に愛でていた梅が後を追って空を飛んだ「飛梅伝説」からきています。そのため学問の神“天神”のシンボルとしても使用されています。



2月の行事

笑顔の日（2月5日）

2月（に）5日（こ）「ニコニコ」の語呂合わせから、「いつもニコニコ笑顔と笑顔になっていよう」という日です。笑顔になるだけでストレス解消したり、免疫力が上がったり、顔の筋肉を使うので、顔のたるみ予防にも期待できます。

ふろしきの日（2月23日）

つ（2）つみ（23）「包み」の語呂合わせから、1200年以上の歴史があり、もっともシンプルで、もっとも伝統的なラッピングである風呂敷の価値を広くアピールすることが目的の日です。平安時代は「衣包み」や「平包み」と呼ばれ、「風呂敷」と呼ばれたのは江戸時代から。文字通り銭湯に通う際、着物を包むために用いたのが語源と言われています。

季節の食材

<油揚げ>

2月最初の午の日を「初午」と呼び、各地のお稲荷様でお祭りを行います。お稲荷様と言えば「油揚げ」ということでレシピを紹介します。

油揚げと水菜のチーズ巻き

- ① 油揚げは3辺に切り込みを入れ開き、水菜は油揚げの長さに切ります。
- ② 油揚げにチーズ、水菜の順に乗せて巻き、最後に爪楊枝で止めます。
- ③ フライパンにごま油を入れ、巻き終わりを下にし中火で焼きます。
- ④ 油揚げに焼き色がついたら残りの調味料を入れ、味がなじんだら出来上がり。



<材料（2人分）>	
油揚げ	2枚
水菜	100g
スライスチーズ	2枚
ごま油	小さじ1
しょうゆ	大さじ2
砂糖	大さじ1
みりん	大さじ1
水	大さじ2

季節のたより

令和5年3月



公立黒川病院 栄養室発行

3月の誕生花（スイートピー）

花言葉は「門出」「別離」「やさしい思い出」となっています。スイートピーの名前は甘い香りがするマメ科植物という意味です。花言葉の「門出」「別離」は花の姿が今にも飛びたつ蝶のように見えることから来ています。また、マメ科特有の上へ上へと伸びる習性や春らしい色は卒業や入学にぴったりの花です。

3月の行事

だがしの日（3月12日）

お菓子の神様として知られる田道間守命たしまりのみことの命日に因んで制定されました。「駄菓子」ではなくひらがなの「だがし」にしたのは子ども達にも分かりやすいようにとの大人の配慮からです。日本の精神・文化が凝縮された駄菓子業界の活性化と DAGASI を世界平和のキーワードとして世界中の人々に知ってもらうことが目的として制定されました。



3月25日
電気記念日

電気記念日
シンボルマーク
手のひらで光を囲む形と
電球の形の両方をイメージ
したものです。

電気記念日（3月25日）

明治11年（1878年）東京虎ノ門の工部大学校（現東京大学工学部）にて東京電信中央局の開局祝賀会が行われ、日本で初めてアーク灯（電灯）の点灯に成功した日に因んで制定されました。先駆者の偉業を称えるとともに、今後の新たな発展を誓う日をされています。

季節の食材



<おかき>

「せんべい」と「おかき」と「あられ」の違いをだがしの日因んで紹介します。まずせんべいは「うるち米」で作ったもの、おかきとあられは「もち米」で作ったものとなります。あられは氷の粒ほどの小ささで、おかきはそれよりも大きなものとされています。

<おかき>

- ① 切り餅は1cmの角切りにします。
- ② フライパンに3cmくらい油を入れ180℃に熱します。
- ③ ①を入れ3分程度揚げ、油を切ります。一度にたくさん入れるとくっつくので、少量ずつ揚げてください。
- ④ ボールにきなこ、砂糖、塩を入れ混ぜ合わせ、③を絡めたら出来上がり。

※青のりやカレー粉など好みの味付けでアレンジできます。

<材料>

切り餅	2個
揚げ油	適量
きなこ	大さじ2
砂糖	大さじ2
塩	小さじ1/2

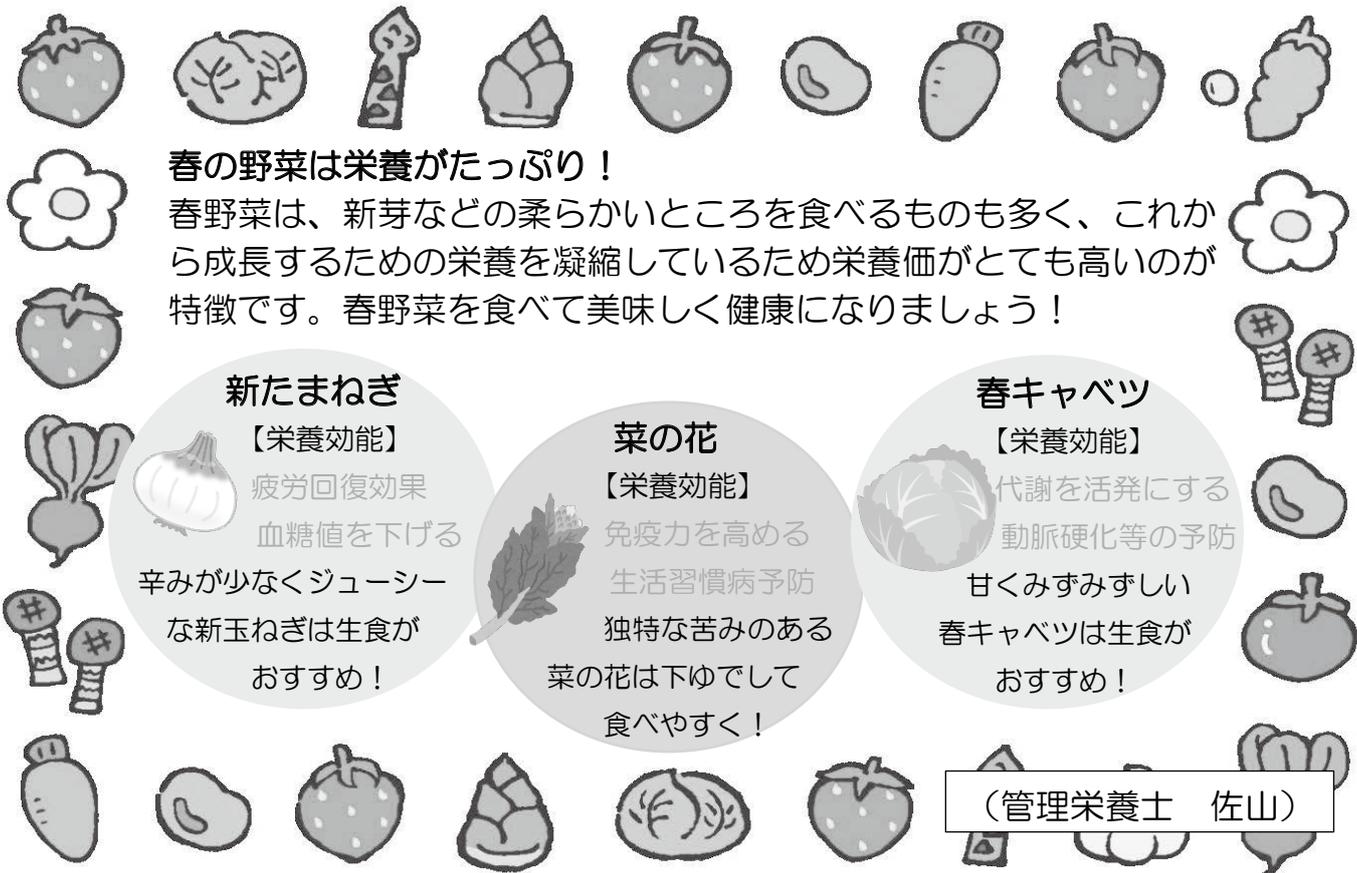
糖尿病たより

令和4年春号 公立黒川病院発行

春到来！歓送迎会やお祝い事でお酒を飲むことが多い季節ですね。お酒の以下のような特徴を知ってから、適量（1日で日本酒1合、又はビール500mlまで、休肝日週2日以上）を飲むと糖尿病の薬も減らすことができるかもしれません。

①アルコール自体では血糖値は上昇しませんが、飲酒後、肝臓内のグリコーゲンのブドウ糖分解を促進させて一過性に血糖値は上昇↑
②糖質が入っているお酒は、血糖値上昇↑
③アルコール7kcal/gのエネルギーはすぐに利用されますが、肝臓でのアルコールを分解過程で中性脂肪の合成が促進↑。
④おつまみの糖質や脂質で余ったエネルギーは肝臓に体脂肪として蓄積↑

血糖値の上昇、中性脂肪の増加、体脂肪の増加しないよう注意して、楽しい時間を過ごしてくださいね。（内科 筒井）



春の野菜は栄養がたっぷり！

春野菜は、新芽などの柔らかいところを食べるものも多く、これから成長するための栄養を凝縮しているため栄養価がとても高いのが特徴です。春野菜を食べて美味しく健康になりましょう！

新たまねぎ

【栄養効能】
疲労回復効果
血糖値を下げる
辛みが少なくジューシーな新玉ねぎは生食がおすすめ！

菜の花

【栄養効能】
免疫力を高める
生活習慣病予防
独特な苦みのある菜の花は下ゆでして食べやすく！

春キャベツ

【栄養効能】
代謝を活発にする
動脈硬化等の予防
甘くみずみずしい春キャベツは生食がおすすめ！

（管理栄養士 佐山）

春の暖かい季節になってきました。ちょっとそこまでウォーキング（散歩）してみませんか？

今回はウォーキングの良い姿勢について説明します！！

○顎を軽く引き、背筋を伸ばして胸を張り真っすぐ前を向いて歩きます。

○歩幅はやや大きくし、親指で踏み込むようにして一歩を踏み出し、膝を伸ばして踵とから着地します。

○足先は真っ直ぐ、自然に振り出すようにします。

○肩や腕の力を抜いて腕をリズムカルに振ります。

○慣れるまではスピードは意識せず、正しい姿勢を保つことを意識して歩いてみましょう。

気持ちを楽にして歩き、心と体を鍛えていきましょう！！

（理学療法士 村上）



一問一答なんでも Q&A

Q 最近ロカボ製品が良く出ていますが、糖尿病やダイエットに効きますか？

A 糖尿病の方に糖質を抑えた食品というのはある意味理にかなっています。ただしカロリーを全く気にしないで「ロカボ」の表示のみに気を取られてしまうと危険です。例えばナッツ類は 15g でご飯茶碗半分のカロリーがあります。運動を行わないでたんぱく質を多く摂ることも肥満の元です。御注意ください。（管理栄養士 小岩）

糖尿病たより

2022年夏号 公立黒川病院発行

ペットボトル症候群にご注意を！

梅雨もあつという間にあけ、毎日暑～い日がつづいていますが、皆様、水分をこまめに飲んでいらっしゃるでしょうか？家の中においても、高温多湿の環境で熱中症になることがありますので、1時間に1回、コップ1杯の水分摂取を心がけてください。ただし、若い人が陥りやすく注意してほしいのが「ペットボトル症候群」です。人の体内の血液には総計4～5gのブドウ糖が含まれますが、甘いペットボトル飲料には20～30gのブドウ糖が含まれているものもあり、飲んだらすぐにほぼ全量が吸収されます。毎日甘い飲み物を大量にのむと、連日の急激なブドウ糖上昇に対応できなくなり糖尿病を発症してしまいます。「ペットボトル症候群」は清涼飲料水の摂取中止で改善します。また、暑い日は外出せず家にいることが多くなりますが、筋トレなどで体を動かし、糖質を抑えた栄養バランスのとれた食事を取り、健康寿命を延ばしましょう。

(内科医師 筒井)

★なんでもQ&A★

Q：お薬を飲み忘れた時、まとめて飲んでもいいですか？

A：多く飲むと低血糖が起きやすくなりますので、絶対にまとめて飲まないようにしてください。決められた量をのむようにしましょう。

(薬剤師 伊藤)



運動の紹介

踵上げ、つま先上げ運動



・踵上げ

椅子につかまり、踵を上げゆっくり下ろします。

・つま先上げ

椅子につかまり、つま先を上げゆっくり下ろします。

* 前方・後方に倒れないよう注意しながら行って下さい。

10~20回を、一日2回を目安に行ってみましょう。

(理学療法士 村上)

夏に注意したい食生活！

夏場は食欲が落ちやすいため、そうめんやひやむぎ等の冷たくのど越しがよい麺類を選びがちに。しかし麺類のみ(糖質)の食事は食後の高血糖を悪化させ、また腹持ちがあまりよくないため食べ過ぎてしまう原因にもなります。麺類のみではなく、肉・魚・卵などのたんぱく質のおかずや野菜なども組み合わせて食べるようにしましょう。

また、暑い日には冷たいアイスやゼリーなどついつい食べたくなりますが、どれもエネルギー量が高く血糖値を上げやすいので要注意です！



そうめんのおすすめトッピング

- ・蒸し鶏・錦糸卵・ツナ・納豆・きゅうり・トマト
- ・オクラ・大根おろし・しいたけの甘煮 など

(管理栄養士 佐山)

夜更かしに注意！

あなたは、早起き派 それとも 夜更かし派 でしょうか？

朝型タイプの方は、安静時と運動中の両方で、より多くの脂肪をエネルギー源として使っており、血糖値を下げるインスリンが効きやすい体になっている傾向があります。日中の活動度も高い人が多いです。

夜型タイプの方は、脂肪をエネルギーとして利用する能力が低下しやすいという研究結果が出ています。さらに日中の活動度が低く、インスリンが効きにくくなり、血糖値を下げるためにより多くのインスリンを必要とし、早くエネルギーに変わり血糖値を上げやすい炭水化物を好む傾向にあります。肥満になりやすく、糖尿病、心血管障害のリスクが高い傾向があります。これから寒くなると朝日を浴びる時間が遅くなり、早起きが難しくなりますが、健康寿命を延ばすためにも、朝は定時に部屋の灯りをつけて、早起きを続けていきましょう。

(内科 筒井)

“食欲の秋” と言うように、美味しい旬の食材が豊富に出回る季節です。食べ過ぎに注意しながら、秋の味覚を楽しみましょう！

さんま



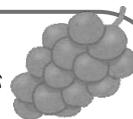
中性脂肪やコレステロールを下げる働きを持つ DHA や EPA を豊富に含んでいるだけでなく、カルシウムやビタミン A・E なども豊富です。

さつま芋



食物繊維豊富ですが糖質量も多いです！焼き芋 1 個(300g) 食べるとご飯 大盛 1 杯ぐらい(200g)と同じくらいです！食べる量に注意しましょう。

ぶどう



ポリフェノールが豊富で抗酸化作用があり老化や病気を防ぐ効果が期待されています。果物の中でも糖質量が多く、一口サイズでついたくさん食べてしまいがちなので食べ過ぎに注意です！

秋から冬にかけて様々な行事が続くため、食事量や飲酒量が増える時期となります。運動やバランスの良い食事を普段から心がけて取り組みましょう。

(管理栄養士 佐山)

☆運動の紹介☆ ①足を横に上げる運動 ②後ろに上げる運動



①椅子につかまり片方の足を横に向かって上げます。斜め後方に上げるとより効果的です。

②椅子につかまり片方の足を後ろに上げます。

* どちらの運動も体を真っすぐにした状態で行います。1セット 10～20回を1日に2～3セット行ってみましょう！
(理学療法士 村上)



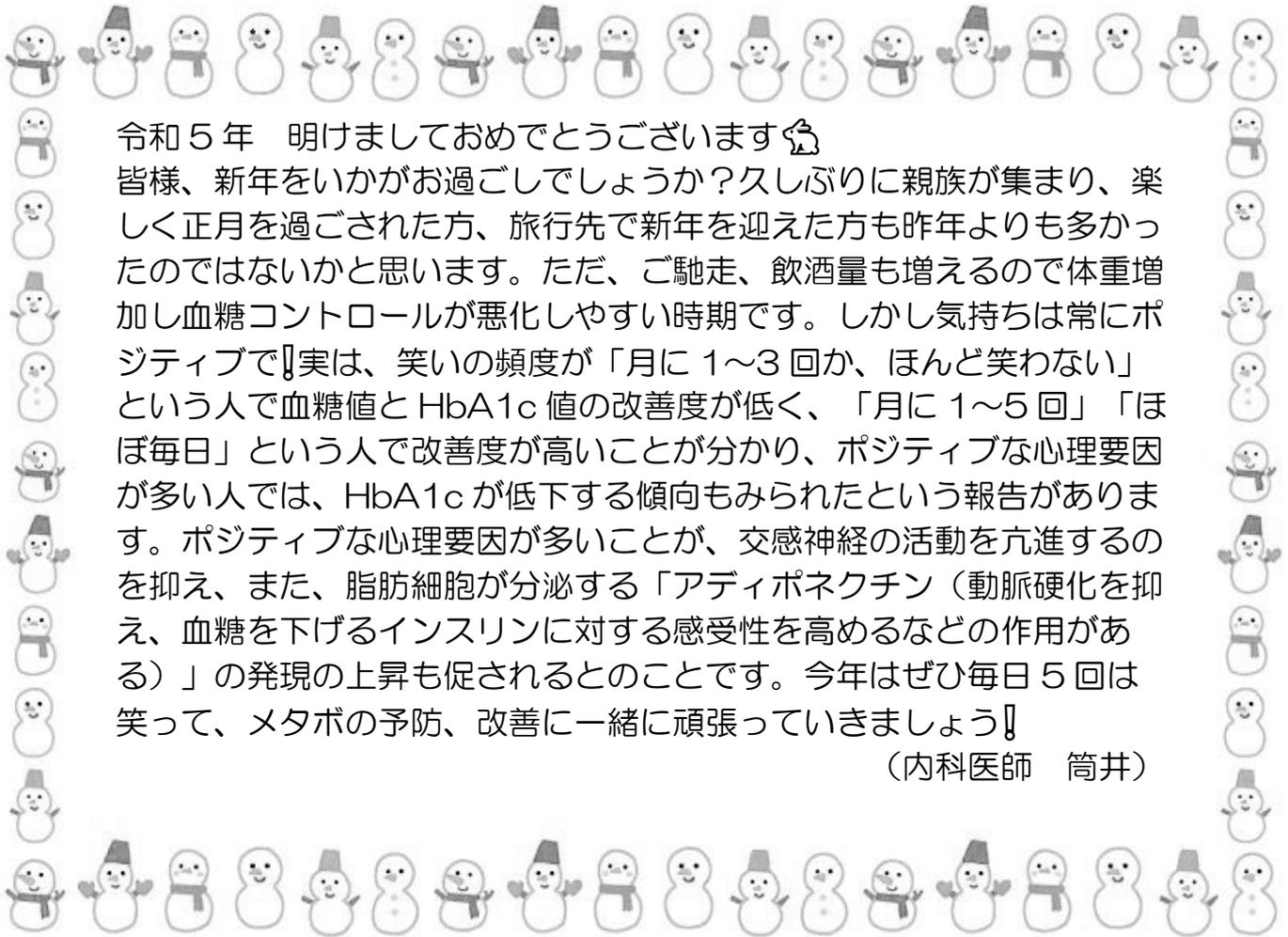
～血糖コントロール目標～

血糖コントロール状態をみる検査に HbA1c（ヘモグロビンエーワンシー）という項目があります。HbA1c は 1～2 か月間の平均血糖値を表します。血糖コントロール目標は、血糖正常化を目指すには 6.0% 未満、合併症予防のためには 7.0% 未満といわれています。食事と運動を見直し、自分の目標を目指して血糖値をコントロールしていきましょう。
(検査 今井)



糖尿病たより

令和4年度冬号 公立黒川病院発行



令和5年 明けましておめでとうございます🎊

皆様、新年をいかがお過ごしでしょうか？久しぶりに親族が集まり、楽しく正月を過ごされた方、旅行先で新年を迎えた方も昨年よりも多かったのではないかと思います。ただ、ご馳走、飲酒量も増えるので体重増加し血糖コントロールが悪化しやすい時期です。しかし気持ちは常にポジティブで、実は、笑いの頻度が「月に1~3回か、ほとんど笑わない」という人で血糖値とHbA1c値の改善度が低く、「月に1~5回」「ほぼ毎日」という人で改善度が高いことが分かり、ポジティブな心理要因が多い人では、HbA1cが低下する傾向もみられたという報告があります。ポジティブな心理要因が多いことが、交感神経の活動を亢進するのを抑え、また、脂肪細胞が分泌する「アディポネクチン（動脈硬化を抑え、血糖を下げるインスリンに対する感受性を高めるなどの作用がある）」の発現の上昇も促されるとのことです。今年はぜひ毎日5回は笑って、メタボの予防、改善と一緒に頑張っていきましょう！

（内科医師 筒井）

やけどに注意しましょう！

糖尿病になると感覚がにぶくなり、痛みを感じにくくなる場合があるので次のことに注意しましょう。

- ① お風呂に入る時は、温度をよく確認してから入る。
- ② 湯たんぽやカイロは直接皮膚にあてない。（寝る前に布団から出す）
- ③ コタツで寝ない。

やけどや低温やけどになると治りにくいので、特に冬場は上記のことを注意しましょう！

管理栄養士 小岩



🧸運動の紹介🧸



冬場になり、運動の機会が減っていると思います。そんな時は、簡単に椅子に座って出来る「その場歩き」を紹介しします。

背筋を伸ばして、椅子に腰かけます。太ももを天井に向かって交互に上げます。歩く時のように腕を振りながら行いましょう。

できるだけ高く太ももを上げ、大きく腕を振りましょう。

テレビを見ながらでも出来る運動です。まずは3分を目標に行い、調子に合わせて時間を伸ばして行きましょう！
(理学療法士 村上)

免疫力を高める！体を温める食べ方「3つの“か”」

「かねつ」煮る・炒める・蒸すなど加熱調理した温かい料理を中心に。

「かむ」 噛むことで体温が上がり、血流がアップ。

「からみ」唐辛子やネギ、大根などの辛み成分には血行を促進する効果。

寒い季節、風邪やインフルエンザなどの感染症が増えてきます。血糖コントロールが悪い方だと、免疫の働きが悪く、感染症に対する抵抗力が落ちやすいため、免疫力をアップさせる食べ方を意識してみましょう！

管理栄養士 佐山

緑風

Vol.28
May 2022

すべては地域のみなさまのために

公立黒川病院だより

発行：公立黒川病院

地域連携センター 地域連携室

巻頭言：私はまだかつて嫌いな人に逢ったことがない

公立黒川病院 管理者 角田 浩



「サヨナラ、サヨナラ、サヨナラ…」と『日曜洋画劇場』解説の締め括りに強調して言う独特の語り口で有名だった淀川長治さんは人生を生き抜くうえで映画から三つのスローガンを得たといいます。

一つ目は「ウェルカム・トラブル（苦労よ、来い）」です。

淀川さん曰く、「私の座右の銘はウェルカム・トラブルです。トラブル歓迎、いらっしゃい。そう思っていると、実際にトラブルが起こっても、元気が出てくるんですよ」「苦労から逃げないでがんばろう！そんな単純なものではありません。苦労がなければ人間ではない、ということです。なにも心配ない、安全すぎる人には、同情も、理解も、愛もありません。苦しむ経験をもてば相手にもにっこりできます。なぜなら、相手に対していたわりの精神ができますから…」

二つ目は「ウェルカムストレンジャー」です。「他人歓迎」。

淀川さん曰く、「私には他人がありません。他人であろうが身内であろうが全部が身内になる。あったかい人が大好きです。私はこの世に他人を持たない人が好きです。」

そして三つ目は「おれはなあ、まだ今日まで、き

らいな奴にあったことがねえ」(I never met a man, I didn't like.) この言葉に対して淀川さん曰く、「なんていい言葉でしょう。これはお金で買えない言葉だと思いました。この気持ちこそ大切、いつでもそういう気持ちでいよう、と思い今日まできました。これはすべての上でどんなに勇気を与えてくれたことでしょうか」と。

医療従事者は今、誰でも新たな感染症という「トラブル」に日々奮闘しています。当院でも発信しますし、ご連絡もいただきます。この「トラブル」をバネにさらに連携を強固にしていきたいと思えます。そして医療従事者はみんな戦っています。連携を密にしてお互い「身内」として戦い続けたいと思えます。

以前勤めていた病院では、他のクリニックの先生に「いろいろあったのであなたの病院に患者さんを紹介する気がない」と言われたことがあります。幸いなことに黒川郡にきて18年目、一度もそういうことを言われた事はありません。本当に幸せです。この環境に感謝し、今年度も連携第一で職務に励みたいと思えます。また拙い文章でお会いする機会があるかもしれませんが、本日は「サヨナラ、サヨナラ、サヨナラ…」です。

常勤医師紹介

それぞれの専門分野を併せてご紹介いたします。



管理者兼病院長

かくた ひろし
角田 浩

●専門分野

内科

●専門医資格等

専門医資格等：日本プライマリ・ケア連合学会指導医、日本睡眠学会睡眠医療認定医師、日本病院総合診療医学会認定医、精神保健指定医、ボトックス施注資格（痙縮、斜頸、多汗症）、義肢装具等適合判定医師、日本リハビリテーション医学会認定臨床医

●一言

日本睡眠時無呼吸症候群(SAS)、回復期リハビリ病棟についてのご相談、消化管内視鏡検査を担当しております。



内科医

ついで みほ
筒井 美穂

●専門分野

内科一般、老年医学

●専門医資格等

日本内科学会認定医、日本老年医学会認定老年科専門医、日本医師会認定産業医

●一言

内科一般、訪問診療・健診を中心に診療しています。高齢者診療についてお困りの事がありましたら、ご相談下さい。



副管理者 兼
地域医療センター長

よこみち ひろひろ
横道 弘直

●専門分野

内科、血液・免疫、総合診療、在宅医療

●専門医資格等

日本プライマリ・ケア連合学会認定医・指導医

●一言

入院/外来診療、訪問診療を担当します。



内科医

うえはら しゅういち
上原 周悟

●専門分野

家庭医療、一般内科、総合診療、訪問診療、リハビリテーション

●専門医資格等

日本プライマリ・ケア連合学会 家庭医療専門医、日本プライマリ・ケア連合学会 プライマリ・ケア認定医

厚生労働省認定 臨床研修指導医、認知症サポート医、ボツリヌス施注資格、がんリハビリテーション研修終了

●一言

健診・内科外来・訪問診療、入院、リハビリテーション、ボツリヌス治療を担当します。黒川地域の医療全般に貢献できるよう頑張ります。



副管理者

なんか しゅんすけ
南家 俊介

●専門分野

内科、循環器科

●一言

主に循環器疾患についての診療を行います。心エコー、ホルター心電図解析、冠動脈CTなどを担当します。



内科医

まつお りょうへい
松尾 亮平

●専門分野

総合診療

●専門医資格等

総合診療専攻医

●一言

地域医療振興協会の総合診療専門医プログラムに所属しています。病棟、外来、訪問をさせていただいています。よろしくお願ひします。



内科科長

もりした じょう
森下 城

●専門分野

内科、消化器科

●専門医資格等

日本内科学会認定医、日本消化器病学会専門医、日本消化管学会胃腸科専門医、日本医師会認定産業医、認知症サポート医

●一言

一般内科および消化器疾患の診療を行っています。上部内視鏡検査を担当しています。下痢や便秘などの消化管運動機能障害を専門としていますので、お困りの方はご相談ください。



小児科科長

いわき としみち
岩城 利充

●専門分野

新生児学、心身症、発達障害

●一言

一般小児診療、心身症、発達障害などに対応しています。発達障害のご紹介は予約をお願いします。



健診室室長

まつお ひでのり
松尾 英史

●専門分野

内科一般、物忘れ・認知症

●専門医資格等

日本医師会認定産業医、認知症サポート医

●一言

健診、内視鏡検査、認知症サポート、そして企業の産業医として活動しています。もの忘れに心配の方、ご相談ください。



産婦人科科長

さがら もりお
相良 守峰

●専門分野

産婦人科

●専門医資格等

産婦人科専門医、母体保護法指定医、産業医、日本専門医機構認定産婦人科専門医、医学博士、農学士

●一言

婦人科疾患全般を担当しています。



副病院長兼泌尿器科科長 たぐり かつゆき
田口 勝行

●専門分野
泌尿器科一般、尿路結石、前立腺肥大症、前立腺がん、尿路悪性腫瘍
●専門医資格等
日本泌尿器科学会専門医
●一言
黒川地域唯一の泌尿器科として十分な医療を提供します。



副病院長 おおつき しゅういち
大槻 修一

●専門分野
外科一般、乳腺外科、甲状腺外科、下肢静脈瘤
●専門医資格等
外科専門医、マンモグラフィ読影認定医、日本透析医学会専門医
●一言
甲状腺検診、乳がん、甲状腺疾患について専門診療をしています。消化器外科、血管外科についてもご相談下さい。腹腔鏡治療も行います。



副病院長兼整形外科科長 たなか まさひこ
田中 正彦

●専門分野
整形外科（股関節）
●専門医資格等
日本認定医機構整形外科専門医
●一言
下肢関節の痛み、特に股関節の痛みで困っている患者さんがいましたらご相談ください。



診療部長兼外科科長 たけやま だいすけ
武山 大輔

●専門分野
一般外科、消化器外科
●専門医資格等
外科専門医、外科指導医、消化器外科専門医・指導医
●一言
地域の皆様に安心・安全な医療を提供できるように尽力したいと思います。外傷一般、鼠径ヘルニア、胆石、腸閉塞、虫垂炎等の急性腹症など、お気軽にご相談ください。



周術期管理センター長 まつかわ しゅうろう
松川 周

●専門分野
麻酔科学、集中治療医学（特に呼吸管理）
●専門医資格等
日本専門医機構専門医（麻酔科）、日本麻酔科学会認定医・指導医、日本集中治療学会専門医、日本呼吸療法医学会専門医
●一言
手術麻酔を中心とした周術期管理を担当しています。麻酔は医療における基盤・基礎を担っており、患者の安全・安心に寄与する重要な部門の一つとの認識を持って業務に携わっています。



外科医 まつもと しゅうご
松本 翔子

●専門分野
一般外科、消化器外科
●一言
一般外科、消化器外科を担当しています。地域医療に貢献できるように頑張ります。宜しくお願い致します。

着任のご挨拶

事務部長 阿部 敏彦



令和4年5月からお世話になっています阿部と申します。心地の良い新鮮な朝日を背中に浴びて、沿岸部の女川から車で通勤しています。道中、早苗がそよぎ光輝く田んぼを眺めては、農業の凄さを感じます。大切な農業を守るべく、幾多の困難に見舞われながらも、代々適切に対処し努力を重ねてきたからこそ農業の継続性が担保され、風景として変わらずに存在してくれています。

医療も同じであると思います。私は、東日本大震災時の津波を旧女川町立病院で経験しました。町の一部地区を除き大津波によりほとんどの建物が流され、更に多くの犠牲者が出るなか、海拔16メートルの高台に位置する病院さえも例外ではなく、何度も繰り返す津波により、建物、設備、医療機器、医薬品等々が損壊流失するなど、想像を絶する壊滅的な被害を受けてしまいました。「町から

医療の灯が消えてしまう。」と誰もが下を向いていると、院長が「電気、水道、通信などの生活インフラはすべて流されてしまったが、我々の医療も大事なインフラの一つ。患者（住民）が病院に来れないなら、自分達がそこまで行く。」と言い放ってくれました。打ちひしがれたスタッフの心が一つになった瞬間です。町全体が廃墟と化す絶望的な環境下で震災直後から医療が奇跡的に継続され、その後、国内外からの数多くの温かいご支援やご協力もあり、被災地最速の半年あまりで待望の応急復旧工事を完了することとなります。特筆すべきは、被災者の身近なところで医療の継続性が確保されたこと、復興へ向けて必死に頑張る医療関係者の努力が被災者に安心感を与え、再建へと向かう人々の背中を押す力にもなったと自負しております。

「すべては地域の皆さんのために」黒川の一員として心新たに地域に必要な安全で安心な医療が継続して提供されるよう頑張っていますので、ご指導のほどよろしくお願い申し上げます。

着任のご挨拶

内科医 松尾 亮平

地域医療振興協会総合診療専門医プログラム地域医療のスヌ奈良卒後6年目の松尾亮平です。2022年1月から6か月間研修で公立黒川病院に赴任いたしました。地域医療に貢献できるような医師になりたいと思い地域医療振興協会での後期研修を選択しました。卒後3年目から地域医療振興協会に入職し今年で4年目になりました。専門医プログラムの最終年です。これまでは奈良県で2年6か月間研修を行い主に300床の病院や無床の診療所で研修をしていました。救急外来やICU研修、慢性期の外来、内科など様々な研修を行ってきました。これまで学んできたことを地域研修で発揮すべく精進しています。

公立黒川病院では新患外来、病棟管理、終末期の方の訪問診療を行っています。専門領域は特にありませんが新患外来では適切な診断・治療、専門治療が必要であれば後方病院に迅速に搬送をできるように、病棟管理は入院による合併症を最小限にし、短い入院期間で改善できるように、終末期の方の訪問診療では苦痛を軽減しその方らしい生活を支えていける様に尽くしていきたいと思っています。

公立黒川病院では6か月間の研修となっております非常に短い間ですが地域の皆様に貢献できるように精進いたします。また公立黒川病院でなるべく多くのことを吸収し、成長できるようにそして専門医を取得できるように努力していきたいと思っています。ご迷惑をおかけすることもあると思いますが、なにとぞご指導ご鞭撻のほどよろしくお願ひいたします。

外来診療担当表

令和4年5月現在

〈受付時間〉午前8:00～11:30 午後1:30～4:00

※診療科によって一部異なります

診療科		月	火	水	木	金	土
内科 ◆土曜日受付 8:30～11:30	午前	角田・松尾(英) 森下・松尾(亮) 金澤	横道・南家 筒井・森下 応援医師	角田・松尾(英) 森下・長澤 応援医師	角田・上原 松尾(亮)・金澤 応援医師	横道・南家 松尾(英) 東北大医師 応援医師	応援医師
	午後	横道・筒井	交代制	長澤	東北大医師	応援医師	—
小児科 ※1 第3火曜日午後休診 ※2 第1・3金曜日休診 ◆発達相談予約制	午前	岩城	岩城	岩城	岩城	岩城(※2)	—
	午後	岩城	岩城(※1)	岩城	—	岩城(※2)	—
外科	午前	大槻・武山 東北大医師	大槻・松本 東北大医師	大槻・武山 東北大医師	大槻・松本 応援医師	大槻・武山 応援医師	—
	午後	—	—	—	—	—	—
整形外科 ◆初診受付 8:00～10:30(紹介状必要) ◆再来受付 8:00～11:00(予約制)	午前	田中	東北大医師	東北大医師	田中	田中	—
	午後	—	—	—	—	—	—
婦人科 ※3 午後予約制	午前	相良	相良	相良	相良	相良	—
	午後	相良(※3)	相良(※3)	相良(※3)	—	相良(※3)	—
耳鼻咽喉科	午前	—	—	—	—	—	—
	午後	東北大医師	—	—	東北大医師	—	—
眼科 ◆受付時間 8:00～11:00	午前	東北大医師	—	東北大医師	—	—	—
	午後	—	—	—	—	—	—
皮膚科	午前	—	応援医師	—	—	応援医師	—
	午後	—	—	—	—	—	—
泌尿器科 ※4 第1・3・5金曜日休診	午前	田口	田口	田口	田口	田口(※4)	—
	午後	田口	—	田口	—	田口(※4)	—

※入院患者さんの急変や、医師の出張等により変更になる場合もありますので、院内掲示版やホームページ等でご確認ください。
 ※土曜午後・日・祝祭日は、全科休診です。急患はこの限りではありませんので、お電話にてお問合せください。

公益社団法人 地域医療振興協会

公立黒川病院

〒981-3682 宮城県黒川郡大和町吉岡字西楡木60

代表 TEL:022-345-3101 FAX:022-345-3143

地域連携室 TEL:022-745-2444 FAX:022-345-3120



緑風

Vol.29
Jan 2023

すべては地域のみなさまのために

公立黒川病院だより

発行：公立黒川病院

地域連携センター 地域連携室



巻頭言：「志村けん」さん名言集

公立黒川病院 管理者 角田 浩

令和2年3月29日、志村けんさんは、新型コロナウイルス感染症（COVID-19）に伴う肺炎の為に、お亡くなりになりました。子供の頃にはホントにお世話になりました。当時、びっくりしたし、とても悲しく、残念な気持ちになりました。

改めて、志村けんさんについて書かれたものを読むと、しみじみ感じるものがあります。

志村けんさんの名言と思われる言葉を紹介し、私の思いを添えたいと思います。

志村けんさん 名言1

天才なんていないんだよ。強いて言えば努力し続けられる人間が天才なんだ。

— 医療の現場は目立たない、たくさんの人の努力で成り立っています。どの業界でも「継続は力なり」でしょうが、この業界で長く努力し続けている人は確かに「天才」かもしれません。

志村けんさん 名言2

ホメ言葉は重要なコミュニケーションだ。

— 最近、経営、運営がうまくいっている病院の院長先生の講演を聞くことがあります。ほぼ例外なく、職員をほめるのが上手だなあと感じます。

志村けんさん 名言3

笑いがなければ人は生きられない。だから僕は笑いを大事にしたい。

— 動物の中で人だけが笑う能力があると聞いています。怒りながら笑えません。不愉快になりながら笑えません。笑顔の人生をおくりたいですね。

志村けんさん 名言4

ドリフのすごいところは、「一人がウケたらそれは5人全員がウケたことと一緒にだ」と皆が考えていたことなんだ。

— これはほんとに素晴らしいと思いました。患者さんがよくなってスタッフの誰かに感謝してくれたとしたとき、それをスタッフみんなが感謝されたことと一緒にだと思える文化が醸成されていたとしたらそれはとてもよい病院だと思いました。

志村けんさん 名言5

結局道は自分で開いていくしかない、普段から何かをやり続けているから、誰かの目にとまって、声をかけられるんだ。

— 努力を続け、成功された方の重い一言。ただただ合掌。

志村けんさんはじめ世の中のたくさんの偉人になり、今年も少しでも地域に貢献し、自然に他の医療機関と良好な連携できる病院を目指し、努力し続ける所存です。

今年も公立黒川病院をよろしく願いいたします。

着任のご挨拶



外科医師 芳賀 泉

令和4年10月1日より、公立黒川病院に診療部長として着任いたしました、芳賀 泉と申します。宮城県仙台市の出身で、平成2年に東北大学を卒業し、青森県の八戸市民病院で外科研修医として医師のスタートをしました。平成5年に東北大学第二外科（現総合外科）に入局し、臓器移植の研究をするとともに、外科医としての修練を行ってまいりました。その後、宮城県・岩手県・秋田県と東北各地の市中病院で一般外科医として勤務し、平成15年から当院に赴任するまでの19年間、仙台市の独立行政法人地域医療機能推進機構仙台病院で一般外科および腎移植医療に携わっておりました。

今回、ご縁がありまして公立黒川病院外科に勤務することとなりました。前勤務地では、慢性腎臓病等を基礎疾患とする全身状態が決して良くない患者への治療を多く経験し、それなりの対応ができる度胸のようなものがついたと考えています。その反面、専門化した環境に長くいたために、地域市中病院で行う医療の勘が若干鈍っているかもしれませんが、地域医療に貢献できますよう努めてまいります。

また、宮城県人ではありますが、当地域にはあまりお邪魔したことがありませんでした。これからできる限り周辺を散策し、いろいろな発見をしたいと考えています。

地域の皆様のご協力をいただき、当地域に安全・安心の医療を提供できますよう励んでまいります。よろしくお願いいたします。

病棟紹介

一般急性期病棟 2病棟

2病棟師長 伊藤 公恵

一般急性期病棟は、内科・外科・整形外科・泌尿器科・婦人科の5科で、点滴治療や手術治療、内服薬の調整、がん終末期の疼痛コントロールなどを行い、患者様が安心して治療が受けられるよう、安全な医療や看護を提供しています。また、入院中の合併症予防にも積極的に努めています。

入院する患者様の8割は、65歳以上であり患者様一人ひとりが住み慣れた地域で生活ができるよう、入院時より早期退院に向け、患者様やご家族様の意向を尊重し退院支援も行っています。退院支援を行う中では、患者様の残存機能とADL状況の把握が必須です。その中でも栄養と排泄に関する問題が多くあります。栄養では、患者様の食思や嚥下機能の評価が重要であり、そして排泄は入院前の状況と変わることが少なくありません。そのため週1回のカンファレンスを確実にを行い、多職種で情報を共有しています。

退院に関し、急性期治療が一段落し、急性期病棟から直接退院となるケースもありますが、リハビリや退院調整が必要となる場合は、地域包括ケア病棟や回復期リハビリ病棟に転棟します。

黒川圏域における急性期治療を行うため、そして時代の流れに沿った医療や看護を提供することができるよう、多職種の連携やコミュニケーションを強化し、今後も知識の向上と技術の習得に努めていきたいと思っております。



地域包括ケア病棟 1病棟

1病棟師長 佐々木 多恵子

地域包括ケア病棟は、急性期の治療後、回復に不安のある患者さんを受け入れ、安心して自宅や施設で暮らせるまでの橋渡しを行います。

当院または他の病院で専門的な治療・手術をした方、自宅等で入院が必要となった方が、医学的な治療に加え、リハビリや看護師等のサポートにより、再び自宅等に復帰できるようお手伝いする病棟です。それぞれに対象や治療方法が異なることから、入院が必要となった方の病状により、主治医が判断し適した病棟での治療をご提案致します。入院から退院まで多職種スタッフが丸ごと支援いたします。住み慣れた故郷にある黒川病院で在宅の復帰を目指しましょう。

地域包括ケア病棟の特徴

- ・他の病院で高度で専門的な治療・手術を受けた後、早期に退院後の生活復帰を目指した入院が可能です。
- ・医学的治療やケア、リハビリ、栄養指導、薬の調整などに加え、地域のケアマネージャーや多職種と連携し、退院後の生活の準備を同時並行で進めていきます。

- ・内科、外科、整形外科、泌尿器科、婦人科、リハビリテーション科と幅広い疾患に対応することが可能です。
- ・当院には、訪問診療や訪問看護、訪問リハビリ、通所リハビリなど在宅支援チームがあり、退院後も黒川圏域での在宅生活が継続できるよう域内の他事業所と連携してサポートしていくことが可能です。
- ・清潔ケアや排泄ケアなど看護師、介護福祉士による質の高い看護、介護を提供します。

対象となる方

1. 他の病院で高度で専門的な治療・手術を受けた後、引き続き経過観察やリハビリテーション、在宅復帰支援が必要な方
2. 在宅や施設で生活していてけがや病気により入院が必要となった方
3. その他、地域包括ケア病棟で受け入れが可能な疾患の方
4. レスパイト入院

入院期間

地域包括ケア病棟の入院期間は、病気やお体の状態によって異なりますが最大でも60日間で限度となっています。

対象となる患者さんがいましたら是非ご紹介ください。

回復期リハビリテーション病棟 3病棟

3病棟師長 和賀 明美

回復期リハビリテーション病棟は、2004年に介護保険と同時期に制度化されました。

目的はADLを向上して寝たきりを防止し、在宅復帰を促進するというものです。入院してくる患者さんは大きく分けて脳血管疾患や大腿骨頸部骨折、人工関節置換後などの整形外科疾患、更に外科手術後など安静臥床に伴う廃用症候群となります。急性期から引き継いだ患者さんの機能回復や、ADL及びIADLの向上を図り在宅生活へ移行する重要な役割を担います。ですので、必然的に高齢者の割合が高く、当病棟も入院中の年代で、一番多いのが、80歳代となっています。しか

し最近では40歳代から60歳代の働き盛りの年代が、増えて来ている現状もあります。予期せぬ事故や疾患の発症により、突然出来ていた事が出来なくなるという現実、戸惑いや不安を強くします。私達、回復期リハビリテーション病棟のスタッフは、日々のリハビリ、ケアの中で、常に患者さんだけではなく、その家族の思いにも寄り添っていき事が重要です。生活を再構築するための、多岐にわたる退院支援は多職種で連携し、情報を共有しています。

患者さんのこれまでの生活形態、現在、そしてこれからの未来を統合し、生活の再構築に関わる専門職が、専門的な視点で協働していけるように、地域の皆様との連携強化に向け努力してまいります。

外来診療担当表

令和5年1月1日現在
 〈受付時間〉 午前8:00～11:30 午後1:30～4:00
 ※診療科によって一部異なります

診療科		月	火	水	木	金	土
内科 ◆土曜日受付 8:30～11:30	午前	角田・松尾 森下・金澤	南家・横道 筒井 応援医師	角田・松尾 森下・長澤 応援医師	角田・上原 金澤 応援医師	南家・横道 松尾 東北大医師 応援医師	応援医師
	午後	横道・筒井	角田	長澤	東北大医師	応援医師	—
小児科 ※1 第3火曜日午後休診 ※2 第1・3金曜日休診 ◆発達相談予約制	午前	岩城	岩城	岩城	岩城	岩城(※2)	—
	午後	岩城	岩城(※1)	岩城	—	岩城(※2)	—
外科	午前	大槻・芳賀 東北大医師	大槻・松本 東北大医師	大槻・芳賀 東北大医師	大槻・松本 応援医師	大槻・芳賀 応援医師	—
	午後	—	—	—	—	—	—
整形外科 ◆初診受付 8:00～10:30(紹介状必要) ◆再来受付 8:00～11:00(予約制)	午前	田中	東北大医師	東北大医師	田中	田中	—
	午後	—	—	—	—	—	—
婦人科 ※3 午後予約制	午前	相良	相良	相良	相良	相良	—
	午後	相良(※3)	相良(※3)	相良(※3)	—	相良(※3)	—
耳鼻いんこう科	午前	—	—	—	—	—	—
	午後	東北大医師	—	—	東北大医師	—	—
眼科 ◆受付時間 8:00～11:00	午前	東北大医師	—	東北大医師	—	—	—
	午後	—	—	—	—	—	—
皮膚科	午前	—	応援医師	—	—	応援医師	—
	午後	—	—	—	—	—	—
泌尿器科 ※4 第1・3・5金曜日休診	午前	田口	田口	田口	田口	田口(※4)	—
	午後	田口	—	田口	—	田口(※4)	—

※入院患者さんの急変や、医師の出張等により変更になる場合もありますので、院内掲示版やホームページ等でご確認ください。
 ※土曜午後・日・祝祭日は、全科休診です。急患はこの限りではありませんので、お電話にてお問合せください。

公益社団法人 地域医療振興協会
公立黒川病院
 〒981-3682 宮城県黒川郡大和町吉岡字西楡木60
 代表 TEL:022-345-3101 FAX:022-345-3143
 地域連携室 TEL:022-745-2444 FAX:022-345-3120



編集後記

2023年5月にコロナ5類移行となり、これまで制限されていた各種業務が徐々にコロナ前の状態へ戻りつつある中、年報作成担当が決まりました。年報作成にあたり、作業手順など前年までの年報担当者が整備した資料に助けられ時間短縮で進めることが出来たものの、これまで控えられていた、学会・研修会、そして、各種監査などが一気に再開したため、思いのほか時間が取れない状況となりました。そのような中でも原稿作成ご担当の皆様には提出日までにほぼ全て提出をいただきました。この場をお借りし感謝申し上げます。

次版（2023年度）は、コロナ後の通常業務への各対応が記載されることになるかと思えます。また、コロナ禍にて、マイナンバーカードの保険証紐付けや、オンライン資格確認など電子化への移行が進みましたが、地域の皆様にとって、また、病院においても、より良い事柄が掲載されていることを願っています。

令和4年度（2022年度）公立黒川病院年報 第7号

発行日：令和5年12月

発行者：公益社団法人地域医療振興協会 公立黒川病院

宮城県黒川郡大和町吉岡字西檜木 60

電話：022-345-3101

FAX：022-345-3143

印刷：(有) 中村印刷
